



未来の担い手・若者会議U35 活動報告書

平成23年3月

未来の担い手・若者会議U35

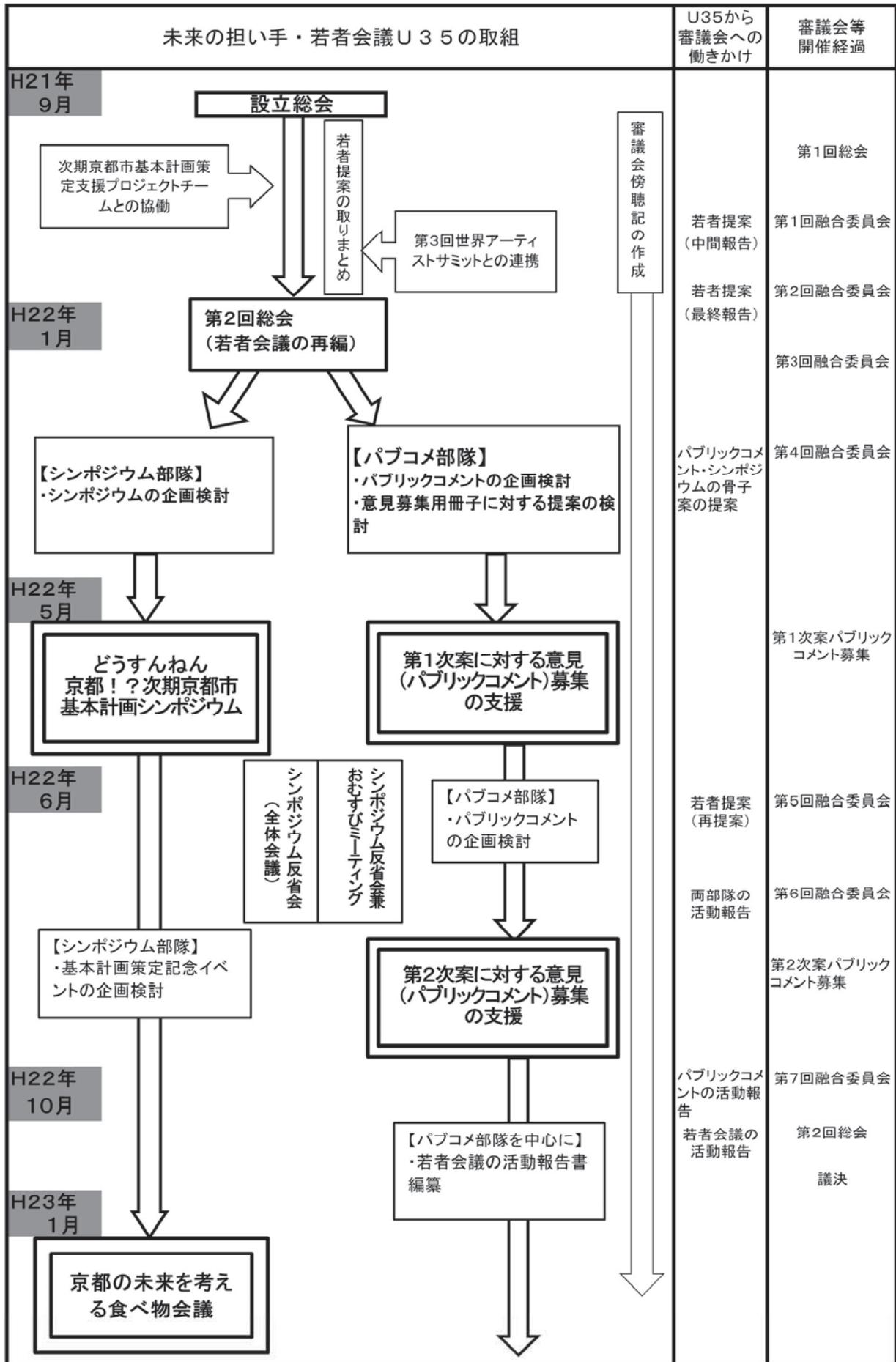


## 目 次

1	はじめに	1
2	未来の担い手・若者会議U35について	2
	(1) 未来の担い手・若者会議U35	2
	(2) 次期京都市基本計画策定支援プロジェクトチーム	2
	(3) U35の活動経過(概要)	2
3	活動内容	6
	(1) 傍聴記	6
	(2) 世界アーティストサミット	7
	(3) 若者提案	8
	(4) 若者会議の再編	12
	(5) パブリック・コメント部隊の活動内容	14
	(6) シンポジウム部隊の活動内容	24
4	まとめ	29

### 資料編

	フォトダイジェスト	1
資料1	未来の担い手・若者会議U35設置要綱	6
資料2	未来の担い手・若者会議U35名簿	8
資料3	未来の担い手・若者会議U35第1回総会配布資料(次期京都市基本計画の策定の進め方)	9
資料4	未来の担い手・若者会議U35第1回総会配布資料(具体的活動内容、スケジュール)	10
資料5	「世界アーティストサミット(ASK)×U35セッション」の概要	11
資料6	若者提案に向けたユニット名簿	13
資料7	京都市基本計画審議会第2回融合委員会報告資料(若者提案)	15
資料8	未来の担い手・若者会議U35第2回総会 プロセスと成果	17
資料9	未来の担い手・若者会議U35第2回総会開催後の部隊編成	18
資料10	パブリック・コメントの企画提案	20
資料11	パブコメ冊子への意見書	21
資料12	シンポジウムの企画提案	23
資料13	京都市基本計画審議会第5回融合委員会報告資料(第1次案に係る活動報告と若者提案の再提案)	26
資料14	京都市基本計画審議会第6回融合委員会報告資料(第2次案に係る活動の提案)	28
資料15	京都市基本計画審議会第7回融合委員会報告資料(第2次案に係る活動報告)	29
資料16	「出前パブコメ」各開催場所ごとのまとめ	31
資料17	食べ物会議 会場アンケートまとめ	38
資料18	U35及びPTメンバーの感想	41



## 1 はじめに

私たち未来の担い手・若者会議U35の主たる役割は、市民参加事業の支援を通じて、市民の皆さんや京都を愛する人々から、京都市基本計画への提案が集まる仕組みを作ることでした。

そこで、未来の担い手・若者会議U35は、京都市基本計画案に対するパブリック・コメントが実施される過程で、新しい取組を企画、実施しました。その結果、非常に多くのパブリック・コメントを集め、京都市基本計画「はばたけ未来へ！ 京プラン」に我々が提案した「真のワーク・ライフ・バランス」が取り上げられ、京都市基本計画審議会や京都市議会における審議において高く評価されるなど、一定の成功を収めた、と考えております。

更に、基本計画策定後も、市民に楽しみながら関心を持ってもらえるようなイベントを開催するとともに、当日の会場では、パブリック・コメントの反映状況を可能な限りお知らせするように工夫しました。

これらの取組を京都ルール、京都モデルとして定着させるために、総合計画という自治体の計画策定プロセスにおける未来の担い手・若者会議U35の位置付け、役割、到達点及び課題を明文化することで、今回の実践が今後続く新しい仕組みとして整理した報告書を取りまとめました。

とりまとめに際しては、まず、「自分たちが生み出したもの」が何かを整理して、それは誰がどうすれば同様に実施できるか、という「計画策定に係る市民参加事業を実効性あるものとするための取扱説明書」とすることに留意しました。また、計画策定の既存ルールを踏まえながら、審議会や行政のニーズを適切に掌握することで使ってもらえる道筋を示すことにも留意しました。

そのうえで、もう一度自らの立脚点に立ち、我々は何を、どのように達成しなければならなかったのかを考え直し、10年後を見越した課題も抽出しようと心がけました。

その結果、今後、計画策定に関わる方々に、未来の担い手・若者会議U35の活動内容を参考事例としていただくとともに、他の計画を策定する際に、また10年後に基本計画を見直した際に、なるほど、その手があったか、あるいは、こうしてはマズイ、ということがわかるものとなった、と考えています。

本報告書が活用されることで、市民とのパートナーシップ（共汗）のもとで計画素案の周知を図りつつパブリック・コメントの収集やシンポジウム・イベントの開催にあたった一連のプロセスとその成果と課題と展望を報告し、特に京都市役所の方々が他の計画策定においても審議会以外のメンバーの組織化に取り組んでよりよい政策策定にあたっていくような結果を起こしていただきたい、というのが我々の願いです。

今後、計画策定に関わる京都市職員、審議会委員の皆さん、市民参画を研究している専門家、更には京都市以外の自治体の関係者に一読いただければ、と願っています。

この報告書は、次期京都市基本計画策定支援プロジェクトチームの協力を得て、未来の担い手・若者会議U35が執筆したものです。臨場感ある報告をお楽しみいただければ幸いです。

## 2 未来の担い手・若者会議U35について

### (1) 未来の担い手・若者会議U35

未来の担い手・若者会議U35（以下「U35」）は、平成21年9月24日に京都市長からの委嘱により設置された「行動する」審議会です。

設置要綱には、次の2つの設置目的が掲げられています。（詳細は資料1参照）

- ① 若者ならではの観点から、京都市基本計画「はばたけ未来へ！ 京（みやこ）プラン」<sup>1</sup>（以下「基本計画」）について意見を取りまとめ、京都市に対して提出すること。
- ② 策定の過程において広範な市民参加を得るために京都市が実施する事業を支援すること。

京都にゆかりのある、概ね35歳未満の若者26名（平成22年12月より25名）で構成され、妙心寺塔頭・退蔵院副住職の松山大耕氏が議長を務めました。（詳細は資料2参照）

### (2) 次期京都市基本計画策定支援プロジェクトチーム

U35と共に活動したのが、京都市の若手公募職員で構成される次期京都市基本計画策定支援プロジェクトチーム（以下「PT」）です。

U35の設置に先立つ平成20年9月に設置され、平成20年度は若手研究者を中心に構成される「未来の京都創造研究会」と共に、基本計画の枠組み等の基本的な在り方や、未来像・重点戦略案を検討しました。

その後、基本計画策定が本格化した平成21年9月からは、U35との活動を開始しました。

当初は30名で構成していましたが、その後、人事異動等を経て、平成21年9月には15名となりました。

### (3) U35の活動経過（概要）

U35の活動期間は、設置から平成21年12月までの「前期」、平成22年1月から平成23年3月までの「後期」に分けられます。

前期は、6つのユニットに分かれ、基本計画に対する意見を取りまとめ、京都市基本計画審議会<sup>2</sup>（以下「基本計画審議会」）に提案しました。また、第3回世界アーティストサミットに参加した若手アーティストとの意見交換も行いました。

後期は、主にパブリック・コメント部隊（以下「パブコメ部隊」）とシンポジウム部隊の2つの部隊に分かれ、基本計画の策定過程における市民参加事業の実施支援に取り組みました。

この活動を補足するために、メンバー間の親睦を深めるための宴部隊、情報共有

<sup>1</sup> 京都市基本構想に基づく第2期の計画で、平成23年度から10年間の都市経営の基本となるもの。平成22年12月10日に議決された。

<sup>2</sup> 基本計画の策定に向けて調査・審議するために市長から諮問を受けた審議会で、京都の各界の代表者70名で構成。審議会としての意思決定を行う委員全員による「京都市基本計画審議会（総会）」、京都の未来像・重点戦略の審議や部会間の調整等を行う「融合委員会」及び、4つの分野に分かれて専門事項を調査・審議する「共汗部会」で構成。

のためのブログ部隊も設置されました。

後期のスケジュールとしては、まず、第1次案に対する意見募集（パブリック・コメント<sup>3</sup>（以下「パブコメ」））期間（平成22年5月～6月）及び第2次案に対する意見募集期間（平成22年9月）の両期間に、シンポジウムの実施やパブコメ聴取の支援に取り組みました。その後、平成22年12月に基本計画が策定された後には、基本計画周知イベントの実施（平成23年1月）や活動報告書の制作に取り組みました。

次章では、このように多岐に渡るU35の活動について、個別に内容を説明します。

---

<sup>3</sup> 計画の策定段階で、広く市民から意見を募集し、寄せられた意見を踏まえて意思決定を行う手続きのこと。

## 〔U35 & PT〕それぞれの視点

### U35の果実、その土壌を耕す仲間。

同志社大学准教授 山口洋典

平成21年7月24日。U35「若者会議」の種は、この日に蒔かれました。その種に対して多くの方々が水をやり、やがて芽が出て、花が咲いていきました。さしずめ、その花を2回のシンポジウムの開催と、2度にわたるパブリック・コメントの充実を重ねるとするなら、U35の活動の「果実」は、基本計画審議会によりとりまとめがなされた「基本計画」そのものなのでしょう。

冒頭に掲げた日に何があったのか。想像のつく方も多いでしょうが、その日、京都市役所庁内の会議室にて、若者会議設立のための準備会議が開かれたのです。その後、8月20日に2回目の準備会議が開催され、9月24日の総会にて設立がなされました。その後の動きは、別稿にて詳しく記されることとしますので、ここでは若者会議の設立前史について、触れておくこととします。

準備会議において、特に論点とされたのは、基本計画に若者の意見を反映していく方法と、そのための枠組みでした。そもそも京都市では、地方自治法で策定が義務付けられた基本構想を着実に具体的に推進するため、基本計画を定めることとしています。そして今回、京都市は、次の10年を見通す10年に1回の計画づくりにおいて、若者ならではの観点を積極的に盛り込む方針が打ち出されました。私は大学で「政策」の名がついた所属を持つということ、また、年齢面でもU35であったこと、さらには京都市の政策企画課による京都市の新任職員研修の講師を務めさせていただいたこと、それらのご縁により、準備会議のメンバーに起用いただきました。

準備会では、若者が若者のためだけではない議論を行い、しかもその内容が基本計画に反映されていくために、どのようなルール(手順)、

ツール(道具)、ロール(役割)を定めればいいのか、静かだけれども熱い意見が交わされていきました。当日の議事録を紐解くと、「責任感」や「緊張感」といったことばが目につきます。それぞれに観念的なことばと思われるかもしれませんが、よりよい未来を創造する上で、言わばなしにしない、常に場を開く、そうしたことが重要となることを、早いうちから確認していました。そして、そのためには、定められた役割を担う「グループ化」よりも、目的達成のために相互に役割を定めて積極的に動いていく「ユニット化」が鍵となるのではないか、ということも当初の段階から確認されていました。

こうして立ち上がったU35「若者会議」は、テーマ別の「フォーラム」が組織され、その後は目的別の「タスクフォース」として、それぞれのユニットが活動を展開しました。私は、準備会議から携わったこともあって、最初のフォーラムでは「マニフェスト」を発表する役目を頂戴しました。また、続いての再編成では「シンポジウム」と「パブリック・コメント」の機能別、そして「宴」と「ブログ」の形態別のユニット化への進行役を担わせていただきました。その後の関わりは、決して濃いものではなかったことを自省しておりますが、その反面、多くの方々が積極的に言葉と動きを重ねていたことに敬意を表したく存じます。

なぜ、最終の報告書に、このような背景部分を延々と書いたのか。それは、活動を終えるにあたり、元来「声を掛ける人がいなかったら、今がない」ということを記しておきたいと考えたためです。実際、平成21年の7月24日の段階では、松山議長と安田先生と私だけが外部のメンバーで、あとは大田部長、林課長、仲筋係長、戸倉さんという、京都市役所側のメン

パーでした。ここからメンバーが広がり、そして場を共有することを通じてつながりが生まれ、そして一定の広がりをもたらされてきました。

植物は水をやりすぎても腐りますし、水が少なければ枯れます。実にいい案配で、U35は果実をもたらしました。果たして、その実の種

が、次の場でどのように育っていくのでしょうか。少なくとも今、言えるのは、育つ土壌を共に耕していく仲間づくりではないかと思い、このU35に集った人々が、まわりの人々に声を掛け、新たなつながりと広がりが生み出されることを切に願っています。

### 3 活動内容

#### (1) 傍聴記

U35のメンバーが基本計画審議会を実際に傍聴し、その結果を市民と市職員にレポートする傍聴記を発行し、京都市のHPに掲載しました。

傍聴記のキャッチコピーとして、「今年は10年に一度の、京都市の10年後を考える年です。市政をよく知り、よく考え、利用し、参加し、仲良くなろう」という1文を毎号掲載するとともに、審議のポイントをイラストとともに紹介するなど、分かりやすい内容とするよう工夫しました。

10年後の自分と、京都のまちの、ミライとモンダイを考える。

U35のメンバーが市民にわかりやすくレポートします！

## 傍聴記 vol.1

第1回総会  
議題:この審議会の概要

レポーター 船山大輔さん  
1975年 京都府生まれ  
2003年 東京大学大学院  
農学科学系農学専攻 修士  
卒業。京都府立総合政策大学で  
勤務。2007年より10年連続  
副市長、市長、元文化庁  
長官 担当

**Q1. この審議会は、なんのための会？**  
A1.  
京都市の今後10年について、何を目標するのか、どう進むのかという、文字通り、京都市の今後10年を決める上での基礎になる方針(=京都市基本計画)を検討する会議です。門川市長が目標とされている、市民と市議員の徹底した参加による共汗で作り上げていくので、老若男女、様々な分野から、第一線で活躍の皆様が参加されています。

**Q2. どんな人が、どんな話を話し合うの？**  
A2.  
各分野で活躍されている専門家の方々や市民から公募で選ばれた方などが審議に参加されます。その方たちが分野ごとの以下の4つの部会と分野横断的な「融合委員会」に分かれて議論します。  
・「うるおい部会」:文化・環境・市民生活分野など  
・「活性化部会」:産業・観光・行政経営分野など  
・「すこやか部会」:福祉・保健・教育分野など  
・「まちづくり部会」:都市計画・住環境・都市基盤分野など

**Q3. 京都市民の暮らしとどう関わり合うの？**  
A3.  
計画については、まず第1次の計画案を出します。それに対してパブリックコメント※(パブコメ)を行い、市民の方々のご意見を伺います。これをもとに第2次の計画案を提出し、再びパブコメを行った後、最終的に審議会が基本計画の審議を行います。市民生活に密着したよりよい計画にするために、パブコメや会議傍聴などを通じ積極的な参加が望まれます。  
※注1 パブリックコメント=行政が計画や条例などを制定するときに、広く市民(パブリック)の意見や情報を求める手続きのこと。

今年度は10年に一度の、京都市の10年後を考える年です。  
市政をよく知り、よく考え、利用し、参加し、仲良くなろう

発行:京都市 編集:未来の担い手・若者会議U35

10年後の自分と、京都のまちの、ミライとモンダイを考える。

U35のメンバーが市民にわかりやすくレポートします！

## 傍聴記 vol.23

第5回 活性化部会(産業・観光・行政経営分野)  
報告日:平成25年4月12日(月) 会場:本庁市民活動室  
傍聴者:若者会議U35(市民活動分野)・行政経営分野、行政経営分野、行政経営分野

レポーター 藤城 穂代さん  
金沢大学コーポレート・マネジメント学  
部で生活文化を次世代に伝えると共に  
伝統産業・観光振興のレポートも、  
「私と京都のマニフェスト」市民委員

**POINT 1 「第1次案」に向けた意見の調整**  
例えば「大学の在り方」について、「実施された、大学がなくなるとする大学のまち・学生のまちにしたいためか、それとも京都のポテンシャルに魅力を感じて人が集まるまちにしたいのか」など、先出の意見の確認や修正を行いつつ、第1次案として発表する為、よりシンプルでメリハリある案を形成しようという議論がありました。

**POINT 2 上質な旅の提供を観光都市としての質を向上**  
5000万人観光都市を実現した京都ですが、観光期の宿泊施設や観光の大きな課題は数々が不足しているという問題を抱えています。現状と課題を踏まえ、ハードを整備し、高品質の集まる質の高い観光スタイルの提供を「第1次案」に盛り込むべきではないか、との議論がありました。

この会議を通して  
清潔なまちが  
実現すること

未来に向けた  
清潔なまちの  
提案

2チームに分かれての意見調整でしたが、時間を経過後白熱した議論が繰り広げられました。特に印象に残ったのは、観光化を進めることにより、CO2排出が増える、と言う審議会内での議論であるのに矛盾が生じるという点でした。分野間の調整の重要性を感じました。またよりつつある意見をもう一度洗い直し、より良い「ことば」を構築して改めて話し、委員の方々の京都に対する熱い思いを感じました。だからこそ課題に上ったのでしょうか、資料の中に私を含め、一般市民には関係ないと思われる言葉がまだまだ見受けられるので、検討してほしいと思います。

京都の産業を活性化するために、次世代の子供たちへ京都の伝統産業の良さを伝えることは、大変重要な事です。たとえば、バスや地下鉄の乗降シートに高輝度LEDを使った、漆を使ったつり傘などを採用した伝統工芸品を走らせるのはどうでしょうか。子供の好きなバスや電車に京都の産品が使われ、喜ぶことで身近に感じられるのではないのでしょうか。同時に、観光客の目にもふれるので、同時に京都ブランドを知っていただける機会となり日本中に、世界中に発信されると思います。

今年度は10年に一度の、京都市の10年後を考える年です。  
市政をよく知り、よく考え、利用し、参加し、仲良くなろう

発行:京都市 編集:未来の担い手・若者会議U35

傍聴記は35号まで発行。21号からは、若者会議のロゴを加えるなど、デザインを一新しています。

## (2) 世界アーティストサミット (詳細は資料5 参照)

世界アーティストサミットとは、世界が直面する深刻な問題に対し、アート・デザインの想像・創造力によって解決策を提案し、「芸術による平和創造」を目指すイベントで、平成17年から2年毎に開催されています。今回の第3回目では、世界で活躍する6名の若手アーティストのほか、これからの時代を担う若い世代からも参加を募り、様々な新しい試みが実施されました。(詳細は資料5 参照)



この中で、意見を取りまとめるに当たって、グローバルな視野で斬新な意見を聴取することを目的に、U35との連携事業が実施されました。

まず、平成21年12月8日に「キック・オフミーティング」と称してU35のメンバーと若手アーティストが顔合わせを行うとともに、「京都らしさ」、「環境」、「少子高齢化」の3つのテーマ別のグループに分けられました。

iAT京都大学国際交流サークルの協力を得て、それぞれのテーマに関連する施設を訪問したうえで、平成21年12月14日に各グループが考案した政策の発表と意見交換が実施されました。



“香りのアーティスト”上田麻希さんは、錦市場などでアロマスケープ(においのツアー)を実施し、京都のまちの「におい」を地図上にプロット。上田さん曰く、「京都は、町家暮らしやアンティークショップからのにおいなど、東京のオフィス街にはない豊かなにおいが感じられるまちです。」



映画監督であるナリンとケンが、デイケアセンターを訪問。ケンからは、「高齢者は施設に満足しているが、家族と会えず、さびしそう。家族と暮らせる方法をCMやドキュメンタリーとして流しては。」との提案が。

### (3) 若者提案

設立総会で出会った私たちが一番初めに取り組むべきタスクは「若者の観点による提案を基本計画に反映する」ための「若者提案」を行うことでした。総会当日に松山議長をはじめ6人のメンバーが自分と京都の夢やそれを実現するためのロードマップを記載した「私と京都のマニフェスト」を発表し、その内容に賛同する他のメンバーがそれぞれに分かれる、ユニット分けを行いました。(詳細は資料6参照) 京都と自分自身の10年後がどのようなようになってほしいか、いろいろな思いを持ったメンバーが6つのユニットに分かれ、その日のうちに京都について問題関心のある内容を議論し始めました。



総会後は、第1回、第2回の融合委員会へ「若者提案」を行うために限られた時間での作業が必要でした。仕事や授業などが終わってから会議をするためにユニットごとに集まって、京都の未来像と重点戦略について議論していきました。週1回、2週間に1回…ユニットによっては日が変わるまで議論が続くこともありました。

京都の若者の代弁者としてU35ができる提案は何か。また、実際に策定される基本計画を推進していくための「未来の担い手」という立場からどのような政策を提案すべきか。たくさんの資料やデータを見ながら普段の生活や仕事から感じることを語り合いました。メーリングリストにて各ユニットの議論の内容を報告したり、各ユニットの代表者が集まり、会議を行ってユニットごとの議論を若者会議全体の提案として取りまとめを行った上で、2度にわたり融合委員会で松山議長から「若者提案」を行いました。

まず、平成21年12月22日に開催された基本計画審議会第2回融合委員会において、基本計画審議会の委員も務める松山議長が、『仕事』、『家庭』、『社会貢献』の3つを充実させる人を『一流の社会人』と考える真のワーク・ライフ・バランスの推進が重要である」などの提案を行いました。



第5回融合委員会において、真のワーク・ライフ・バランスを再度提案する松山議長と越村副議長

(詳細は資料7参照)

平成22年5月に取りまとめられた基本計画第1次案では、重点戦略に「仕事と生活が調和し男女が共に子どもを育てる社会」として「子育て」の観点でワーク・ライフ・バランスに関して記述されていましたが、第1次案のパブコメ期間中における市民との対話を通じ、これを一步進めて、「社会貢献との調和や多様な働き方を実現するような戦略」が必要である、と考えました。

そこで、平成22年6月29日に開催された第5回融合委員会において、再度、「真のワーク・ライフ・バランス」を第2次案の検討に向けた審議課題としたい旨を提案したところ、他の審議会委員から高い評価を受け、重点戦略だけでなく未来像にも位置付ける方向で検討が行われることになりました。(詳細は資料13参照)

平成22年8月9日に開催された第6回融合委員会において、正式に未来像と重点戦略に位置付ける案が承認されて以降、最後まで「真のワーク・ライフ・バランス」は残り、「はばたけ未来へ! 京プラン」の特徴として評価されています。

このように、今、実際に必要と感じる政策提案を未来の担い手として、U35が自ら行い、基本計画案に反映させていく活動を通じて、より多くの市民に基本計画を知ってもらいたい、何か意見を出してもらい一緒に基本計画を作っていきたいという思いが次のタスクフォースでの活動へとつながっていったと思います。

## 〔U35 & PT〕それぞれの視点

### 「真のワーク・ライフ・バランス」は、 多様性を受け入れること

「私と京都のマニフェスト<sup>4</sup>」優秀賞受賞者 野添幹雄

深田ユニットでは、社会起業をキーワードに集まった色んな意味で濃いU35メンバー3名、濃いPTメンバー3名が主体的にユニット活動を進めてきました。発足当初、メンバーの描いた「私と京都のマニフェスト」を基に、ユニットとして2020年に築きたい価値観を提案する目的で議論をはじめました。共通価値観を見出すために、まず各々が描くマニフェストから築きたい未来像を挙げ、共感できる未来像をお互いに把握することから始めました。その中から、2020年には「ワーク・ライフ・バランスが当たり前になっている」「子育て支援やネットワークが充実している」「魅せられた人々が続々と入浴するまちになっている」などの共通価値観が浮かび上がり、仕事の充実、生活の充実、京都の特色の充実を目指す未来像について議論を深めました。「ワーク・ライフ・バランス」という言葉には、仕事（会社）と生活（家庭）の調和をはかるという意味から、ともすれば両者を天秤に掛け、仕事（労働）時間を短くし、生活（余暇）時間を長くするというイメージがないか、という議論になりました。しかし、目指すべき「ワーク・ライフ・バランス」とは、仕事と生活を切り離して天秤に掛けて考えるのではなく、仕事も生活も充実するためにその垣根を除いて豊かな人生を築いていくイメージであり、一般的な用語との明確な違いを打ちだそうと、「真のワーク・ライフ・バランス」という言葉を用いることとしました。

ユニットの議論は放談が多いと噂されていましたが（笑）、10年間でいかほどのことが変わるのか？10年前は今ほどエコとか低炭

素社会に対する社会的意識が構築されていなかったし、10年間では大きく変わるんだ！というところから議論をはじめて、共通価値観という素材について様々な方向からの議論を行い、ユニットの10年後の未来像として創り上げました。中間報告までの議論では、「多様性を力にできる知恵のまち」、「ソーシャルビジネスの意識をもった公務員と市民のまち」という2つのマニフェストを立ち上げました。この時点で、「真のワーク・ライフ・バランス」「魅せられた人々が続々と入浴するまち」の実現に向けて、「多様性」「公務員と市民のタッグ」が共通認識として拳がり、ユニット未来像としての根幹となりました。

さて、ユニット未来像の最終提案として、  
未来像：『「仕事」「家庭」「社会貢献」の3つを充実させる人を『一流の社会人』と考える真のワーク・ライフ・バランス推進都市』すなわち『「多様な生き方がある」ことを認める社会にする』

未来像：「市役所がまちのリーダー育成所として機能するまち、未来型の番組の仕組みが機能し町衆力とまちのアイデンティティが向上していくまち」すなわち「京都人が先駆けるまち」

を掲げました。

仕事と生活の垣根を取り、三つ目、四つ目の価値を人生に見出し暮らしていける真のワーク・ライフ・バランスを推進するためには、どのような社会構造が望ましいのか？という点について議論を進めた結果、一つの勤務形態マジョリティ（8時間×5日間/週）にとらわれず、IT化により達成される職住一体の勤務形態や、ワークシェアリング、複数の勤務先を持つ勤務形態など、多様な働き方を認める社会構造の構築を目指すこと、また、仕事に限らず、社会貢献、生活基盤についても多様化する中で、多様なライフスタイルを認める社会構造の構築を目指すことが重要であるとまとめました。

4 概ね15歳以上35歳未満の若者を対象に、夢やそれを実現するロードマップを記載する「私と京都のマニフェスト」を募集

確かに後に指摘があったように、仕事、生活、社会貢献のすべてを満たす人が『一流』との表現は、若者提案としても過激な表現であったかもしれません。しかし、「一流の社会人」のモデルとして掲げること、全体の視点が多様性を認める方向に進むことを期待した表現であると理解いただきたいと思います。

「京都人が先駆けるまち」は、京都というまちの魅力、アイデンティティはどこから来たのかという議論から生まれてきました。ユニットが出した答は「人の集まり」すなわちコミュニティでした。京都においては、市民と行政が一体となったコミュニティが台風の目となり、多様な文化を創造してきた事例が多くあります。この特性をもっと生かすことができれば、より

魅力あるまちへと自然となると考えました。それでは、台風の目は何だ！と考えたとき、物事を動かす力、人を引き寄せる力を持っている「カリスマ性のある人」、すなわち「カリスマ公務員」と「カリスマ市民」が周りの空気を引き寄せ風を起こすのだと結論しました。

まだまだ生まれてきた成果は小さく少ないかもしれませんが、これまでのU35メンバーとPTメンバーの活動は少しずつ風を起こしはじめていると期待します。

本コラム執筆に際しまして、深田ユニットの濃いメンバー、深田さん、飯田さん、古川さん、牧澤さん、栃尾さん、事務局戸倉さんには大変お世話になりました。ここに感謝申し上げます。

#### (4) 若者会議の再編

基本計画に対する意見が取りまとめられたことから、平成22年1月12日に第2回総会を開催し、若者会議をシンポジウムを企画するシンポジウム部隊と、効果的なパブコメの実施方法を検討するパブコメ部隊に再編しました。(詳細は資料8参照)



ワークショップ経験の豊富な山口委員の進行により、シンポジウム部隊とパブコメ部隊にグループ分けされました。



総会の場でこのような部隊の編成を行うこととなったのは、第1次案を市民に問いかけていく方法が、シンポジウムとパブコメのあいだで大きく異なるためでした。具体的には、シンポジウムは意見を募る「仕掛け」に、パブコメは意見を募る「仕組み」に、それぞれ力点が置かれる必要がありました。そこで、それまでの市政への関心に基づいた「ユニット(集団)」という観点ではなく、具体的な任務を担う「タスクフォース(前線部隊)」という性格づけがなされました。

再編は次の手順で行われました。まず、既存のユニットから、どのようなテーマがどのように議論され、その中で内容として深まらなかった点と方法としてうまくいかなかった点などの課題が発表されました。続いて、前述のとおり、テーマごとの集団から、機能ごとの前線部隊を組織して、個別具体的な役割を担っていく必要があることが確認されました。そして、両者のどちらかに所属しなければならない、ということを経験条件として、2つに分かれることにしました。しかし、直ぐに決断できない人たちについては、まずは熟慮する時間をつくり、両部隊へと分かれていけない人たちどうして、なぜ、どちらかに直ぐに動けないかの意見交換がなされることになりました。

なお、率先してどちらかの部隊に所属することを決めた人たちは、簡単な自己紹介と既に何をしたいと考えているのかについて意見を発表していきました。それらが何人かによってまとめられ、まだ決めかねる人たちへの参加の呼びかけが行われました。

もともと「タスクフォース」ということばは、軍隊においてよく用いられます。さしずめ、今回の再編にあたっては、U35の委員が、未来の京都をよりよい形にしていく「志願兵」とも言えるような、率先した意欲と行動が功を奏しました。その後、全員がいずれかの部隊に自らの意志で所属することを決めた後、各部隊で名簿作成、スケジュールの確認、アイデア出し、次回と次々回(2回先まで)の予

定を決め、散会となりました。

ちなみに、総会の後半では、2つの部隊のより密接な連携を図るために、「宴」と「ブログ」を担当する小部隊も、各部隊の有志から編成されました。こうして編成された2つの部隊と2つの小部隊は、2回のパブコメと、平成23年1月イベントまで、維持・発展していきました。(詳細は資料9参照)

## (5) パブリック・コメント部隊の活動内容

U35のパブコメ部隊は、基本計画の策定過程で行われたパブコメの実施（第1次案：平成22年5月21日～6月20日、第2次案：平成22年9月6日～9月27日）を支援しました。週1回ペースで行った会議のほか、メーリングリストを活用し、多くのアイデアを出し、協議し、実行に移しました。ここではその全取組及び課題を紹介します。

### ア 会議

パブコメ部隊は平成22年1月から平成23年3月までほぼ毎週会議を行いました。（合計約40回）また、実際に顔を合わせる会議のほかメーリングリストも活用しました。

まず「パブコメの実施を支援する」という役割について、具体的に何をすればよいか自分たちにどれだけの裁量があるのかを整理することがパブコメ部隊のスタートでした。そこで、最初に京都市の総合企画局の担当者を交え、パブコメの制度について学ぶ機会を設けました。

次に内容についてブレインストーミングなどを行い、「次期京都市基本計画 パブコメの企画提案」をまとめました。（詳細は資料10参照）

ブレインストーミングでは、「形式だけのパブコメはしたくない」「パブコメを選挙と並んで市民の意思を示す手段に」など、積極的な意見が出され、2つのコンセプト「1 攻めのパブコメ、2 対話のパブコメ」と2層のターゲット「A パブコメの存在を知らない市民、市政に関心のない市民 B 市政に関心があるが意見を書かない市民」というかたちで方向性を整理しました。

方向性が決まったあとは、担当を決め具体的な協議に移っていきました。メーリングリストと会議は、その都度発生する問題について、メンバー内の情報共有と協議の場として機能し、第1次案、第2次案、報告書の制作まで安定した運営を行うことができました。



パブコメ部隊の会議風景



「見える化」されたメンバーの意見

### イ 具体的な取組について

ここでは、パブコメ部隊で具体的に協議し、実行した取組について、実現できな

かったことも含めて紹介します。

## (ア) 周知のためのキャンペーン

### a パブコメくん

パブコメのマスコットキャラクターパブコメくんを制作しました。(詳細はP18 [U35 & PT] それぞれの視点③参照) パブコメをコメ(米)とかけて、お茶碗にご飯を盛った姿となりました。

### b パブコメくんグッズ、パブコメの歌

ノベルティによるパブコメの周知及び意見収集効果を狙い、パブコメくんになんだキャンペーングッズの制作を検討しました。エコバッグやシールなど様々なアイデアが出されましたが、どの取組の際にどのように使用するか、費用対効果があるか、等の検討の結果、適切なコストが見出せず作成を断念しました。

また、パブコメをテーマにした歌の制作も検討しましたが、誰にどう制作依頼するのか等の議論が深まりませんでした。

なお、オリジナルグッズは断念しましたが、京都文化祭典オープニングイベント及び京都音楽博覧会の出前パブコメで、意見を書いていただいた方へボールペンや風呂敷など京都市で制作したグッズを配布したところ、好評を得ました。使用方法によってはノベルティグッズが意見提出につながるという結果を得られました。

### c プレゼント企画

パブコメを書いていただいた方に市指定のゴミ袋やトラフィカ京カード(市バス、地下鉄カード)を抽選でプレゼントするキャンペーンを検討しました。

市指定のゴミ袋について市当局へ照会したところ、「ゴミ処理に係るコストをゴミを出した本人から徴収するという税金に類する性格を持っており、税金と同様の考えが適用されるため、プレゼントに適さない」という回答があり、実現を断念しました。

また、トラフィカ京カードについても協議しましたが、その過程で匿名が基本のパブコメ制度で、後日抽選という方法を採用することが大変困難であることが判明し、提案を断念することになりました。

### d キャッチコピー

キャンペーンの一環として「京都の未来に意見しよう!」というキャッチコピーを考案し、公開ブログのタイトルやのぼりを制作するなど様々な機会に使用しました。

### e メディアの活用

京都市発行の市民しんぶん、地下鉄車両内での広告掲示、テレビ、ラジオなどメディアを大々的に活用したパブコメキャンペーンを実施する案も協議しました。大々的にとまではいきませんでした。シンポジウムの広報と同時に行うことで一定効果のあるメディア活用ができたと考えています。

### (イ) パブリック・コメント募集のための冊子へのアイデア提供（詳細は資料11参照）

当初、「第1次案の概要版」制作にアイデア提案書をまとめ、基本計画審議会へ提案することを目的にしていました。しかし、状況が変わり基本計画審議会から、5つの未来像や審議過程を視覚的に表現するためのページデザインを全面的に依頼され、U35の会議で考えることになりました。

従来型の冊子が文字中心で意見募集段階でありながら、すでに出来上がったもののような印象を与えるものだったことから、視覚的なイメージを大切にし、未完成であり意見を求める冊子であるという性格を強調したデザインを提案しました。

しかし、概要版がパブリックな性格を持つものとして、「分かりやすさ」や「目を引くデザイン」のみを強調できない場面もあり、U35の立場としてどこまで意見やアイデアを反映できるのか、バランスをとるのが難しい取組でした。

### (ウ) 出向型キャンペーン

これまでのパブコメの多くが、中間案を印刷物やホームページで公開し、ファックスやインターネットで意見を受け付けるという〈待ちの姿勢〉で行われてきましたが、U35では「自分たちが積極的に意見を取りに行く」という〈攻めの姿勢〉を大切にしました。

「攻め」と「対話」という2つのコンセプトがより濃く活動に反映したのが、この出向型のキャンペーンでした。U35パブコメ部隊の代表的な取組といえます。

この出向型キャンペーンを行うにあたり、市民向けにフライヤーを制作しました。B5を2つ折りにした形態で、表紙はお米型の意見提出シート、内面はU35の説明、裏表紙はパブコメ提出方法を掲載し、パブコメ部隊の活動をコンパクトに伝える工夫を凝らしました。

#### a 常設型パブコメ巣箱（詳細はP20〔U35 & PT〕それぞれの視点 参照）

まず、区役所や駅などに意見を視覚化する「パブコメの木」を置くことを検討しました。紙に書いた木のモチーフに実の形をした意見を貼ったり、植木を置き意見を七夕の短冊のように括りつける案などが出されましたが、防犯上の理由などから、木製の意見箱へと変化していき、最終的には「パブコメ巣箱」として実施しました。第1次案で駅ナカなど21箇所、第2次案では24箇所に設置し、パブコメくんとともに、パブコメ募集のシンボルとなりました。

また、「パブコメの木」の意見が集まる様子を可視化しようというアイデアは出前パブコメ時にお米型のシートに意見を記入して、パブコメくんの台紙に貼る取組や、寄せられたパブコメをインターネット上でつぶやく「パブコメくんツイッター」に引き継がれました。

#### b イベント型 出前パブコメ（詳細はP22〔U35 & PT〕それぞれの視点 参照）

イベント型は「出前パブコメ」と名付け、対話型の取組として、出前先の状況に応じたスタイルを考案しました。第1次案では10箇所（集まった意見合計

90人・185件、人数ベースで全体の約28%) 第2次案では8箇所(集まった意見合計404人・605件、人数ベースで全体の約70%) という目に見える結果を得ることができました。

## (エ) 審議過程の可視化、意見の反映

「何のためのパブコメで、自分の書いたパブコメが本当に活かされるのか。」この市民の問いに対してどう答えるのか、どう分かりやすく伝えるのか、パブコメ部隊の大きな課題でありましたし、パブコメ制度そのものの課題ともいえます。十分に達成できたとはとても言えませんがいくつかの取組を行いましたので、ここに記しておきます。

### a 傍聴記の活用

U35の取組として若者目線の基本計画審議会を傍聴した「傍聴記」を発行しました。出前パブコメの際には会場に掲示することで、市民の皆さんへ審議過程を公開することに一役買いました。京都市のホームページでも公開していましたが、認知度が高かったとは言えず、「傍聴記」の活用には課題が残りました。

### b インターネットの活用

「京都の未来に意見しよう！」という公開ブログを設置し、U35で管理しました。出前パブコメの様子などを写真入りで公開したり、京都市のホームページで公開されている基本計画の取組を紹介するページにリンクを張るなど、インデックスとしての機能も持たせました。

しかし、更新回数や内容には課題が残りました。具体的には、テレビ、新聞等の報道と連動した動きをつくったり、メンバー自身が持つホームページ、ブログ等との連携がもっと活用できたら、より効果的に動くことが可能であったと考えます。

また、先進的な試みとして、ツイッターをパブコメくんで登録し(<http://twitter.com/kyotomirai>)、京都音楽博覧会での出前パブコメでは、了解を取った上で、会場でいただいたパブコメをそのままつぶやきました。

さらにメンバーのつぶやきにハッシュタグ#kyotomiraiをつけることで、U35メンバー個人の考え方や行動が公開されるように工夫しました。ツイッターの活用は、出前パブコメの参加者へのフォローや食べ物会議の告知などに一定効果を上げたと考えています。

### c 意見募集結果の公開

第1次案に寄せられたパブコメが、第2次案でどう反映されたのかを知らせるために、従来ホームページでのみ公開していた資料を、パブコメ巣箱とともに地下鉄主要駅等に設置しました。また、寄せられたパブコメが基本計画に反映されたことを分かりやすく提示するため、資料の一部をパネル化し、平成23年1月に開催した「食べ物会議」の会場で公開しました。

〔U35 & PT〕それぞれの視点

パブコメくんの作成について

～おいしいパブコメくんの作り方～

上下水道局下水道部管理課 天辰公彦

パブコメ部隊が設置され、こういった活動をしていくのかをメンバーで話し合ったところ、「そもそも、みんなパブコメって知らないだろうなあ」というのが共通認識でした。そこで、何か少しでも市民の方に**興味をもってもらう**フック(引っかかり)になるものが作れば、と考えました。ブレインストーミングの結果、「**マスコットキャラクター**をつくる」との提案がありましたが、当初、具体案は全くありませんでした。

しかし、メンバーの1人が紙に貼った「**パブコメ**」とだけ書いてある茶碗のデザインを基に、マスコットキャラクターの作成が始まりました。

大まかなデザインはメンバーが直感で描きましたが、(そもそもすごく簡素ですが)細部が悩み所でした。神は細部に宿ります。時流はゆるキャラなのでその方向に違いはありませんでしたが、将来的には「**ひこにゃん**」や「**せんとくん**」に肩を並べるような**キャラクターに育てたい**ので彼ら2人には無い特徴を出していければと思いました。「ひこにゃん」や「せんとくん」はデザイン的にはインパクトもあり非常に優れていますが、子ども達には書きにくい! 私たちよりも先の未来の京都を担う世代にパブコメくンを落書きしてもらい、パブコメという言葉が自然と浸透できるようになればという願いを込めました。また、何か全体的に丸いのが好印象なんじゃなかろうかと考えデザインしました。

右上がりの緩やかな形は、京都も緩やかでいから発展して行って欲しいという願いを少し込めています。でき上がったものをメンバー全員で確認し、「手が無いとハンパティー・ダンパティーに見える」との意見を受けて手を加

えるなど、何回か修正を重ね、今の状態に落ち着きました。生い立ちはこんな流れです。ここからは彼の活躍ぶりに焦点を当てていきたいと思います。

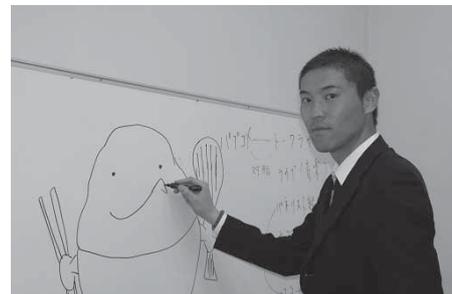
パブコメくンを媒体とした基本計画の周知や広報活動は様々な形態で行いました。

まずハード面として、パブコメ募集のキャッチフレーズ「**京都の未来に意見しよう!**」が映える**山吹色の「のぼり」**



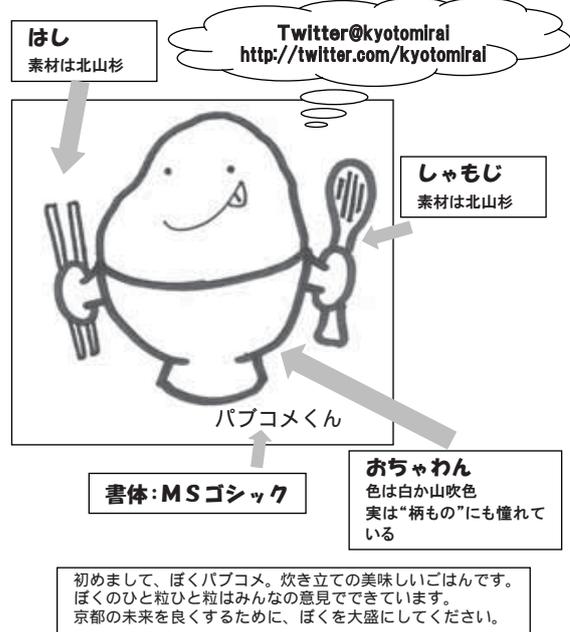
初期のパブコメくん デッサン

の作成。出前パブコメ、シンポジウムなど、どこかに出向く際には必ず携行しました。



デザイン中の様子。協議を重ね、何度も修正を重ねました。

図解!パブコメくん



出前パブコメでは、意見募集期間中に開催された京都音楽博覧会等の各種イベントに参加させていただき、我々のパブコメブースの存在をアピールするために**大立看板**を設置しました。そこに書いていただいた意見を貼り付けていき、徐々に意見用紙で看板が埋まっていく

ライブ感や生の声が見られるよう視覚的演出も行いました。この「**意見のみえる化**」は思いのほか効果が大きかったように思います。また、意見募集期間中に直接声を伺いに出向くには限界がありますので、市内アチコチに**パブコメ** **巣箱**を設置し、いつでも誰でも意見を投函できる仕組みを作りました。(詳細はP20〔U35 & PT〕それぞれの視点④参照)その意見を何に書いて投函するのか?という疑問が出てきますが、ここでもパブコメくんは大活躍です。投函する用紙は、**ハガキサイズのフライヤー**を使い、若い方にも手にとってもらいやすいデザイン、サイズを意識して見開きタイプで制作し、中にはパブコメの説明や基本計画の流れを、外側には米粒を型どった意見記入欄を設けました。これには「たくさんの米粒=豊かに実っている。」と「たくさんの意見=京都の未来を豊かに実らせる。」という米粒(コメ)と意見(パブコメ)の姿を重ねています。

次にソフト面ですが、このパブコメくん、おしゃべり機能がついています。そう、**ツイッターの活用**です。イベント参加時にその場で、市民から寄せられた意見や現在の状況をつぶやいたり、基本計画策定記念イベントの進ちょく状況をお知らせしました。また、**U35ブログ**なるものも開設し、ツイッターでつぶやききれない詳細な活動報告を、役所文章にならないよう読みやすい形で更新してきました。さらに、京都市ホームページでは、意見募集期間中はトップページに**パブコメくんバナー**を設置し、基本計画の策定状況やU35の概要を説明する

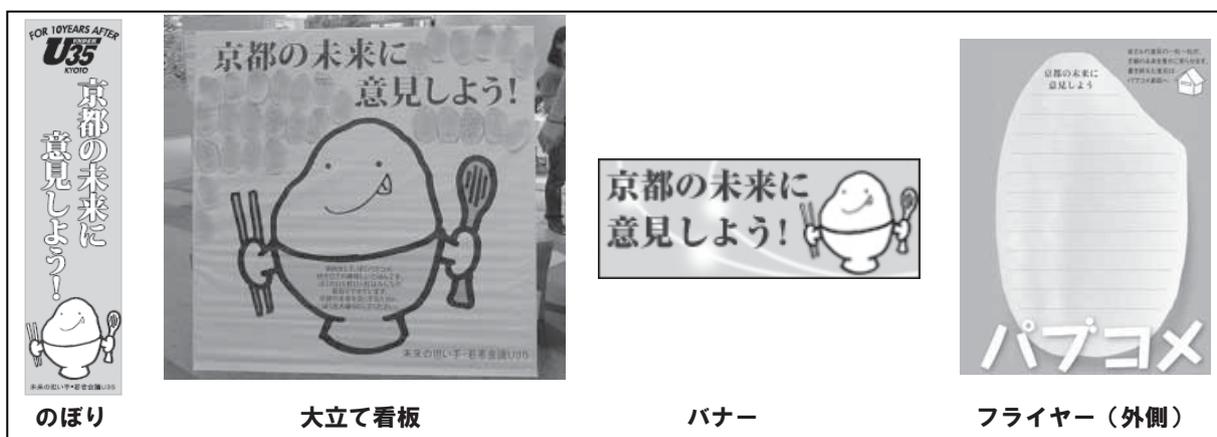
ページにすぐにアクセスできるような形で情報を公開しました。この様な一連の発想や手法は、U35ならではのものだったのではないのでしょうか。

基本計画の答申案が提出されパブコメ部隊の活動のピークも過ぎ、パブコメくんの活用方策を含めて、これまでの活動を今後活かす方法を議論しました。

これまでの活動で使用してきたもので、のぼり、フライヤー等は限定的な使用方法しかありませんが、巣箱やパブコメくんそのものは他の事業にも活用できるのではないかと考えました。そこで、巣箱全25個中、1個は京北町合同庁舎に(来庁者向けの意見箱として)、19個は京都市体育協会に(施設利用者向けの意見箱として)、残りの5個は市民協働政策推進室へ(パブコメ時などの貸し出し用として)、それぞれ引継ぎ、羽ばたいていきました。

パブコメくんの嫁ぎ先については、市民協働政策推進室になり、皆さんに軽いフットワークで使用していただけるよう、**申請制の無償使用**とする予定です。

この報告書をお読みの京都市をはじめとする自治体職員の皆さんをはじめ、関係者の皆さんにも是非とも活用していただきたいと思えます。一見すると食品関係のゆるキャラに見えますので、使用される場合は「パブコメくん」の名前を記載してください。お茶碗の色なんかは自由ですのでお好きな色で盛ってやって下さい。お勧めは山吹色です。



のぼり

大立て看板

バナー

フライヤー (外側)

## 〔U35 & PT〕それぞれの視点

### パブリック・コメントのシンボルに！

#### パブコメ巣箱の制作、設置について

NPO法人アート・プランまぜまぜ代表 さとうひさる

基本計画のパブコメ期間中、市営地下鉄、私鉄の市内主要駅やショッピングセンターなどに設置したのが、U35 が考案した意見回収箱「パブコメ巣箱」です。

パブコメ巣箱は「攻めと対話のパブコメ」を実践するため、市内各地に出向いてパブコメをとりたい、という我々の思いからはじまりました。駅や商業施設を選んで設置したのは、我々U35世代のような、忙しい毎日を送る現役世代の人に目を向けてほしいという願いもありました。

最初のアイディアは意見募集を視覚的に表す「パブコメの木」をシンボルにするというものでした。大きな紙に木の姿を描き、実の形を台紙にして意見を書き込む案や、植木に七夕のように意見を括りつける案など「意見が集まっていく様子」を視覚化し、市民の皆さんへパブコメを実施していることを分かりやすく伝えたいという意図がありました。

しかし、意見自体を市民の皆さんの目に触れるところに掲示することは、意見の盗難等のリスクが避けられないということになり、木製の意見回収箱を置く方向にシフトしていきました。

また、メンバー内の議論の中で、京都産の木材を使用したいという案が浮上し、北山杉を用いることになり、京北町で木材印刷加工業を営んでおられる藤原さんに御協力いただくことになりました。

まず、藤原さんに試作品を作成していただき、U35のメンバーと共に改良点を議論したうえで、鳥の巣箱をイメージした屋根付きの巣箱を、合計で25個作成していただきました。

設置にあたって、施設管理者の皆さんには、

いずれも非常に協力的に対応していただきました。基本的に設置を了承する前提で事前相談にのっていただき、設置に当たっては施設管理の担当者が立ち会ってくださったほか、パブコメの期間中には巣箱の設置状況を確認していただいたようです。このような各施設管理者の御協力が無ければ、パブコメ巣箱の設置は実現しませんでした。

設置に当たっては、市民の皆さんからの意見に加え、基本計画の名称募集用紙も投入されるため、施設管理者の皆さんからの助言を踏まえて、パブコメ巣箱と設置する机を目立たない程度に鎖でつなぐなど盗難を防止するための工夫を施しました。また、パブコメ巣箱の側に基本計画案の冊子、意見募集用紙、パブコメ・フライヤーを配置しました。

更に、第2次案に対するパブコメ募集期間においては、第1次案に対して寄せられたパブコメに対する基本計画審議会の考え方をまとめた冊子を配置し、フィード・バックも行いました。

このように固定して設置することに加え、出前パブコメを実施する際には必ずパブコメ巣箱を持ち運び、趣旨を説明することに努めました。まち行く方々がパブコメ巣箱に関心を寄せ、興味深く御覧になることも多く、パブコメのシンボルとしての機能も果たせたのではないかと考えています。

各区基本計画案に対するパブコメの募集時には、パブコメ巣箱をレンタルして用いる区や、選挙投票箱を用いてパブコメを実施する区もあり、この手法は広がりを見せています。実際、基本計画案に対するパブコメ終了後は、新「京（みやこ）・食育推進プラン（仮称）」など、分野別計画に対するパブコメ募集にも用いられました。今後はパブコメ巣箱を京都市に引き継ぎ、パブコメをはじめとする市民からの意見聴取に用いていただければと考えています。



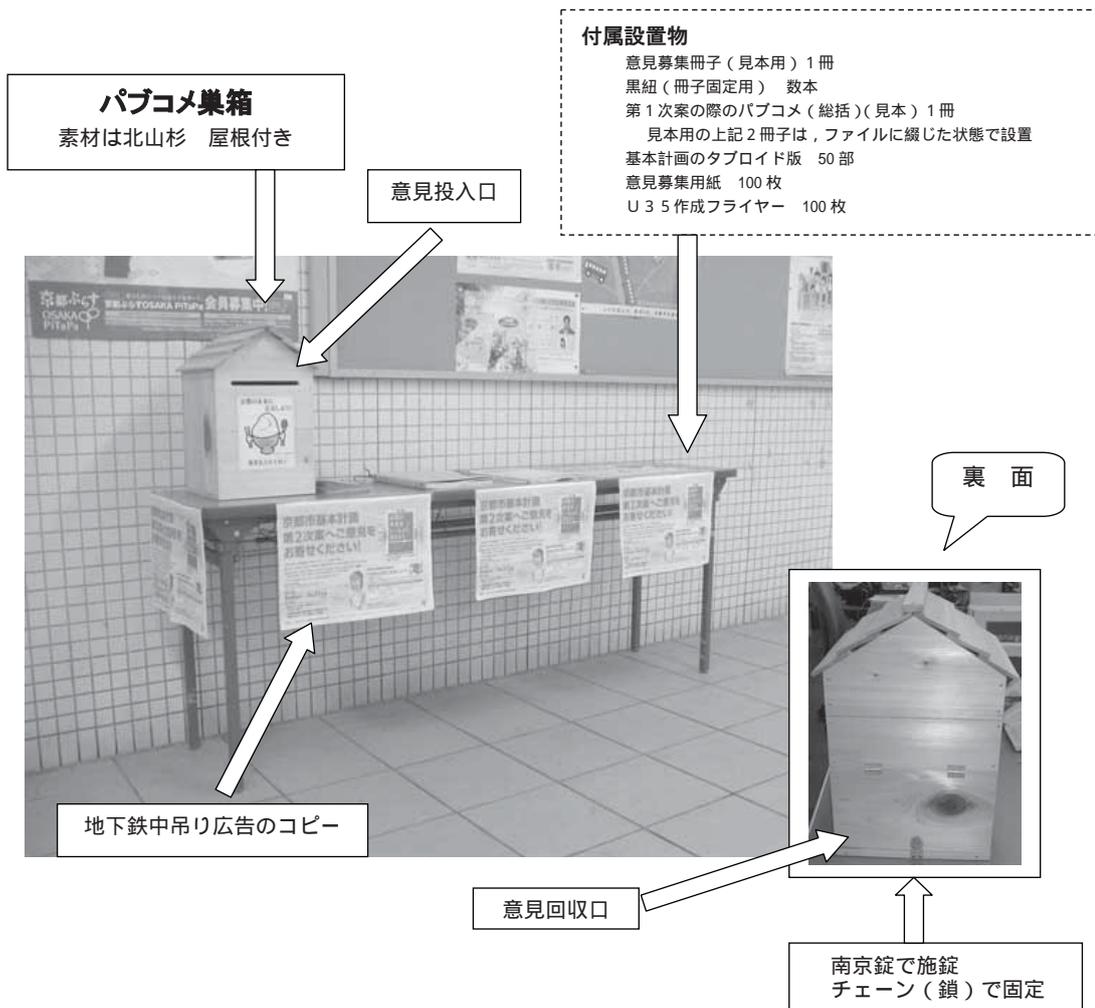
パブコメ巣箱の製作者の藤原さん（右端）



パブコメ巣箱の設置には、各施設管理者の方々に立ち会っていただきました。



## パブコメ巣箱の設置方法



## 〔U35 & PT〕それぞれの視点

### 「あ〜らよ♪出前パブコメ」

「私と京都のマニフェスト」優秀賞受賞者 野添幹雄

従来のパブコメは、持参・郵送・FAX・メールなど、対象となる情報公開の後「待ち」の姿勢でコメントを募集するスタイルであり、パブコメに熱意ある一部の方々（パブコメ上級者）からのコメントにより構成されていました。ここには特に制限が設けられていた訳ではありませんでしたが、パブコメ制度自体のPR不足、対象情報のPR不足、限定的なパブコメ回収方法がハードルとなっており、特定化されたパブコメのみが届けられていたと考えます。

今回実施した出前パブコメの考え方としては、「パブコメは会議室に転がってくるだけじゃない、現場で生まれてくるんだ！」との意気込みで、現場に飛び出しました。そして、パブコメ上級者のコメントだけでなく、パブコメ自体を知らないパブコメ初心者や、制度は知っているけれどパブコメを考えたことのないパブコメ初級者、意見は持っているけれどパブコメしないパブコメ中級者にも、パブコメいただくことを目指した「攻め」の姿勢で臨みました。

出前パブコメは第一次案では7回（10箇所）、第二次案では8回（8箇所）の計15回実施しました。これらの「試験」の詳細については、それぞれケーススタディとして資料16に実施背景・結果・考察を記しております。この資料は、各担当者が期待した点、準備に何を要したか、良かった点、悪かった点などを明らかにしています。これは必ずしも成功例だけでは無い、真に「試験の生データ」であり、企業で言えば門外不出のノウハウに値する、今後出前パブコメを企画する上で大変重宝される資料であります。

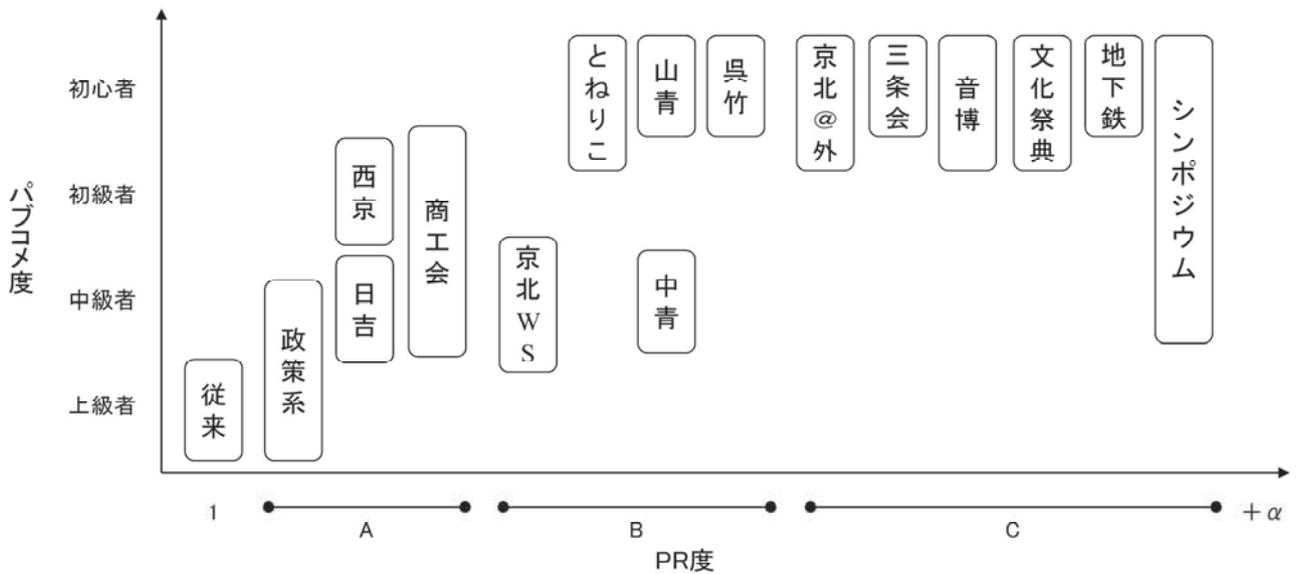
ここでは、「攻め」の姿勢で臨んだ出前パブコメによってもたらされるものを解析したいと思います。解析のため、実施した各試験と従

来のパブコメを、パブコメ度として上級者～初心者まで4つの分類に分け縦軸に整理し、PR度としてターゲットがオープンかクローズかを指標に3つのグループに分け横軸に整理しました（P23図：従来のパブコメと出前パブコメのパブコメ度およびPR度）。なお、パブコメ度は実施者がイベントの際に接した市民の感度により決定しており、PR度は基本計画及びパブコメのPRという側面で従来のパブコメを1としてどの程度プラスアルファがあったかを表しています。出前パブコメにより、従来ではパブコメ上級者が主であったパブコメを、パブコメ初心者や初級者あるいは中級者に対して幅広く浸透することができると分かりました。一方、外でのイベント活動を通じて、従来のパブコメに大きくプラスアルファして、基本計画を周知する、かつパブコメ制度を周知するという二つのPRができる側面も明らかとなりました。このようなことから、出前パブコメはパブコメの幅を広げることができる取組であると考えられます。

従来のパブコメのように「待ち」の姿勢では、パブコメが利害関係のある方々のパブコメや特定化されたパブコメによって構成されていく傾向にあると思います。今回のような「攻め」の姿勢を持つことで、この枠組みを飛び越えてパブコメをいただくことができ、より広く公に意見を募集する仕組みとなるのではないかと期待します。

本コラム執筆に際しまして、各出前パブコメご担当の古川さん、松村さん、来海さん、さとうさん、越村さん、岸根さん、西村さん、馬場さん、天辰さんには大変お世話になりました。改めて、ここに感謝申し上げます。

図：従来のパブコメと出前パブコメのパブコメ度およびPR度



パブコメ度

- 初心者: パブコメ自体を知らない層
- 初級者: 制度は知っているけれどパブコメを考えたことがない層
- 中級者: 意見は持っているけれどパブコメしない層
- 上級者: パブコメに熱意ある層

PR度

- A: 参加者を限定して実施
- B: 参加者を限定していないが比較的限られた層に対して実施
- C: 不特定多数に対して実施

従来のパブコメ

- 政策系: 政策系大学・学生(キャンパスプラザ京都)(資料編-35)
- 西京: 京都市立西京高等学校(資料編-33)
- 日吉: 京都市立日吉ヶ丘高等学校(資料編-37)
- 商工会: 京都商工会議所青年部(資料編-36)
- 京北WS: 京北合同庁舎会議所(資料編-34)
- とねりこ: まちの縁側「とねりこの家」(上京区にある「つどいの広場」)(資料編-37)
- 山青: 京都市山科青少年活動センター(資料編-31)
- 中青: 京都市中京青少年活動センター(資料編-31)
- 呉竹: 第7回京都学生人間力大賞授賞式(京都市呉竹文化センター)(資料編-34)
- 京北@外: ふれあい朝市、ウッディー京北、サンダイコー京北店(資料編-34)
- 三条会: 三条会商店街コミュニティスペース(資料編-32)
- 音博: 京都音楽博覧会2010(梅小路公園)(資料編-36)
- 文化祭典: 京都文化祭典2010オープニングイベント(ゼスト御池)(資料編-35)
- 地下鉄: 地下鉄主要駅(資料編-33)
- シンポジウム: 「どうすんねん京都! ? 次期京都市基本計画シンポジウム」(資料編-32)

## (6) シンポジウム部隊の活動内容

U35は、平成22年5月のシンポジウムと、平成23年1月のイベントを企画、運営しました。それぞれ基本的なスタンスを確認しながら、これまで行政が実施してきた催しとは一線を画す内容としました。(詳細は資料12参照)

### ア どうすんねん京都!? 次期京都市基本計画シンポジウム

平成22年5月には、基本計画第1次案の公表が予定されており、これを広く市民の皆さんに周知しながら、意見を聴取することを前提に、若者らしさを盛り込み市民目線のシンポジウムを開催することを我々の使命と心得て企画を検討しました。

企画検討に当たっては、最初に、これまで行政が開催してきたシンポジウムが持つ課題を抽出しました。我々が考えた課題は次の3点です。

- ① 参加者の年齢構成に偏りがあるので、中高年の方々に加え、若者や生産者階層にも参加してもらう必要があると考えました。因みに、基本計画の策定に際して京都市が18歳以上の京都市民1万2千人を対象としたアンケートを実施したところ、回答の57.9%が50歳以上でした。
- ② 市民目線からは、わざわざ出かけたり、事前に申し込むのがじゃまかさい、という印象があります。ふらっとまちを歩くついでに、シンポジウムに参加できるような工夫が必要だと考えました。
- ③ これまで開催されたシンポジウムは、内容、雰囲気は堅苦しい印象がありました。「行政と委員が並んで、閉じられた空間で行われるシンポジウムなら、絶対に参加しないと思う」というのが多くのU35メンバーから出された意見でした。いかに基本計画審議会で交わされている高度な議論を、市民に分かりやすく、楽しく聞いていただけるかを考えました。

これらの課題を解消するために、次の3つのコンセプトを持つシンポジウムを開催しました。

- ① まず、多様な人が、自由に参加できるように、何かのついでに、ふらっと寄り道できるように、新風館というオープンなスペースで開催しました。当日は、U35メンバーが道行く人にフライヤーを配布し会場へ誘導しました。

また、広報にも力を入れ、インパクトのある数字を並べたチラシやポスターを作成、掲示するとともに、KBS、αステーションで事前に広報を行いました。



京都をとりまく様々なインパクトのある数字を並べたチラシ、ポスターを作成



新風館という開放的な空間で開催

- ② 市民にわかりやすい内容とするために、U35のメンバーが審議会と市民をつなぐ翻訳者の役割を果たしました。

まず、動きのある「トークショー」形式で開催するとともに、各界の著名人からのビデオレター上映、会場とのクイズや質問のやりとりも実施しました。

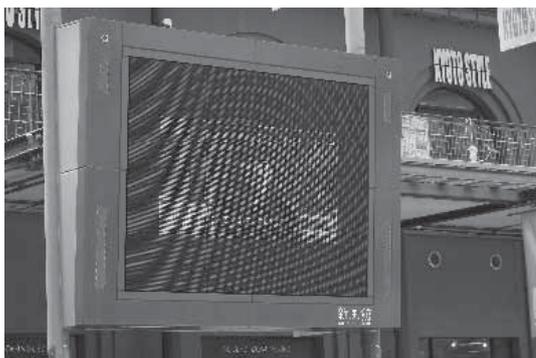
また、会場にパブコメのブースを設置し、その場で聴衆と語りあいながら出前パブコメを実施しました。



トークショー形式で開催



会場内に、パブコメのブースを設置



会場内の大型ビジョンで、各界著名人からのメッセージを上映



クイズの出題や質問など、聴衆にも参加していただきながら進行

- ③ 市民の皆さんが参加したい、と思うような雰囲気作りを心がけました。

当日は、シンポジウム単体ではなく、U35とU35メンバーの後輩にあたる舞妓や若手伝統産業従事者によるトークショー、U35メンバーである真箏さんのライブ、セグウェイの試乗会など、幾つかのイベントを、シンポジウムと同時又は前後して開催しました。更に、新風館というスタイリッシュで心踊るような会場で開催したことで、活発に、楽しく、未来志向の意見交換を実施することができました。



真箏さんのミニライブ



セグウェイの試乗会

## イ シンポジウムの反省

「どうすんねん京都!? 次期京都市基本計画シンポジウム」では、新たなシンポジウムの形を提示するとともに、数多くの来場者を迎えることができました。

一方で、チラシの作成過程などにおいて、京都市からU35に対して制約が課せられていると感じる場面がありました。U35の持つ感性やノウハウを存分に発揮するとともに、モチベーションを持続させて取り組むためには、これらの制約を取り除く必要がある、と考えました。そこで、より一層、U35の裁量権を認めるよう京都市に求めた結果、次回のイベントはU35の主催により開催することとなりました。

また、U35が、市政全般を対象とする基本計画の全てを熟知し、これを翻訳することは難しかったという反省点から、次回のイベントでは、より多くの人に基本計画を知ってもらい、関心を持ってもらうことを主眼とすることとしました。そのためには、より一層インパクトがあり、楽しいイベントを企画する必要がありました。



「おむすびミーティング」で、門川市長と若者会議の運営上の課題について意見交換しました。

## ウ 「京都の未来を考える 食べ物会議」

基本計画策定後の平成23年1月に、U35が主催し、市民の皆様「楽しく知ってもらい」、「関心を持ってもらう」ことを目的として「京都の未来を考える 食べ物会議」を開催しました。

インパクトがあり、参加者に楽しんでもらうために「食べ物」をテーマとして企画検討を進めた結果、企画時に話題となっていた「B級ご当地グルメ」をテーマとすることになりました。

企画検討を進めていく過程で、B級ご当地グルメの活動を行う団体（みなさまの縁をとりもつ隊、富士宮やきそば学会、浜松餃子学会、奥美濃カレー協同組合）が、自ら動いて食をツールとしたまちづくり活動を展開することで、自分たちが愛してやまない故郷を活性化することができたことを知ることができました。このような取組姿勢は、正にU35や、「市民と行政とが協働して推進する共汗型計画」である基本計画の姿勢とも合致しました。

各団体の誘致に当たっては、商業的な呼びかけではなく、U35メンバーが呼びかけるビデオレターをYouTubeにアップし、我々の取組姿勢や人柄を知っていただくことから始めました。このような我々の姿勢に共感していただき、出店していただくことで、インパクトのあるイベントが開催できました。

このほか、舞鶴肉じゃが、錦市場、京野菜イタリアン、新八茶屋（世界第3位のジェラート）など京都ゆかりの方々に出店していただくとともに、NPOの方々の協力



甲府とりもつ隊の皆さん。総勢21名で京都にお越しいただきました。



まいづる肉じゃがまつり実行委員会会長の伊庭節子さんは、トークショーにも御出演。

による子どもが段ボールで遊べるブース、政策系大学・大学院研究交流大会実行委員会によるブースも設置することができました。

我々も、これまでの活動内容の説明やイベント開催時にパブコメを募集していた関係課による出前パブコメを実施するブースを設置するとともに、基本計画に因んだクイズを出題するゲーム大会を実施しました。

会場内にはステージを設置し、B級ご当地グルメ団体や錦市場の方々、島田昭彦(株)クリップ代表 伊右衛門カフェをプロデュース)、佐々木晃(佐々木酒造(株) 代表取締役)といった「自分が動いてまちや未来を変えてきた方」をお迎えして、「どうすんねん京都!? 次期京都市基本計画シンポジウム」と同様、参加者が楽しみながら未来やまちづくりについて考えられるようなトークショーを開催しました。



トークショーでは、各団体の代表者から、まちづくりのヒントを語っていただきました。



イベント開催時に募集されていた分野別計画について出前パブコメを実施しました。

当日は、当初の想定をはるかに超える推定4,500人の方々に来場していただいたため、会場の混雑や、早々に売り切れるブースの発生などの問題もありましたが、事故などもなく、無事に終了することができました。

このように多数の方々に御参加いただいた要因は、企画の斬新さに加え、新聞、ラジオ、テレビなど様々なメディアによる広報、フライヤーの配布などによるフェイス・トゥ・フェイスの広報など、地道な活動にあったと考えています。



フライヤーの配布



テレビ番組への出演



ポスター等の作成

最後に、イベントにご来場いただいた方のうち、1,070人の皆さんに御協力いただいたアンケートの結果概要を記しておきます。(詳細は資料17参照)

**質問1：「このイベントをどこで知りましたか」？**

- ・約3割が「新聞」、「チラシ」、「ポスター」を加えると約5割
- 事前の周知活動による効果の表れ
- ・約2割が「通りすがり」
- 企画段階から会場（京都市勧業館みやこめッセ）で多くの催事が開催される日を選択した効果の表れ

**質問2：「このイベントには何を楽しみに来ましたか」？**

- ・「B級ご当地グルメ」が7割、「京都のグルメ」が3割

**質問3：「このイベントに参加して何が印象に残りましたか」？**

- ・トークショーやU35ブースなど、その他の全ての催し物について、質問2での回答割合と比べ、質問3での割合が増加
- ほとんどの来場者がB級ご当地グルメや京都のグルメを楽しみに来場したが、トークショーやU35ブースなどもしっかりと印象に残ったと推測

**質問4／質問5：「京都又は自分の未来を考えるきっかけとなりましたか」？・「京都のまちや地域に対して自分が何かしようと思うきっかけになりましたか」？**

- ・いずれも7割以上が「なった」、「ややなった」
- 来場者は、イベントの趣旨を理解し、「はばたけ未来へ！ 京プラン」を知り、京都の未来を考えるきっかけになったと推測

**自由記述（ご感想、ご意見など自由にお書きください）**

- ・「美味しかった」、「楽しかった」、「また開催して欲しい」といった好意的な感想。
- ・当初想定よりも多くの来場者があったことから、「会場が狭い」、「行列整理に問題がある」、「食べ物の完売が早い」といった問題点の指摘も。

- ・今後、市民が来場し、食べながら楽しめるようなイベント開催に際して、
  - ①市民に食べてもらえる十分なスペースを確保
  - ②混雑を避け、公平に購入できるよう、全ての来場者が理解できるような行列整理の体制を整備
  - ③的確な来場者予測や十分な販売量確保の努力
 といった点を心がける必要がある。

## 4 まとめ

「市民から意見を聴取すること」を考え直す。

妙心寺塔頭・退蔵院副住職 松山大耕

私は、U35の活動と並行して、基本計画審議会（融合委員会及び活性化部会）、財政改革有識者会議等の議論に加わってきた立場から、「市民から意見を聴取すること」と「市民からの意見を踏まえて議論すること」について論じてみたいと思います。

まず、市民から意見を聴取するための基本的なルールについては、「京都市市民参加ガイドライン」において、計画の素案や原案が整った段階で、市民の意見がなお十分に反映できる余地がある時点でパブコメを行うこととされています。パブコメが市民から声を聞いたということのアリバイとして用いられてはならないから、です。

今回の策定過程においても、基本計画の大まかな章立てやフレーム・ワークが示されているものの、未来像以外のコンテンツは固められていない時点で第1次案に対するパブコメが実施されており、市民参加ガイドラインの考え方に沿った形で実施されています。

更には、基本計画の策定方針において、既に市民との共汗で計画を策定することが掲げられており、U35の支援により、従来手法にひと工夫加えているのは前述のとおりです。

これらの取組の成果として、今回は約900名の市民から意見を聴取することができましたが、一方で、取組を通して課題や問題点にも気づきました。

まず、フレーム・ワークが示されている程度とはいえ、京都市政全般に関する基本計画の第1次案全てに目を通し、意見を述べるためには、社会経済情勢や京都市の現状、市政などについて、幅広い基礎知識が要求されます。しかし、多くの市民は職業や居住する地域などに関係の深い分野に関してのみ知識、興味、意見を有しているのが通常ではないでしょうか。

また、今回の基本計画のように、10年後の未来像や政策レベルの取組を中心に抽象的な次元で記載されている文体に対して意見を述べるには、まず、抽象的な記載内容を解釈し、場合によっては具体的な記載内容を推論する、これまでの審議過程から最終的な記載内容へ導かれたことを確認するなどの能力・技術が求められます。この

ような能力・技術はもとより、じっくりと計画案に目を通す時間があればこそ、どのように記載内容を修正すれば、求める具体的な取組内容が推論できる表現になるかを導き出すことが出来るのです。しかし、忙しい生活を送る市民にとって

### 1 以下の取組の中で参加したか、又は知っているか

	参加したことがある	知っている	知らない
(1) 市が実施する各種のアンケート調査 . . . . .	9.1%	26.8%	58.9%
(2) モニター制度 . . . . .	1.4%	28.4%	64.3%
(3) 市長への手紙 . . . . .	1.0%	23.7%	68.3%
(4) 提案, アイデア, 名称・愛称等の募集 . . . . .	2.1%	51.9%	39.6%
(5) 審議会等*2の公募委員への応募 . . . . .	0.4%	18.8%	73.6%
(6) 審議会等の傍聴 . . . . .	1.0%	27.6%	64.4%
(7) 市民参加型フォーラム . . . . .	2.5%	41.3%	49.3%
(8) ワークショップ . . . . .	1.3%	28.5%	63.1%
(9) パブリック・コメント . . . . .	0.6%	17.0%	74.8%
(10) 市が行う地元への説明会 . . . . .	3.9%	36.4%	53.1%

は、具体的な要望や意見は持っていますが、どのように記載内容の修正を求めているのかが分からないというのが現状ではないでしょうか。

これらのことは、市民にとっては「ちょっとパブコメは敷居が高いなあ」と感じさせてしまう要因となっています。データを見てみると、平成22年第1回市政総合アンケート調査において、パブコメに参加したことがあるのは、市民全体の0.6%であるという結果が出ています。パブコメという制度が参加者に計画案を読み解く時間と、高いリテラシー能力を要求することが課題となっている、といえるでしょう。そのため、U35の活動のように、難解な用語やコンセプトをわかりやすく翻訳して届ける工夫が必要不可欠です。

私は、融合委員会の審議の場において、このようなハードルを越えてもなお意見を提出していただいた市民の皆さんに対してフィード・バックを行うべきだ、と提案してきました。実際、従来のようにHPで意見の反映内容を公開することに加え、U35では、意見の反映内容を記した冊子を地下鉄主要駅へ備え付け、基本計画策定記念イベントではパネル展示を行いました。匿名が基本のパブコメですが、効果的にフィード・バックすることができれば、と考えております。

それでは、次に、審議会において市民の意見を踏まえて議論するために、効果的な意見の聴取方法について考察したいと思います。

基本計画審議会においても、一度に多くの市民から頂いた意見に目を通し、議論することは非常に大変な作業でした。また、前述のとおり、一度に計画案全ての内容を問いかける従来のパブコメ手法では、市民が意見を述べるにもハードルが高いといえます。そこで、少し工夫を加えて、複数の取組を組み合わせることを提案します。

まず、審議に先立って、又は、審議の初期の段階に、カテゴリーだけを定めて、幅広く市民から意見を聴取してはどうでしょうか。その場合、ほぼアンケート調査と同様の方法で実施することになりますから、出前パブコメなどの方法論が効果的です。

その後、審議が進むにつれて、論点を絞ることができたならば、その論点を問いかけてみてはどうでしょうか。選択肢形式の採用や、分野を特定することも有効でしょう。我々が実施したシンポジウムやイベントのような催しの中で、広く市民に参加していただいて公開で討論してもよいでしょう。ただし、ある市民の選択は、他の市民の選択とトレード・オフの関係にあるのが常ですから、公平性・中立性の観点から、最終的に審議会でも総合的な判断を加える必要があります。

これらの改善策の前提として、従来型のパブコメが実施されることは必要であると考えています。なぜなら、計画の素案や原案に対して、市民の意見がなお十分に反映できる余地を残す必要があるからです。論点を絞りすぎて、意見できる範囲を狭めてしまうと、逆に意見を反映できる余地が狭まってしまいます。また、限られた市民の代表で構成される審議会だけでは漏れてしまう論点を拾い出す効果があることにも留意する必要があります。実際、「真のワーク・ライフ・バランス」は、第1次案では漏れていたものの、U35からの提案により未来像や重点戦略に掲げられることになりました。

以上のように、今後の計画策定においては、時々の審議状況に最もふさわしい手法を選択しながら、効果的に市民から意見を聴取し、審議会においても確実にこれを消化し、市民総意の計画づくりにつなげていただければ、と切に願います。

## パブリック・コメント部隊の取組について

NPO法人アート・プランまぜまぜ代表 さとうひさる

基本計画のパブコメが終了し、集計結果を見たとき、「想像以上の仕事があった」という手ごたえを感じました。蓋を開けてみると、第1次案で提出された意見のうち322名中166名（約51%）、第2次案では568名中462名（約81%）が出前パブコメ等パブコメ部隊の取組により提出されたものでした。インターネット、FAXなど従来の提出方法で出された意見が、パブコメ部隊の周知活動に触発された可能性も含めると、この数字以上のインパクトを与えたと推測できます。

「パブコメ部隊のタスクは仕組みづくり」。部隊分け当初に山口委員が話していたことに、実感を持てたのも活動の終盤でした。そして「仕組み」を生み出すことができたのであれば、今後生かしてもらうための取扱い説明書となる報告書も私たちの手で作ることで活動が完結すると考えました。

ここでは「10年間のまちづくりの指針」という具体的な争点が見当たらない計画に対するパブコメを私たちがどう盛り上げたのか、ということについて述べたいと思います。

私自身、パブコメの専門家ではありません。平成22年1月の部隊分け当初は「パブコメを支援する」という役割について、どうしたら良いか見当もつかなかったのが本音です。

ですので、まずパブコメ部隊を志望したメンバーに「パブコメを書いたことがあるか？」という質問を投げかけました。一般の方々より政策に関心が高い、U35メンバーでも手を挙げたのは数人でした。そこで「これまでパブコメを書かなかった理由は何か」を出発点にパブコメ部隊の活動はスタートしました。

まず、「パブコメとは何か」「どういう制度か」を知らなければならない、また、「私たちにどこまで裁量があるのか」を認識しなければならないということで、京都市の総合企画局の担当者を交え、現在の立場（基本計画審議会委員でも、行政の担当者でも、自主的な市民団体でもない立場）を明らかにしていきつつ、「何がしたいか」「何ができるのか」という課題に対してブレインストーミングを重ねました。

その中でU35委員、PTのメンバー双方から「アライバイづくりのためのパブコメはしたくない」、「パブコメを選挙と並ぶ市民参画機会に」、「市民と直接対話をしながらパブコメを聞きたい」といった意見が出されました。

また、思いを実現していくに当たって実施対象が＜市民一般＞では広すぎるということで、2つのコンセプト、2層のターゲットを設定しました。※P33表1

表 1

未来の担い手・若者会議U35 パブコメ部隊2つのコンセプト、2層のターゲット

2つのコンセプト	1.攻めのパブコメ
	2.対話のパブコメ
2層のターゲット	ターゲットA パブコメの存在を知らない市民、市政に関心のない市民
	ターゲットB 市政に関心があるが意見を書かない市民

振り返って考えると、最初の時点で「自分達が何をすべきか」ということについて、十分な意見交換をし、意識を共有できたことがパブコメ部隊の実行力の源になったと考えています。

ここからは、「ともかく、実行」と走りはじめました。パブコメくんの制作、「基本計画第1次案」冊子へのデザイン提案、意見回収箱「パブコメ巣箱」の制作と設置、そして「出前パブコメ」、ツイッター、ブログの活用などなど。効果的だと考えたことを次々実行に移しました。

部隊分け後に自然な役割分担ができ、「派手なパフォーマンスはシンポジウム部隊にまかせて、私たちは地道に市民と向き合おう」という合意ができました。このことも活動がブレなかった要素の1つであったと思います。

また、U35、PTのメンバーお互いに垣根なく、担当も振り分けあったということも特徴的なことだったと思います。更に、一見U35メンバーが先導して、PTがサポートしたように思える私たちの活動ですが、PTの「積極的な市民参画をしたい」という夢をU35の経験とスキルが叶えている、ともいえる場面があったことも記しておきたいと思います。「10年後の京都のために」という目標のもと、それぞれが「必要だと思うこと」に力を出し合って実現してきました。

私はU35委員になった当初から「基本計画策定を支援する」とはどういうことか、「U35の役割とは何を求められているのか」という問いを持ちながら活動に参加していました。第1次案のパブコメ実施時には基本計画の内容について理解できているとは言えない状態でした。しかし、第1次案が終わり、若者提案である「真のワーク・ライフ・バランス」が未来像に組み入れられることになり、活動を振り返ったとき基本計画の「都市経営の理念」にある「生活者を起点に参加と協働で地域主権時代を切り拓く」という内容の一部を担っていたのだということに気付きました。結果的に基本計画の核である部分を実践していたのです。

このとき、やっと「U35」の意義について腑に落ち、誰かが私を導いてここまで来たのではないか、と思うほど鮮やかに1本の道が現われた気がしました。そして、自信を持ってU35委員をやり抜こうと思いました。

最後になりましたが、パブコメ部隊リーダーを務めることになり、多くの経験ができたことに感謝しています。今回私たちが実践したアイディアは、気負ってつくったものでも、マーケティングに裏付けられたものでもありません。ごく日常的に思っていたことや市政への疑問を「パブコメ」に置き換えることで出てきたものです。私た

ちの等身大の問題意識を基本計画の策定過程に組み入れることができたという面で、パブコメ部隊は使命を果たせたのではないかと考えています。

全国を見渡してみてもこれだけの種類のパブコメの手法を検討し、実践した前例はないのではないのでしょうか。私たちの成果がU35の成果で終わることなく、今後、京都のパブコメで活用され、更には「パブコメの京都モデル」として全国に発信されることを願っています。

## パブリックコメントまとめ

京都商工会議所青年部、株式会社藍ぜん取締役 西村寛和

今回、U35でパブコメの担当をさせていただき、それまでは「パブコメって？」と内容もよくわかっていませんでしたが、各コミュニティごとのパブコメの実施に関わらせていただくうちにあらためてパブコメの意義と重要性を認識することが出来ました。

今回のU35でのパブコメの手法は市庁舎や区役所・出先機関など京都市内の各公共機関にパブコメ募集冊子をおいて募集するというやり方だけではなく、実際に京都市内の市民が集う不特定多数または特定の場所にパブコメを集めに行く、という原始的な方法です。これをU35では「出前パブコメ」としました。出前パブコメは私が所属する京都商工会議所青年部でも実施したのですが、20～45歳までの経営者が集まる青年部の中で出前パブコメの実施には興味を持つ経営者が非常に多く、当日もワークショップ形式で京都の未来について様々な意見が交わされ、大いに盛り上がりました。また、私が特に印象的だったのはワークショップ終了後に別会場で催した懇親会です。会場はいわゆる居酒屋だったのですが、青年部の経営者とU35のメンバー、PT、事務局の皆さんが酒を酌み交わし、大いに交流し、京都の未来について互いの意見を議論し、学び、共感する姿が沢山見受けられました。

インターネットの普及による情報伝達手段は日進月歩、常に進化しています。私自身、会社を経営する立場として、顧客のニーズをいち早く受け止め、フィードバックする速さと正確さを高め続けることが大事だと日々実感しています。しかし、その中でも一番大事なものは「相手の顔が見える、心の通ったやりとり」がITツールを通して出来るかどうか、だと思います。結局は人から人に伝えて行く事が一番効率の良い方法なのかもしれません。

今回U35のとった出前パブコメを中心としたパブコメ手法はこれからの様々な分野で行われるパブコメの一つの有効なモデルとして多くの方に知っていただくことが重要だと思います。

## U35との活動を通じて

建設局 水と緑環境部 河川整備課 栃尾恵梨子

私は平成20年9月からPTのメンバーとして活動を始め、平成21年9月からはU35の皆さんと活動を共にしました。

U35との活動は大きく2つに分けられます。

前半は、基本計画に盛り込むべき内容について若者ならではの意見を提案すべく、6つのユニットに分かれて検討を行いました。U35との議論は、当然ですが市民目線であり、実生活とリンクし、未来をよくしたいとやる気に満ちた多様なアイデアが次から次へと出てきます。我がユニットでは話が尽きずに、会議が夜10時を過ぎることもしばしばあり、楽しく刺激的な思い出として印象に残っています。若者提案では、U35の熱意と行動力により、複数のユニットから提案のあった「真のワーク・ライフ・バランスの実現」が基本計画の未来像の一つに採用され、素晴らしい功績を残されました。

後半は、メンバーを新たに2つの部隊に分け、シンポジウムとパブコメの企画に移りました。私はシンポジウム部隊に入り、基本計画第1次案に対する意見募集を目的とした「どうすんねん京都！？ 次期京都市基本計画シンポジウム」と基本計画策定記念イベント「京都の未来を考える 食べ物会議」の企画・運営に携わるとともに、パブコメ部隊が企画した「出前パブコメ」にも参加しました。

シンポジウム部隊では、どうすれば基本計画自体に関心が低い人に参加してもらえるか、どうすれば京都の未来を考えてもらえるかと皆で悩み、実に様々な意見を出し合いました。それは、ひとつの目標に向かって合意形成を図ることの難しさにも繋がりましたが、立ち止まりそうになるたび、皆で話し合い、支え合って、乗り越えてきました。あの経験は何物にも代え難く、これから先、必ず自分自身を助けてくれるものと思います。

「出前パブコメ」では、出前先に合わせてインタビュー形式にしたり、ワークショップ形式にしたりと手法を変えながら市民の声を集めました。ふだん自らは声を出さない市民、京都の未来を考えたことがない市民に直接問いかけることで、声を出してもらい、京都の未来を考えてもらうことができ、参加していて、市職員としてとても嬉しい気持ちになりました。

U35との活動では、言葉では言い表せないほど多くのことを経験し、学びました。特に次の2つは、U35ならではのという意味で強く印象に残っています。

1つは、アイデアの独自性です。活躍される多様なフィールドから生まれるアイデアや若者目線・市民目線での鋭いアイデアは、私にとっていつも大きな刺激でした。そして、そのように様々なアイデアを出し合い、それぞれの良い部分を融合させたからこそ、良いものが創れたのだと思います。

もう1つは、U35の熱意です。熱意がなければ、前述の素晴らしいアイデアた

ちは実現しなかったと思います。先が見えないときでも、あるいは職員だけでここまでやれるかと言われれば疑問符がつくようなことでも、U35は熱意と行動力によって道を拓いていきます。そのようなU35のパワーに触れ、私も、私ができることをしっかりやろうと奮い立たされました。振り返れば反省も多々ありますが、力を尽くせたと思います。

U35との活動で得たものは、すべて、私にとって大きな宝です。今後も、業務や生活の中でそれを活かし、大切にしながら、さらに発展させていきたいと思います。

最後になりましたが、共に活動し、素晴らしい経験をさせてくれたU35メンバー、PTメンバー、事務局のみなさんをはじめ、活動を支えてくださった職場のみなさん、家族、友人に感謝申し上げます。

## パブリックへのコメント～U35がまとった公共性とは～

同志社大学准教授 山口洋典

「公共 (public)」は複数形 (publics) になりうる。これはドイツの社会学者、ユルゲン・ハーバーマスによる指摘です。ごく簡単に、その議論の前提を示しておくと、現代社会は国家 (政府・自治体) と市場経済 (企業) に加え、それらの動きに対して自立した市民 (時にNPO・NPOの活動領域と位置づけられます) の3つの領域が対等に対話を重ねながら、よりよい社会を目指していくものとされています。そうした社会の状態となったときに市民社会と呼ばれ、その担い手は公共性を帯びた人材であると位置づけられています。すなわち、よりよい社会を創造していく担い手が、それぞれに掲げる価値を追い求めていく空間や、そうした空間で生み出される豊かな人間関係こそが、複数の公共が成り立つ、つまり公共は複数形になりうると思われる根拠となっています。

私は大阪・天王寺にある浄土宗應典院の僧侶の立場にありながら、同志社大学において教員の職に就いてきました。この、一見全く異なる2つの世界観が一人の人材によって接続あるいは統合されているのも、公共は唯一の存在ではないことを明らかにしてくれます。卑近な例ですが、私は仏教寺院とキリスト教主義の大学を横断し、大阪と京都を往復する中で、多様な人々との新たなつながりを持ち、協働的实践を通じて活動のまとまりが導き出され、新たな地域社会を創造するネットワークのひろがりを得てきました。いみじくも平成22年6月には「新しい公共」という概念も鳩山内閣によって提示されているとおり、公共とは、唯一の存在として捉えられるべきものではなく、社会には複数の公共がある、という前提で多様なもの、こと、ひとに接していかなければならないのです。

転じて、U35による一連の活動をふりかえってみたとき、そこには実に豊かな公共が無数に存在していたと確信しています。しかし、そうして成立していた複数の公共のあいだには、互いの公共性が反駁しあうことがなく、むしろ、各々の価値観が絶妙に折り合いがつけられ、よりよい京都の未来への想いを確かなものへと深めたのではないのでしょうか。事実、新風館での「どうすんねん京都!？」やみやこめっせでの「食べ物会議」の内容、さらには計画案の内容を届けつつ多様な声を集めるために多彩な場所で展開されたパブリック・コメントの実施は、そもそもU35のメンバーそのものが、高い倫理観のもとで、未来の京都の担い手としての自覚を持ちながら、複数の公共～publics～への働きかけを行ってきたことの端緒だと言えるでしょう。

無論、こうしたU35がまとっていた豊かな公共性、すなわち自立と連帯による現代社会への働きかけを、理屈で整理してしまうことによって、何か、語り得ないものをないがしろにしてしまっているようにも思えます。とはいえ、マニフェストの発表という自己宣言に始まり、テーマ別で議論を掘り下げていくフォーラムが展開され、目的や形態別のユニット活動が進展する中で、複数の公共を併存させつつも、よりよ

い京都という未来像を互いの経験と関心と知恵から言語化してきたのがU35の活動でした。それが結果として、融合委員会がのりしろ（インターフェース）となって、基本計画の内容が精緻化されていったのでしょうか。最後に、こうして言葉を重ねてU35の意味や価値を記している私こそが、具体的な連帯の中で時間と空間を共有できていないことを内省しつつ、不義理なことへの謝意と、皆さんの活動に敬意を表させていただきます、と存じます。

# 資料編



フォトダイジェスト  
U35活動風景  
パブコメ部隊活動風景



第1回シンポジウムでのパブコメブース



多くの市民の皆様にはパブコメを頂きました



三条会商店街での出前パブコメ



西京高校での出前パブコメ



京都音楽博覧会での出前パブコメ



日吉ヶ丘高校での出前パブコメ



商工会議所青年部との出前パブコメ



京北町での出前パブコメ

## シンポジウム部隊活動風景



第1回シンポジウムでの集合写真



MCの二人がステージを盛り上げました



セグウェイ試乗会の受付



開会宣言を行うシンポジウム部隊の二人



「オー!!」の掛け声で無事終了



食べ物会議での集合写真



会場入口でプログラムを配りました



大盛況だった食べ物会議

U35 活動で作製した広報媒体等

どうすんねん 京都!? ポスター B3



どうすんねん 京都!? チラシ A4



どうすんねん 京都!? フライヤー B6



表紙

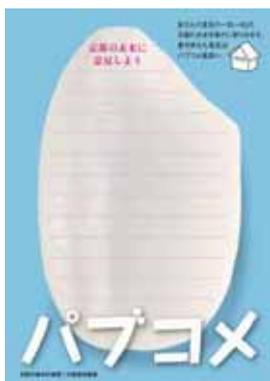
裏表紙

中面



中面

第1次案パブコメフライヤー B6



表紙



中面



裏表紙

第1次案概要版 A4



表紙



裏表紙

パブコメバナー



パブコメのぼり



450 x 1800mm

パブコメ立看板



1500 x 1500mm

食べ物会議 ポスター B3



食べ物会議 フライヤー B6



表紙



裏表紙



中間

# アンケート

該当する箇所に○を付けてください。

性別 (男, 女)  
 年代 (~10代, 20代, 30代, 40代, 50代, 60代, 70代, 80代~)  
 職業 (自営業, 会社員・公務員, 主夫・主婦, 無職, 学生, その他)  
 お住まい (京都市内, 府内京都市外, 大阪府, 滋賀県, 兵庫県, 奈良県, その他)

1 このイベントをどこで知りましたか? (複数回答可)  
 (チラシ, ポスター, 新聞, 知人から, 通りすがり, その他)

2 このイベントには何を楽しみに来ましたか?  
 (2つまで回答可)  
 B級ご当地グルメ, トークショー, 京都のグルメ, ゲーム,  
 ダンボールアート, 学生 Cafe, U35 ブース, 特になし, その他

3 このイベントに参加して何が印象に残りましたか?  
 (2つまで回答可)  
 B級ご当地グルメ, トークショー, 京都のグルメ, ゲーム,  
 ダンボールアート, 学生 Cafe, U35 ブース, 特になし, その他

4 このイベントに参加して京都または自分の未来を  
 考えるきっかけになりましたか?  
 ( なった , ややなった , ならなかった )

5 このイベントに参加して京都のまちや地域に対して  
 自分が何かしようと思うきっかけになりましたか?  
 ( なった , ややなった , ならなかった )

6 その他 (ご感想, ご意見など自由にお書きください)

ご記入いただいたアンケートは  
 総合案内にて回収します。  
 ご協力ありがとうございました。

表紙

# 京都の未来を 考える 食べ物会議

★1

# プログラム

平成 23 年 1 月 22 日 (土) 11:00~15:00  
 京都市勤業館 みやこめっせ 1 階第 2 展示場

- 11:00 ~オープニング~
- 12:00 トークショー【伝統を革新に変えた人】  
麻クリニック代表 佐々木酒造代表取締役  
 島田昭彦 × 佐々木晃 × U35 メンバー
- 14:00 トークショー【食を通してまちを変えた人】  
まいづる肉じゃが まつり実行委員会会長  
 伊庭節子 × B級ご当地グルメ団体 × 錦市場
- 15:00 ~エンディング~

- ◆混雑時には入場制限をさせていただく場合がございます。
  - ◆食品等の販売数は相当数をご用意しておりますが、売り切れの場合はご了承ください。
  - ◆酒類の購入時には年齢確認済みスタンプ (総合案内にて押印します) をご提示ください。
- また、お一人様4杯までとさせていただきます。

未来の担い手・若者会議 U35 とは?  
 平成 23 年度から 10 年間の都市経営の  
 基本となる京都市基本計画  
 「はばだけ未来へ!京プラン」に  
 関わる事業を支援する若者 25 名。  
 概ね 18 歳以上 35 歳未満で構成しています。

主催: 未来の担い手・若者会議 U35

共催: 京都市 後援: KBS 京都, TATIS

裏表紙

★1

## ★ゲーム★

このプログラムの  
中に、ヒントが  
かくれているかも?

7つの問題と  
アンケートに答えて  
景品をもらっちゃおう!  
正しいと思う番号に  
マルしてね!

- 1 はばだけ未来へ!京プランとは?  
 ①平成 23 年度から 10 年間の都市経営の基本となる京都市の計画  
 ②京都市飛行計画 ③市役所庁舎の建て替え計画
- 2 このイベントで提供しているイタリアンのペンネに入っている京野菜は?  
 ①じゃがいも ②えびいも ③さつまいも
- 3 U35 ブースにある傍聴記 Vol.1 の筆者は誰?  
 ①高松大耕 ②高知大耕 ③松山大耕
- 4 甲府鳥もつ活動のきっかけは?  
 ①甲府市職員有志が、鳥もつを通して甲府を元気にしようとした  
 ②牛ホルモンに対抗しようとした ③自分たちの健康のため運動しようとした
- 5 平成 21 年度の京都市の借金は市民 1 人あたりいくら?  
 ①784 円 ②約 784,000 円 ③7,840 円
- 6 未来の担い手・若者会議 U35 メンバーが主体的に活動し、  
 基本計画に取り入れられた未来像は?  
 ①弥勒菩薩像 ②食べ物会議 ③真のワーク・ライフ・バランスを実現するまち・京都
- 7 会場に来ている他の誰かと 3 人 1 組で学生 Cafe で話を聞いてね!  
 どんな話を聞いた?: \_\_\_\_\_

ヒントは  
一緒に配布した  
チラシの中!

ウラのアン  
ケートにも  
答えてね!

景品は  
総合案内で  
もらってね!  
※景品には数に限り  
があります。

「鳥もつ煮で  
甲府を元気に!」  
を合言葉に、  
甲府市職員有志  
により結成され  
ました。

海軍用の艦上食、  
海軍舞鶴鎮守府  
初代司令長官  
東郷平八郎が  
料理長に作らせ  
広まりました。

他県にはちょっ  
とない特徴ある  
「やきそば」に注目し  
富士宮やきそばを  
通じ、元気なまち  
づくりを目指し  
町興しを実行。

奥美濃カレー:  
使用される素材は  
地元でとれた  
安全な旬の食材。  
そして隠し味に  
伝統の郡上の  
地味増を。

学生かて  
京都の未来を  
考えてるんや!

親子で楽しむ  
エコイベント  
「ダンボールアート」  
開催中!

トークショー・  
まちおこしの達人  
たちが語る「自分の  
まちの作りかた」  
お楽しみに!!

米と米麹が原料の  
ノンアルコール  
醸造飲料「白い  
銀めい水」が試飲  
できます!

策定された  
基本計画の中身や  
U35 のこれまでの  
活動を紹介!

アナタの意見を  
聞かせて!  
出前ハブコメの  
コーナーもあります。

★B級ご当地グルメ  
★京都にゆかりの  
あるグルメ

「エコトーン」

★浜松餃子学会

★みなさまの縁を  
とりもつ隊

◆まいづる肉じゃが  
まつり実行委員会

★富士宮  
やきそば学会

★奥美濃カレー  
協同組合

◆新八茶屋  
(ジェラート・飲料)

◆京野菜イタリアン

●学生 Cafe

●ダンボールアート

ステージ

京のごだわり  
旬野菜◆

佐々木酒造◆

津之富酒造◆

田中鶏卵◆  
(京だし巻き)

樹橋 (京漬物)◆

山市商店 (漬干)  
丸常錦餅店◆

U35●

総合案内

↑入口 ↓出口

中面

未来の担い手・若者会議U35設置要綱

制定 平成21年9月10日

(趣旨)

第1条 若者ならではの観点から、京都市基本構想を実現するための基本的な計画で、市政全般にわたり総合的かつ体系的に定めるもの（以下「基本計画」という。）について意見を取りまとめ、京都市に対して提出するとともに、策定の過程において広範な市民参加を得るために京都市が実施する事業を支援するため、未来の担い手・若者会議U35（以下「若者会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 若者会議の所掌事務は次のとおりとする。

- (1) 基本計画に盛り込むべき内容に関する提案をまとめること。
- (2) 基本計画の策定に係る京都市の市民参加事業の実施を支援すること。
- (3) 京都市基本計画審議会条例に基づき設置する京都市基本計画審議会における審議内容などの市民への周知を支援すること。
- (4) 前項に掲げるもののほか、市長が必要と認める事項に関すること。

(組織)

第3条 若者会議は、委員30名以内で組織する。

- 2 委員は、市長が適当と認める者のうちから、市長が委嘱し、又は任命する。
- 3 委員は、無報酬とする。

(委員の任期)

第4条 任期は平成23年3月末日までとする。

(議長及び副議長)

第5条 若者会議に議長1名及び副議長2名を置く。

- 2 議長及び副議長は、市長が指名する。
- 3 議長は、若者会議を代表し、会務を総理する。
- 4 副議長は、議長を補佐し、議長に事故あるときは、あらかじめ議長が指名する副議長がその職務を代理する。

(招集及び議事)

第6条 若者会議は、議長が招集する。

- 2 若者会議は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 若者会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 議長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対し、若者会議への出席を求めることができる。

(部会)

第7条 第2条に規定する所掌事務を効率的に行うため、若者会議に部会（以下「ユニット」という。）を置き、その事務を分掌させる。

2 若者会議の委員は、1以上のユニットに属するものとする。

3 ユニットごとにリーダーを置き、当該ユニットの委員の互選により選出する。

4 リーダーは、当該ユニットの事務を掌理し、ユニットにおける検討の経過や実施結果について議長に報告しなければならない。

5 リーダーは、必要があると認めるときは、ユニットの構成員以外の者に対し、ユニットへの出席を求めることができる。

(庶務及び事務局)

第8条 若者会議の庶務及び事務局は、総合企画局において行う。

(補則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、若者会議の運営に関し必要な事項は、議長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、制定の日（平成21年9月10日）から施行する。

(設立総会の招集の特例)

2 第6条1項の規定に関わらず、設立総会は、事務局が招集する。

## 未来の担い手・若者会議U35名簿一覧

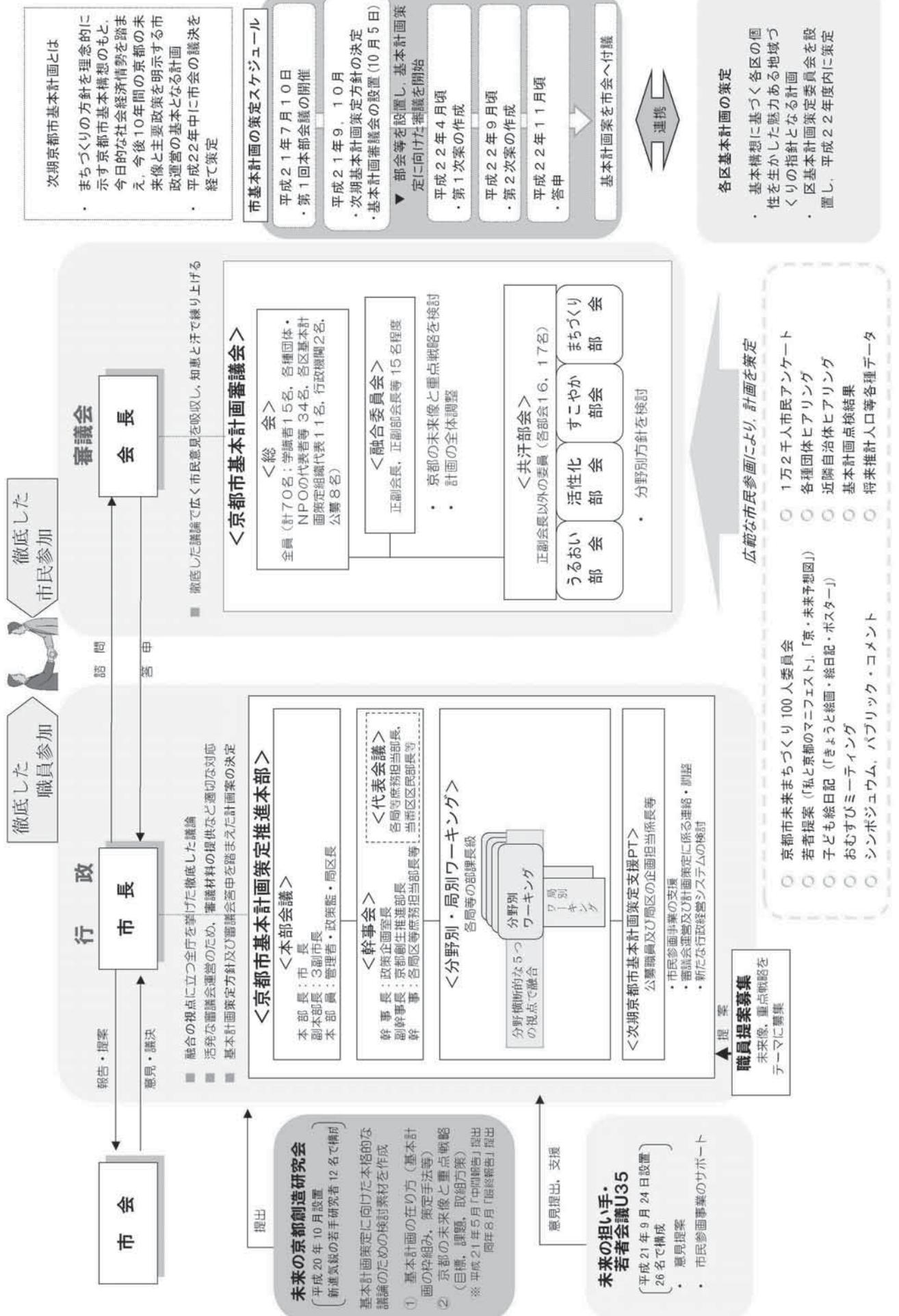
(50音順, 敬称略, 平成22年11月現在)

- ・ あきやま 秋山 しょう 翔 第7回京都学生祭典実行委員会実行委員長, 立命館大学4回生
- ・ いいた 飯田 さとし 哲史 NPO法人場とつながりラボhome's vi 事務局副理事
- ・ いのうえ 井上 ようこ 葉子 京舞井上流
- ・ かわはら 川原 ちかよ ちかよ α-STATION DJ
- ・ かん 簡 いんしん 吟馨 留学生, 京都大学大学院2回生
- ・ こしむら 越村 みほこ 美保子 株式会社越村染工場, びわこ学院大学短期大学部非常勤講師
- ・ ささおか 笹岡 りゅうほ 隆甫 未生流笹岡次期家元
- ・ さとう ひさゑ NPO法人アート・プランまぜまぜ代表
- ・ せこ 世古 かずき 和希 「私と京都のマニフェスト」優秀賞受賞者
- ・ たけうち 竹内 こういち 弘一 KBS京都キャスター
- ・ なかはな 中鼻 まこと 真箏 祇園甲部歌舞会芸妓
- ・ にしむら 西村 ひろかず 寛和 京都商工会議所青年部, 株式会社藍ぜん取締役
- ・ ニモ・グラスマン 株式会社庵オリジン事業部マネジャー
- ・ のぞえ 野添 みきお 幹雄 「私と京都のマニフェスト」優秀賞受賞者
- ・ ひらい 平井 よう 陽 「京(みやこ)・未来予想図」市長賞受賞者
- ・ ひらおか 平岡 さつき 株式会社リーフ・パブリケーションズ編集部
- ・ ひらつか 平塚 かずま 一磨 「私と京都のマニフェスト」優秀賞受賞者
- ・ ふかだ 深田 ゆうし 雄志 日本患者学会(ブルーバード)代表理事
- ・ ふじかわ 藤川 ゆうすけ 祐輔 第6回政策系大学・大学院研究交流大会実行委員長, 立命館大学3回生
- ・ ふじた 藤田 たくや 卓也 「私と京都のマニフェスト」優秀賞受賞者
- ・ 松田 ゆい 株式会社京都新聞社編集局地域報道部記者
- ・ まつむら 松村 さゆこ 幸裕子 大阪教育大学大学院3回生
- ・ まつやま 松山 だいこう 大耕 妙心寺塔頭・退蔵院副住職
- ・ やすだ 安田 ともや 智也 京都造形芸術大学講師
- ・ やまくち 山口 ひろのり 洋典 同志社大学准教授
- ・ ゆあさ 湯浅 やすよ 靖代 「私と京都のマニフェスト」市長賞受賞者

◎…議長, ○…副議長 (いずれも市長が指名)

※ 飯田委員については, 本人からの申出を受け, 平成22年11月16日付で解嘱

次期京都市基本計画の策定の進め方





世界アーティストサミット(ASK)と未来の担い手・若者会議U35との連携事業

「ASK×U35セッション」の概要

1 日時

平成21年12月14日(月) 13:00~15:30

2 会場

京都造形芸術大学ギャラリー・オーブ

3 参加者

別添参照

4 概要

(1) アーティストからのプレゼンテーション

「第3回世界アーティストサミット」に参加するアーティスト6名が、「少子高齢化」, 「環境」, 「京都らしさ」の3つのテーマを基に, 京都市内でのフィールドワークを通じて発見した「京都が持つ強み」を, 写真やパネルを用いながら, 提案を行った。

	アーティスト	提案の概要
少子高齢化	ケン	<ul style="list-style-type: none"> <li>イスラエルでは, 子どもを持つ人々に対し, 経済的支援をはじめ, 様々な支援を行っている。</li> <li>家族と共に暮らす方法をCMやドキュメンタリーで流す。</li> </ul>
	ナリン	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活費を抑制するプロジェクトを行う。</li> <li>若い人たちと「次の世代のために何が出来るか」を語ったり, 伝統的な暮らしを行っている家族との対話の場を設ける。</li> </ul>
環境	上田	<ul style="list-style-type: none"> <li>京都は鼻を使って歩くにはうってつけの場所。公共交通の整備を。</li> <li>においは消えていく。100年後を見たまちづくりを。(京都のまちなかをにおいて表現したマップを作成)</li> </ul>
	ピチェ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペットボトルのデザイン性を上げ, 土産物にすればゴミは減る。</li> <li>観光客が集まるスペースに給水所を設けたり, ツアー客にエコバックの利用を義務付ける。</li> </ul>
京都らしさ	ハーヴェイ・マルジェット	<ul style="list-style-type: none"> <li>良い状態で伝統産業の織物等を保存する方法の確立が必要。</li> <li>西陣織の工房を見学できるような観光ができるようにする。</li> <li>デザインのアーカイブの閲覧を無料にし, 世界に発信する。</li> </ul>

(2) アーティストと「未来の担い手・若者会議U35」のメンバーとの意見交換

プレゼンテーションの結果を受けて, 京都の課題を解決するための方策や今後10年間に京都市が取り組むべき政策について意見交換を行った。

※「第3回世界アーティストサミット」とは

世界が直面する深刻な問題に対し, アート・デザインの想像・創造力によって解決策を提案し「芸術による平和創造」を目指すもの。

今回は, 指名コンペ形式で選抜された6名のアーティストが, 約2週間のアーティスト・イン・レジデンスを通じて問題解決に向けたプランを模索する。

※ 参考: 世界アーティストサミットのホームページ

<http://artists-summit.org/modules/tinyd9/>

## 当日参加者

(役職・肩書きについては平成21年12月14日現在)

### 1 アーティスト(6名)

- ・ ケン・シャレム (映画監督, アメリカ)
- ・ ナリン・チャミンダ・ミーマナージ (映画監督, スリランカ)
- ・ 上田麻希 (香りのアーティスト, オランダ)
- ・ ピチェ・クランチュン (舞踏家/振付師, タイ)
- ・ ハーヴェイ・ボータース (ファッション・デザイナー, ベルギー)
- ・ マルジェット・ウェッセルス・ボア (プロダクトデザイナー, オランダ)

### 2 未来の担い手・若者会議U35(11名)

- ・ さとうひさる (NPO法人アート・プランまぜまぜ代表)
- ・ 世古和希 (立命館大学文学部3回生)
- ・ 竹内弘一 (KBS京都キャスター)
- ・ 中鼻真箏 (祇園甲部歌舞会芸妓)
- ・ 西村寛和 (京都商工会議所青年部理事, 株式会社藍ぜん取締役)
- ・ 平井陽 (京都大学大学院2回生)
- ・ 深田雄志 (日本患者学会(ブルーバード)代表理事)
- ・ 藤田卓也 (京都大学工学部4回生)
- ・ 松田ゆい (株式会社京都新聞社編集センター社会部記者)
- ・ 松山大耕 (妙心寺退蔵院副住職)
- ・ 安田智也 (京都造形芸術大学講師)

### 3 次期京都市基本計画策定支援プロジェクトチーム(6名)

- ・ 稲田和久 (中京区役所福祉部支援保護課)
- ・ 岸根郁朗 (下京区役所区民部総務課担当係長)
- ・ 櫻木友貴 (上下水道局総務部総務課)
- ・ 馬場直子 (上京区役所福祉部福祉介護課)
- ・ 古川辰也 (文化市民局市民生活部サービス事業課企画係長)
- ・ 山本学義 (産業観光局商工部産業政策課)

### 4 通訳補助:iAT京都大学国際交流サークル(6名)

### 5 司会

- ・ 戸倉理恵 (京都市総合企画局政策企画室)

## 若者提案に向けたユニット名簿

(役職・肩書きについては平成21年9月現在)

### <越村ユニット名簿>

#### 未来の担い手・若者会議U35メンバー

越村 美保子	株式会社越村染工場, びわこ学院大学短期大学部非常勤講師
湯浅 靖代	「私と京都のマニフェスト」市長賞受賞者(食空間コーディネーター)
西村 寛和	京都商工会議所青年部理事, 株式会社藍ぜん取締役
竹内 弘一	KBS京都キャスター

#### 次期京都市基本計画策定支援プロジェクトチームメンバー

高橋 慶行	交通局車両工場
小泉 進	環境政策局環境企画部環境総務課
天辰 公彦	上下水道局総務部右京営業所

### <世古ユニット名簿>

#### 未来の担い手・若者会議U35メンバー

秋山 翔	第7回京都学生祭典実行委員会実行委員長, 立命館大学3回生
簡 吟馨	留学生, 京都大学大学院1回生
世古 和希	「私と京都のマニフェスト」優秀賞受賞者
山口 洋典	同志社大学准教授, 應典院主幹

#### 次期京都市基本計画策定支援プロジェクトチームメンバー

山本 学義	産業観光局商工部産業政策課
稲田 和久	中京区役所福祉部支援保護課

### <平岡ユニット名簿>

#### 未来の担い手・若者会議U35メンバー

川原 ちかよ	α-STATION DJ
笹岡 隆甫	未生流笹岡次期家元
さとう ひさゑ	NPO法人アート・プランまぜまぜ代表
平岡 さつき	株式会社リーフ・パブリケーションズ編集部
藤川 祐輔	政策系大学・大学院研究交流大会実行委員, 立命館大学2回生

#### 次期京都市基本計画策定支援プロジェクトチームメンバー

馬場 直子	上京区役所福祉部福祉介護課
櫻木 友貴	上下水道局総務部総務課

## < 深田ユニット名簿 >

### 未来の担い手・若者会議U35メンバー

飯田 哲史	NPO場とつながりラボ home's vi 事務局副理事
井上 葉子	京舞井上流
野添 幹雄	「私と京都のマニフェスト」優秀賞受賞者
深田 雄志	日本患者学会（ブルーバード）代表理事

### 次期京都市基本計画策定支援プロジェクトチームメンバー

栢尾 恵梨子	建設局事業推進室
牧澤 憲	西京区役所区民部総務課
古川 辰也	文化市民局市民生活部サービス事業課企画係長

## < 松村ユニット名簿 >

### 未来の担い手・若者会議U35メンバー

平塚 一磨	「私と京都のマニフェスト」優秀賞受賞者
藤田 卓也	「私と京都のマニフェスト」優秀賞受賞者
松村 幸裕子	ユースACTプログラム実行委員会事務局長，大阪教育大学大学院2回生
松山 大耕	妙心寺退蔵院副住職

### 次期京都市基本計画策定支援プロジェクトチームメンバー

来海 賢一	都市計画局都市企画部都市総務課
藤本 清敏	人事委員会事務局調査課
鹿村 佳代	都市計画局住宅室住宅整備課

## < 安田ユニット名簿 >

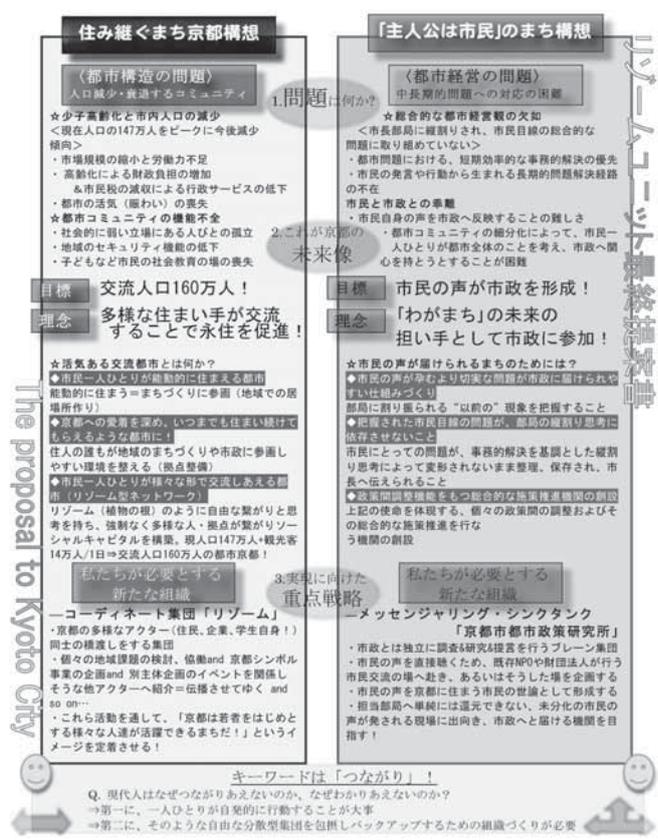
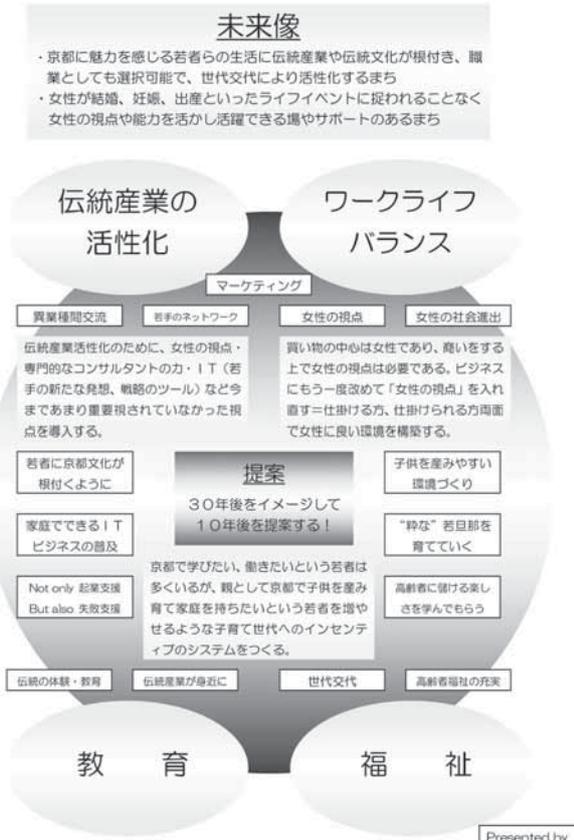
### 未来の担い手・若者会議U35メンバー

中鼻 真箏	祇園甲部歌舞会芸妓
ニモ・グラスマン	株式会社庵オリジン事業部マネジャー
平井 陽	「京（みやこ）・未来予想図」市長賞受賞者
松田 ゆい	株式会社京都新聞社編集センター社会部記者
安田 智也	京都造形芸術大学講師

### 次期京都市基本計画策定支援プロジェクトチームメンバー

木ノ切芳仁	上下水道局総務部九条営業所
岸根 郁朗	下京区役所区民部総務課担当係長

若者提案



平岡ユニット (仮名) 報告内容

Presented by  
越村ユニット  
越村ユニット  
平成 21 年 12 月 吉日

1. **リタイアした高齢者が活躍する場がなく、孤立する現代老人をひとくりに老人扱いする社会**

今、若者の視点から見て、老後とは孤独で、心身共に問題の多い暗い生活なのだというイメージを抱いています。高齢者の活躍の場がない社会では、これから活躍したい高齢者のエネルギーを無駄にしています。

例/定年後でも自分にできる仕事がないと思えば、シルバー人材育成センターなど既存のネットワークを訪ねても、窓口も暗くで地味で、仕事内容も選択の幅が狭く、現代世代から隔離されたいかにも老人用の世界に意気消沈。

暗い 年介 引退 金暮 独居 認知 老人の集い 孤独死
2. **10年後は高齢者が仕事にも趣味にも多様なアプローチを仕掛ける個人が選択し行動する、明るく楽しいマチュア(成熟)世代の誕生**

10年後の高齢者とは、現在の高齢者とは価値観や行動力、倫理観などにおいて、従来の高齢者とは大きく異なるでしょう。

例/ゆとりある時間の中で、たくさんの趣味に興じる人もいれば、ちょっとした新たな趣味やアルバイトを始める人あり。  
例/シニア「Leaf」など、高齢者用の情報誌、もといマチュアが積極的に世の中に関わっていくためのメディアが発達

仕事 趣味 多様化 PC  
楽し したり メディア  
若者より行動的 接点  
海外定住 マチュア
3. **高齢者のイメージや老人扱いなど先入観をすべて壊すこと 老若ともにアイデアを出しながら活動の場の受け皿を作ること**

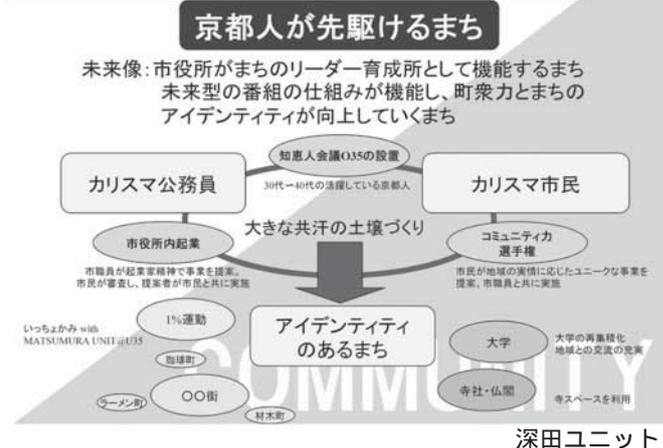
そんな社会を実現するためには、まず高齢者を老人扱いする考えをやめて社会の機能を整え、改革を生み出すことが大切です。

例/従来の老人くさいネットワークを新観のデザインで一新。全ての企画において「老人のための」という考えをやめる  
例/シルバー人材センターで「デザイナーとコラボした新たな工芸の作成」など「やりたい」と思える仕事を加える...

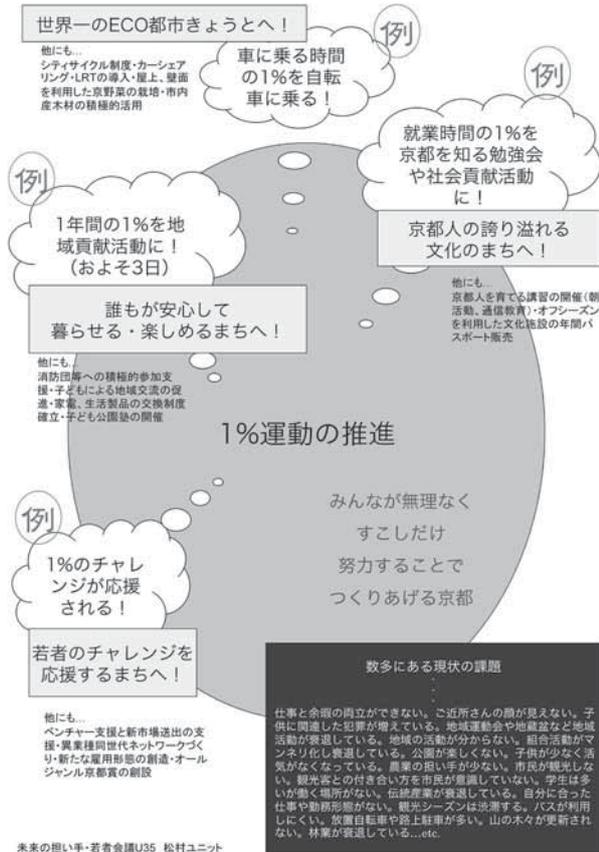
高齢者→マチュア  
若い→成熟する  
老後→第2の人生  
老人用→×

老若が共有できる場をとにかく生む

平岡ユニット



深田ユニット



未来の担い手・若者会議U35 松村ユニット



## 「パーソナルモビリティ」の導入 安全・安心・エコな街づくりに向けて

京都を世界への「パーソナル・モビリティ」発信地へ

- ・京都市内でのパーソナル・モビリティの実用化
  - 国内発の市内各所での実証実験:2010年~
  - 市内全域:2020年を目標
- ・導入目的
  - 観光「観光客」の利便性の向上
  - 安心「警察官」への導入による市民の安心・安全向上
  - エコ:観光集約の交通渋滞解消によるCO<sup>2</sup>削減
  - 交通・バス・地下鉄の利用客向上
- ・メリット
  - 産業(小売):「ツアー客」の効率的な集客
  - 産業(工業):発信地になる事で、京都の1次産業の育成
  - 自転車政策を抜本的に変える手段となる
  - 将来のロボットの産業育成の下地作りを行う事が出来る



安田ユニット



## 未来の担い手・若者会議U35 第2回総会開催後の部隊編成

(役職・肩書きについては平成22年1月現在)

◎は各部隊のリーダー

### <シンポジウム部隊> (計25名)

#### <未来の担い手・若者会議U35メンバー> (16名)

- ・ 秋山 翔 第7回京都学生祭典実行委員会実行委員長, 立命館大学3回生
- ・ 飯田 哲史 NPO場とつながりラボ home's vi 事務局副理事
- ・ 井上 葉子 京舞井上流
- ・ 川原 ちかよ α-STATION DJ
- ・ 笹岡 隆甫 未生流笹岡次期家元
- ・ 世古 和希 「私と京都のマニフェスト」優秀賞受賞者
- ・ 竹内 弘一 KBS京都キャスター
- ・ 中鼻 真箏 祇園甲部歌舞会芸妓
- ・ 平井 陽 「京・未来予想図」市長賞受賞者
- ・ 平塚 一磨 「私と京都のマニフェスト」優秀賞受賞者
- ・ 深田 雄志 日本患者学会(ブルーバード)代表理事
- ・ 藤川 祐輔 政策系大学・大学院研究交流大会実行委員, 立命館大学2回生
- ・ 松田 ゆい 株式会社京都新聞社編集局社会報道部記者
- ◎ 松山 大耕 妙心寺退蔵院副住職
- ・ 安田 智也 京都造形芸術大学講師
- ・ 湯浅 靖代 「私と京都のマニフェスト」市長賞受賞者

#### <次期京都市基本計画策定支援プロジェクトチームメンバー> (9名)

- ・ 稲田 和久 中京区役所福祉部支援保護課
- ・ 木ノ切芳仁 上下水道局総務部九条営業所
- ・ 櫻木 友貴 上下水道局総務部総務課
- ・ 鹿村 佳代 都市計画局住宅室住宅整備課
- ・ 高橋 慶行 交通局車両工場
- ・ 栢尾恵梨子 建設局事業推進室
- ・ 藤本 清敏 人事委員会事務局調査課
- ・ 牧澤 憲 西京区役所区民部総務課
- ・ 山本 学義 産業観光局商工部産業政策課

#### <オブザーバー>

- ・ 浅田 雅人 「私と京都のマニフェスト」優秀賞受賞者

## <パブリックコメント部隊> (16名)

### <未来の担い手・若者会議U35メンバー> (10名)

- ・ 簡 吟馨 留学生, 京都大学大学院1回生
- ・ 越村 美保子 株式会社越村染工場, びわこ学院大学短期大学部非常勤講師
- ◎ さとう ひさゑ NPO法人アート・プランまぜまぜ代表
- ・ 西村 寛和 京都商工会議所青年部理事, 株式会社藍ぜん取締役
- ・ ニモ・グラスマン 株式会社庵オリジン事業部マネジャー
- ・ 野添 幹雄 「私と京都のマニフェスト」優秀賞受賞者
- ・ 平岡 さつき 株式会社リーフ・パブリケーションズ編集部
- ・ 藤田 卓也 「私と京都のマニフェスト」優秀賞受賞者
- ・ 松村 幸裕子 ユース ACT プログラム実行委員会事務局長, 大阪教育大学大学院2回生
- ・ 山口 洋典 同志社大学准教授, 應典院主幹

### <次期京都市基本計画策定支援プロジェクトチームメンバー> (6名)

- ・ 天辰 公彦 上下水道局総務部右京営業所
- ・ 岸根 郁朗 下京区役所区民部総務課 担当係長
- ・ 来海 賢一 都市計画局都市企画部都市総務課
- ・ 小泉 進 環境政策局環境企画部環境総務課
- ・ 馬場 直子 上京区役所福祉部福祉介護課
- ・ 古川 辰也 文化市民局市民生活部サービス事業課 企画係長

## <ブログ部隊> (7名, シンポジウム及びパブリックコメント部隊と兼務)

### <未来の担い手・若者会議U35メンバー> (7名)

- ・ 川原 ちかよ α-STATION DJ
- ・ 世古 和希 「私と京都のマニフェスト」優秀賞受賞者
- ・ 平岡 さつき 株式会社リーフ・パブリケーションズ編集部
- ・ 藤川 祐輔 政策系大学・大学院研究交流大会実行委員, 立命館大学2回生
- ・ 藤田 卓也 「私と京都のマニフェスト」優秀賞受賞者
- ・ 松村 幸裕子 ユース ACT プログラム実行委員会事務局長, 大阪教育大学大学院2回生
- ・ 山口 洋典 同志社大学准教授, 應典院主幹

## 次期京都市基本計画 パブリックコメントの企画提案

未来の担い手U35 若者会議  
パブリックコメントタスクフォース

「形式だけのパブリックコメントはしたくない」それが我々の共通認識です。パブリックコメントが選挙と並んで<市民が市政に対して意志を示す手段><市政に市民の意見を反映させる手段>として、定着することを目指して下記のようなプランを提案します。

### ■コンセプト

- ・攻めのパブリックコメント
- ・対話のパブリックコメント

### ■2層のターゲット

- ターゲットA パブリックコメントの存在を知らない市民、市政に関心のない市民
- ターゲットB 市政に関心があるが意見を書かない市民

### ■5つの提案

#### 提案1 パブリックコメントの周知のためキャンペーンを実施【ターゲットA・B】

- ・マスコットキャラクター（パブコメくん）の設置 ・パブコメの歌制作
- ・グッズ制作 ・トラフィカ京カードのプレゼントキャンペーン
- ・メディアの積極的活用（新聞、ラジオ、テレビ、インターネット、市民新聞）

#### 提案2 「パブリックコメント募集のための冊子」へのアイデア提供【ターゲットB】

- ・目を引く表紙デザイン
- ・読み易く、意見を提出し易い形態に一新

#### 提案3 市内各地に出向いてパブリックコメントをPR+収集【ターゲットA・B】

〔常設型〕市内各所にシンボルとして「パブコメの木」を設置→意見募集を視覚化する。

実施時期：パブリックコメント募集期間 実施場所：駅ナカ、区役所、図書館等

〔イベント型〕商店街とタイアップして意見収集をイベントとして実施

イベント例：意見数を競う商店街対抗「パブコメ選手権」など

実施時期：2010年5月休日 実施場所：三条商店街、出町商店街、大手筋商店街など

#### 提案4 「若者の視点からみた基本計画」の冊子を発行【ターゲットB】

- ・未来の担い手U35若者会議メンバーが執筆

#### 提案5 分かりやすい反映【ターゲットA・B】

- ・パブリックコメントがどう反映されたかインターネットなどで発信

## パブコメ冊子への意見書

提案→実制作→事後の反省

### 提案点

別紙の通り、  
・「報告書的な視点のため、意見が集まらない問題」  
・「文言の問題」  
・「視覚的なデザインの問題」  
に分けて提案を行いました。

### 実制作

提案書をもとに、たくさんの人と相談しながら進めましたが、「2枚表紙にする」「フライヤーの色を変える」など、たくさん意見が出てきて、プロやリーダーがいない、平等な意見しか持たない会議内ではどの意見に沿うべきなのか、迷走した期間があったように感じました。

### 事後の反省

出来上がった制作物では、表紙部分では我々の意見をとりあげていただきましたが、中面のデザインや文言の選択、文字数の多さはまるきり従来のもので、読みにくさはまったく変わりませんでした。

これは「冊子を作る」際に心がけること、というよりは「施策を考える」際に、都度情報の整理を行い、文字を減らしてゆくという抜本的な改革がないと、本当に読みやすい冊子の実現は不可能だと分析しました。

また、冊子の草案については、クリエイティブディレクターなど、プロの起用が不可欠ではないかと、個人的には感じています。たくさんの方のアイデアを取り入れることは一見よいことのように思えますが、こと表現の世界に関しては一概には言えず、イニシアチブをとれる実績のある人に、ある程度の権限を持たせる方が、認知効果は上がるのではないかと思います。

## 冊子への意見書

### 問題点 (例：手に取ったいち市民の率直な感想)

#### 手に取ろうと思わない。

「表紙の中心には見慣れない計画名が据えられており、一見自分とは何の関係もない市役所の報告書かと思ひ手に取る気が起きない」

#### 報告書のように、意見をはさむ余地がない

「計画自体が完成品のようにロジック的にも整っており、口を出せないような空気がある」  
「とても自分たち市民の声が求められているとは感じられない、気付かない」

#### 文字が多すぎて読む気がなくなる

「中面は、文字が多すぎて何を読むべきかが分からない」  
「自分たちの生活にとって特に変化をもたらすような項目なら確認したいが、埋もれてしまって途中で読む気がなくなる」

### 改善点

#### 報告書ではなく、手に取る人と対話できるパブコメを

見る人の立場に立って、忙しい生活の中でも読める最小限の文字数、簡潔な章立てにしぼり込む。  
見る人に対して択一選択を誘ってみたり、わざと余白を設けて「あなたはどう思いますか？」といった呼びかけを行い意見を吸い出す

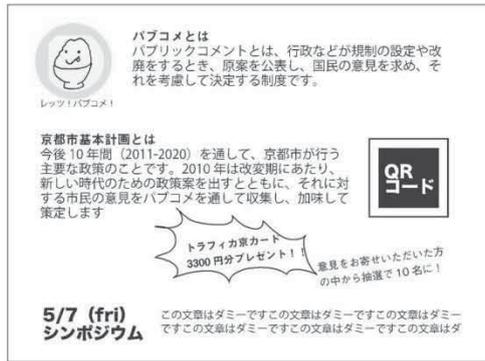
#### 紙冊子の他に、直接 web へ誘い込むフライヤーを発行

冊子の発行部数には限界があるので、web が使える若い世代に対しては web へ誘導の方が効果的。基本計画とパブコメをより立てるアイキャッチ的フライヤーを市内各地に配置し、周知と誘導を同時に行う。その際、web の動線管理も丁寧に行う。

●フライヤー表面



●フライヤー裏面



表面は文字数を絶対に増やさない

- ・各部会から象徴的な質問事項を択一方式で提示
- ・web に誘導する際、web の動線を整えておく

提案：ECO というキーワードを何とか取り入れられないか

●表紙



- 「意見を募集」の旨のキャッチコピーを大きく配置
- 計画名は小さめに配置
- 要素を盛り込みすぎない(重要事項が見えなくなるため)
- 特徴的すぎるフォントを使わない(手に取る人を限定するため)
- 何かゆるさを感じるものを飾る(「パブコメくん」など)

●中面 1~8 or 1~16



- 必要最低限の文字数と章立てにする。前年度対比など簡潔な表で数値化する
  - 見出しは大きく立てて、本文とメリハリをつける
  - 行のピッチを短く読みやすく(横に長い文だと目追いにくくなる)
  - あしらのアイコンなどはむやみに増やさず、フォントのウェイトで重要度をコントロール
- (文字削減の考え方)  
「～の充実」「～の整備」「～の促進」といった、特に市民の生活に著しい変化をもたらさない(リスクが低い)事項は冊子では割愛する。より市民の生活に変化をもたらす可能性の高い(場合に當っては多様な立場の市民に損益が生じる)重要な変更が順に掲載していき、文量は最終的に半分以上に切り捨てる。

●意見記入欄(最終P)



- 各部会、最重要項目を一つだけ決めて、答えやすい択一形式に誘導
- 提出すれば得られる景品を提示(書かなくても平等にもらえるゴミ袋などではなく、書いて出して始めて当たる、「ちょっといいもの」にする例：トラフィカ京カード 3000 円分)

資料12 シンポジウムの企画提案  
次期京都市基本計画シンポジウムの企画提案

### このフレーム(案)の構成...

- 1 前提条件
- 2 これまで開催されたシンポジウムの課題
- 3 我々が目指すシンポジウムの姿(コンセプト)
- 4 シンポジウムの企画(3つの工夫)
  - (1)会場は「開かれた場所」
  - (2)内容は「トークショー形式」
  - (3)興味を持ってもらう「イベント」の同時開催

### 1 前提条件の確認

- 1 前提条件
- 2 これまで開催されたシンポジウムの課題
- 3 我々が目指すシンポジウムの姿(コンセプト)
- 4 シンポジウムの企画(3つの工夫)
  - (1)会場は「開かれた場所」
  - (2)内容は「トークショー形式」
  - (3)参加したいと思うような雰囲気づくり

### 1 前提条件

(1)シンポジウムは、5月と9月に実施  
5月 ⇒ 「多くの意見を集めたい！」  
9月 ⇒ 「多くの市民に伝えたい！」

(2)5月は、次期基本計画一次案のパブリックコメントと合わせて、できるだけ多様な人から多くの意見を集めたい。

(3)若者会議の使命は、  
「市民目線のシンポジウムを開催するために」  
「(キャスターやDJ等の)プロの経験を活かし」  
「若者らしさを盛り込んだ」企画を検討・実施支援すること

### 2 これまで開催されたシンポジウムの課題

- 1 前提条件
- 2 これまで開催されたシンポジウムの課題
- 3 我々が目指すシンポジウムの姿(コンセプト)
- 4 シンポジウムの企画(3つの工夫)
  - (1)会場は「開かれた場所」
  - (2)内容は「トークショー形式」
  - (3)参加したいと思うような雰囲気づくり

### 2 これまで開催されたシンポジウムの課題

(1)高齢者の参加者が多い  
⇒ 現行基本計画策定時に開催されたシンポジウムでは、参加者の66%が50歳以上  
(原因として、行政のシンポジウムのリピーター、動員による参加者が多いことが理由だと考えられる。)

(2)参加を申し込むのが邪魔くさい  
⇒ 「わざわざ出かける会場」、「事前申込」など、参加を申し込むことが邪魔くさい、無関心層はもとより、関心を持っているが多忙な人々の参加も得難い。

(3)内容、雰囲気が堅苦しい  
⇒ 若者層をはじめとして、市民にとっては難しい・とつき難い内容・話題、立ち並ぶ行政と研究者達という構図の堅苦しさ、市民からの意見を聴取しにくい静まり返った雰囲気

### 3 我々が目指すシンポジウムの姿(コンセプト)

- 1 前提条件
- 2 これまで開催されたシンポジウムの課題
- 3 我々が目指すシンポジウムの姿(コンセプト)
- 4 シンポジウムの企画(3つの工夫)
  - (1)会場は「開かれた場所」
  - (2)内容は「トークショー形式」
  - (3)参加したいと思うような雰囲気づくり

### 3 我々が目指すシンポジウムの姿(コンセプト)

#### <目指す姿①>

多様な人が、自由に参加できるような仕組み

- ・ 開かれた会場(新風館, 京都駅ビル大階段, 京都駅前広場など)
- ・ たまたま会場に来た方, 会場の近くを往来する方を引きずりこむ工夫
- ・ 様々な場所で事前・同時広報し, とにかく来てもらう

### 3 我々が目指すシンポジウムの姿(コンセプト)

#### <目指す姿②>

「翻訳者」が審議会と市民をつなぐ

- ・ 動きのある「トークショー」形式で開催
- ・ 審議会の高度な議論を日常会話レベルに翻訳する「キャスター」の存在
- ・ 聴衆の言葉を拾い, 代弁する「DJ」の存在
- ・ その場で聴衆と語る「若者」の存在

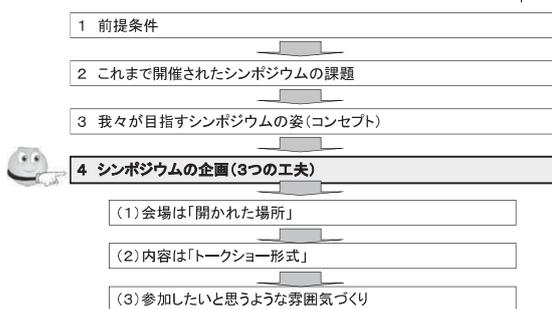
### 3 我々が目指すシンポジウムの姿(コンセプト)

#### <目指す姿③>

参加したいと思うような雰囲気をつくる

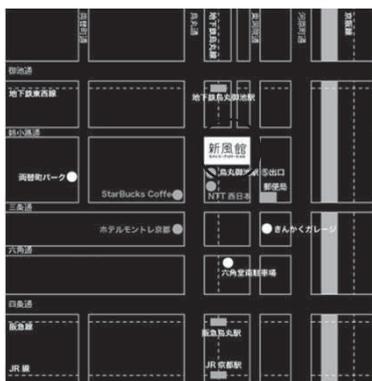
- ・ 学生による「基本計画キャッチコピーコンテスト」, 音楽ライブなどのイベントを同時開催
- ・ カフェでくつろぎながら, 自由に語り合い, 発言できるような場づくり
- ・ スタイリッシュな雰囲気づくり

### 4 シンポジウムの企画(3つの工夫)



#### (1)会場は「開かれた場所」

とりあえず来て, 立ち寄ってもらえる場所……

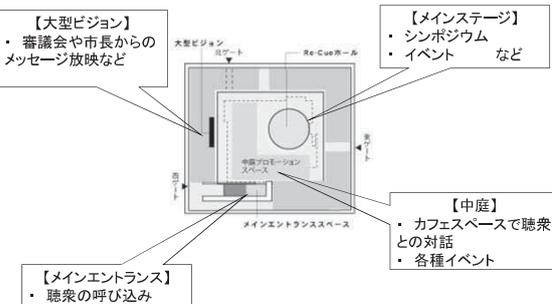


→ 新風館

<事前広報>  
・ 周辺駅やカフェでの直前呼び込みの実施

・ KBSやαステーション(竹内さん, 川原さん, 真筆さん)でのPR

#### 新風館の利用イメージ



## 新風館を用いる場合の課題と解決策

### ①雨天時の対策

- ・メインステージの屋根、テントの設置により、140席程度の座席を確保（なお、過去5年間の実績からは、降雨の可能性は低い。）

### ②バリアフリー

- ・スロープ(エントランス)、エレベーター、各階に車椅子用トイレ完備

### ③若者層以外の取り込み

- ・地下鉄を利用した事前告知等により広い層から参加を呼びかける。

### ④商業施設であり、来場者の注意力が散逸する可能性

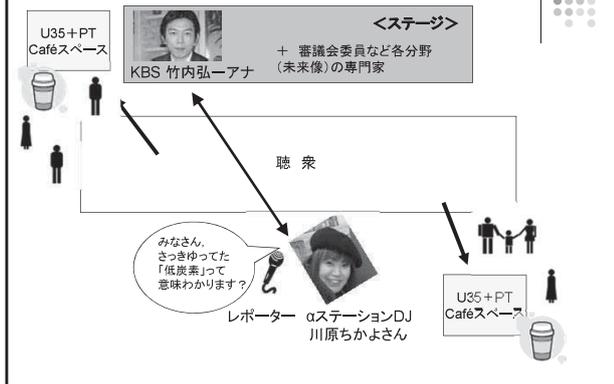
- ・カフェや対話のスペースを設置し、若者会議のメンバーが来場者と対話し、意見聴取

## (2)内容はトークショー形式

⇒前後にイベントを開催し、聴衆を増やしなが  
ら、トークショーを開催

時間	メインステージ
10:00-12:00	キャッチコピーコンテスト
13:00-13:30	オープニングイベント
13:30-15:30	シンポジウム(トークショー形式)
15:30-16:00	聴衆参加型イベント
17:00-18:00	ライブ
18:00-19:00	クロージングイベント

## (2)内容は「トークショー形式」



## (3)参加したいと思うような雰囲気づくり ⇒イベントの同時開催、くつろぎの場づくり

時間	メインステージ	イベント・しつらい
9:00-10:00		1%運動(歩く広告)
10:00-12:00	キャッチコピーコンテスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会場周辺での呼び込み・誘導</li> <li>・U35+PTカフェスペース(意見聴取)</li> <li>・生花、セグウェイなど</li> </ul>
13:00-13:30	オープニングイベント	
13:30-15:30	シンポジウム	
15:30-16:00	聴衆参加型イベント	
17:00-18:00	ライブ	
18:00-19:00	クロージングイベント	

## その他当日イベントのイメージ

### ＜ステージ では・・・＞



シンガーMAKOTOさんによるオープニングライブ、  
井上葉子さんによる京舞 &



笹岡隆甫氏による未来の京都を  
イメージしたいけばなパフォーマンス など

学生キャッチコピーコンテストについては、基本計画のキャッチコピーについて、通常のプレゼン手法にとどまらず、音楽や演劇、ダンスなど、様々な手法でプレゼンを行えるものとする。

### ＜U35+PTカフェスペースでは・・・＞

お茶を飲みながら、パブコム部隊(リーダー: NPOアート・プランまぜまぜ代表 さとうひさゑ)が中心となり、聴衆との対話型の意見聴取を実施



U35+PT  
Caféスペース

## その他市民参加事業の取組イメージ

基本計画を市民に分かりやすくPRし、各世代が利用する場所・集う場所において、各ターゲットに応じた意見聴取を実施

### 例)

高齢者・生産者世代の意見・・・

地下鉄の駅ナカに「目安箱(パブコム回収簿ボックス)」を設置し、同時に、基本計画を分かりやすく紹介したグランリーフ(高齢者向け生活情報誌)やマンガを設置



### 例)

子育て世代の意見・・・

こどもみらい館で若者会議の子育て世代らとともに、対話型の意見交換を実施



(融合委員会報告資料)

平成22年6月29日  
未来の担い手・若者会議U35  
議長 松山 大耕

## 京都市基本計画第1次案に係る「未来の担い手・若者会議U35」の活動について

### 1 活動内容

#### (1) 「どうすんねん京都!? 次期京都市基本計画シンポジウム」の開催

- ・ 若者会議が企画運営し、5月29日(土)、新風館において開催。
  - ・ 座席には延べ500名の方々に着席いただき、傍聴いただいた。
  - ・ 会場に市民との対話スペースを設置。23名から意見を回収した。
- ※ シンポジウムにおいて「河川敷や公園にベビーカーが入れるようにして欲しい。」という聴衆からの提案があった。この点については、京都市で平成12年頃から車椅子やベビーカーの利用に支障のない形式の車止めを順次採用しており、今後も維持補修の一環として対応する、とのこと。

#### (2) 出前パブリック・コメントの実施

- ・ 若者会議メンバーが市民と直接対話し、67名から意見を頂戴した。

(開催場所と実施日)

- ・ 山科青少年活動センター(5.22, 6.5)、中京青少年活動センター(5.24)
- ・ 「どうすんねん京都!? 次期京都市基本計画シンポジウム」(5.29)
- ・ 京都三条会商店街コミュニティ・ホール(6.7)
- ・ 地下鉄5駅(北大路, 烏丸御池, 京都市役所前, 三条京阪, 京都)(6.13)
- ・ 京都市立西京高校(6.18)

#### (3) パブコメ巣箱などの設置

- ・ 地下鉄及び私鉄各駅並びに商業施設など、計21箇所に設置。76名から意見を回収した。

※ 合計で322名からパブリック・コメントが寄せられたが、そのうち、若者会議が企画した取組により回収したのは166名分(全体の約51%)であった。

また、ゆるキャラ「パブコメ君」を京都市情報館のバナーに採用するなど、HPを利用した意見回収にも貢献したと考えている。

### 2 活動内容を通じた若者会議からの提案など

#### (1) 「『仕事』, 『家庭』, 『社会貢献』の3つを充実させる人を『一流の社会人』と考える真のワークライフバランスの推進」

- ・ 第2回融合委員会において若者会議から提案した内容であるが、パブリック・コメント期間中における市民との対話を通じ、再度提案する必要があると考えた。
- ・ そこで、重点戦略等の文言に盛り込むなど、第2次案の検討に向けた審議課題として提案したい。

(再提案の理由)

第1次案の重点戦略には、「仕事と生活が調和し男女が共に子どもを育てる社会」として「子育て」の観点で記述されているが、これを一歩進めて、「社会貢献との調和や多様な働き方を実現するような戦略」が必要である、と考えたため。

#### (2) パブリック・コメントの振り返り(別紙参照)

- ・ 全体として、「多くのパブリック・コメントが集まり、効果的な取組だった。」と総括したい。
- ・ 第2次案に対するパブリック・コメントの募集期間中に実施する取組については、今回の成果を活かし、早い段階から企画・準備を行いたいと考えている。

## パブリック・コメントに係る若者会議の活動の「良かった点」と「反省点」

	良かった点	反省点
パブコメ君	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PR効果があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意匠登録など、パブコメ君の今後の在り方を検討しておく。</li> </ul>
巣箱	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巣箱での意見回収率は高かった。</li> <li>・意見募集をしているというアピール力はあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置場所で巣箱が目立たなかった。</li> <li>・商業施設等に対し、もっと早くから働きかけをしておけばよかった。</li> </ul>
出前パブコメ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な取り組みだった。</li> <li>・耳を傾けてくれる人もいた。</li> <li>・西京高校でも色々話が聞けた。</li> <li>・直接京都の未来について話し合う機会を作れた。</li> <li>・若者会議のメンバーも、市民からパワーをもらうことができた。</li> <li>・ゆるキャラは有効であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年活動センターでの取組方法をもう少し検討すべきだった。</li> <li>・ターゲット別にテーマを絞って実施してもよかった。</li> <li>・市民を「その気にさせる」ことは難しい。</li> <li>・説明するための知識が足りなかった。</li> <li>・もやもやした思いを形にする方法を検討すべき。</li> <li>・フライヤーの作成をもっと早くすべきであった。配布方法も工夫が必要。</li> <li>・出前なので、企業出前、子育てサークルを含めて、注文を取る仕組みを考えてはどうか。</li> </ul>
概要版冊子の作成について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概要版の表紙が目につくところに置くことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概要版の冊子の翻訳者は難しい。</li> <li>・概要版のデザインが分かりにくい、という指摘もあった。</li> <li>・「概要版作成部隊」になっている（時間を取られている）状況があった。</li> </ul>
全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画していたことの大半は実現できた。</li> <li>・手にとってもらいやすいフライヤーを作成することができた。</li> <li>・今までと異なる形式で効果的な発信ができた。</li> <li>・新たなパブコメ手法を試すことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出遅れ・準備不足があった。</li> <li>・ソフト（出前の仕方）とハード（フライヤーの作成）の両面で行えばよかった。</li> <li>・事業実施時点での人員不足があった。</li> <li>・マスコミへのアピール、PR・話題づくりが少なかった。</li> <li>・企画段階から、個別の事業の目的やターゲットを明確にできなかった。</li> <li>・シンポジウム部隊との連携がうまくいかなかった。</li> <li>・パブコメ期間中の状況を示す工夫が必要。</li> <li>・全庁的な取組になってきていなかった。</li> </ul>

(融合委員会報告資料)

平成22年8月9日  
未来の担い手・若者会議U35  
議長 松山 大耕

第2次案に対するパブリック・コメントに係る  
未来の担い手・若者会議U35からの提案

1 巣箱（市民意見投票箱）の設置（合計 24箇所）

次の鉄道駅，商業施設等に右写真の巣箱を設置します。

⇒前回の21箇所から3箇所増加！

(1) 鉄道駅（17箇所）

市営地下鉄（国際会館，北大路，丸太町，烏丸御池，京都，竹田，太秦天神川，京都市役所前，三条京阪，山科，醍醐），京阪電車（出町柳），阪急電車（烏丸，桂，河原町），京福嵐山線（四条大宮，北野白梅町）

(2) 公共施設等（7箇所）

キャンパスプラザ京都，京都商工会議所，こどもみらい館，中京区青少年活動センター，ラクセーナ専門店 等



2 出前パブコメの実施

様々な場所に出かけて，直接市民の皆さんと対話します。

(実施予定) ※内容を変更する可能性があります。

日時	実施場所	実施方法
12日(日) 12:00-15:00	ゼスト御池広場	・京都文化祭典 2010 オープニング・イベントにブースを出店
14日(火) 18:00-19:00	キャンパスプラザ京都	・政策系大学交流会実行委員会への出前パブコメを実施
17日(金) 19:00-20:30	京都商工会議所	・京都商工会議所青年部会への出前パブコメを実施
19日(日) 10:30-19:00	梅小路公園	・京都音楽博覧会 2010 にブースを出店

(その他の予定：日程調整中)

市立日吉ヶ丘高校，京北町（京北商工会女性部や林業研究会の「樹樹の会」），子育て世代のお母さん方 など

(融合委員会報告資料)

平成22年10月26日  
 未来の担い手・若者会議U35  
 議長 松山 大耕

基本計画第2次案のパブリック・コメントに係る  
 「未来の担い手・若者会議U35」の活動報告と今後について

1 出前パブコメの実施

若者会議メンバーが市民等と直接対話し、404名から意見を頂戴した。

(出前パブコメ一覧)

実施日、会場	内容
11日(土) 14:30-18:00 京都市呉竹文化センター	(社)京都青年会議所9月オープン例会(第7回京都学生人間力大賞 最終選考会・授賞式として開催)に参加された約600名を対象に、パブコメの提出を呼びかけた。
12日(日) 12:00-15:00 ゼスト御池	「京都文化祭典オープニングイベント」にブースを設置し、81名から意見を頂戴した。
12日(日) 9:00-16:00 ウッディー京北(一帯)	ウッディー京北など京北町の主要施設を拠点に、市民意見募集冊子やタブロイド版を約200名に配布し、35名から意見を頂戴した。
14日(火) 18:30-20:00 キャンパスプラザ京都	京都の政策系学部・大学院生で構成される「政策系大学・大学院研究交流大会実行委員会」のメンバーを中心に構成する4つのグループから政策提案を頂戴した。
17日(金) 19:00-20:45 京都商工会議所	京都の若手青年経営者、後継者で構成される「京都商工会議所青年部」のメンバーから60名の意見を頂戴した。
19日(日) 10:00-17:00 梅小路公園	野外音楽フェスティバル「京都音楽博覧会」にブースを設置し、236名から意見を頂戴した。
22日(水) 15:00-16:00 とねりこの家	子育て世代を中心に市民意見募集冊子を配布しながら対話を行った。
27日(月) 16:20-17:20 京都市立日吉ヶ丘高校	コミュニケーション能力の中でも特に英語運用能力の向上に力を入れておられる「国際コミュニケーション科」の2年生12名と意見交換を実施した。

2 パブコメ巣箱などの設置

地下鉄及び私鉄各駅並びに商業施設など、計24箇所に設置。56名から意見を頂戴した。

3 パブリック・コメントの総括(詳細は別紙参照)

- ・ 合計で568名からパブリック・コメントを頂戴したが、そのうち、若者会議が企画した取組により頂戴した意見は460名分(全体の約80.9%)であった。
- ・ 多くの市民が集まる「第7回京都学生人間力大賞 最終選考会・授賞式」や「京都音楽博覧会」において、市民意見募集冊子や第2次案の内容をまとめたタブロイド版を配布するなど、基本計画の周知活動にも積極的に取り組んだ。

4 今後の取組

- ・ 基本計画策定後、より多くの市民に周知するために、平成23年1月頃に「自分たちが動けば、未来が変わる～未来の担い手フェスティバル～(仮称)」を開催する予定。

## パブリック・コメントに係る取組の総括

当初、未来の担い手・若者会議U35が掲げたパブリック・コメントに係る取組の目標、事業計画に対し、「どの程度実現できたか」を確認、総括した。

## 1 目標

「パブリック・コメントの存在を知らない市民，市政に関心のない市民」や「市政に関心があるが意見を書かない市民」に意見を書いてもらうという目標を設定した。

これに対し，第1次案及び第2次案通じて，約900名の方々に意見を書いていただくことができ，概ね実現することができたと考えている。

## 2 当初の事業計画と実現内容

当初の事業計画	実現内容
<b>1 パブリック・コメントの周知のためキャンペーンを実施</b> ・ マスコットキャラクター（ゆるキャラ）の制作 ・ パブコメの歌制作 ・ グッズ制作 ・ メディアの積極的活用（新聞，ラジオ，テレビ，インターネット，市民しんぶん）	・ 「パブコメくん」を考案し，広報・啓発キャラクターとして効果的に活用した。 ・ ブログやツイッターの活用など，これまでの行政の取組にはなかったメディアを活用した。 ・ 出前パブコメ先の市民がブログなどで若者会議の取組について情報発信してくれるなど，市民に「共鳴」してもらえた。
<b>2 パブリック・コメント募集のための冊子への意見書提出</b> ・ 目を引く表紙デザイン ・ 読みやすく，意見を提出しやすい形態に	・ 表紙デザインをはじめ，第1次案では意見募集冊子の構成についても作成に携わり，従来より分かりやすい冊子をつくることができた。
<b>3 市内各地に出向いてパブリック・コメントをPR+収集</b> ・ 駅ナカ，区役所，ママさんサークルなどで実施 ・ 意見募集を視覚的に表す「パブコメの木」をシンボルにする ・ パブコメの団体戦（パブコメ選手権）で意識啓発	・ パブコメ巣箱の設置（第1次21箇所，第2次24箇所），出前パブコメの実施（第1次10箇所，第2次8箇所）などにより，市内各所でPRと収集を行った。 ・ パブコメの木の代わりに，マスコットキャラクター（パブコメくん）を活用し，会場で提出された意見を貼り出し，意見募集を視覚的に表すことができた。
<b>4 「若者の視点からみた基本計画」の冊子を発行</b> ・ 未来の担い手・若者会議U35メンバーが執筆	・ 審議会（総会，融合委員会，共汗部会）を傍聴し，会議の様子をレポートする「傍聴記」を作成し，情報発信を行うことができた。
<b>5 分かりやすい反映</b> ・ パブリック・コメントがどう反映されたかインターネットなどで発信	・ パブリック・コメントの反映内容はインターネットなどで発信された。 ・ 個々のパブコメの内容と審議会における対応案とを比較し，反映状況を検証できるような仕組みを検討してもよかった。

※ 今後，これらの手法を市民参画に活かすための取扱方法の検討や報告書の発刊も検討したい。

## 「出前パブコメ」各開催場所ごとのまとめ

実施会場	京都市山科青少年活動センター	京都市中京青少年活動センター
実施日	平成22年5月22日、6月5日	平成22年5月24日
期待(思い)	全くの手探りであったけれど、「若者が発信する21世紀の山科の街づくり」などのプログラムもあり、何とか意見交換ができると考えていた。たこやきを焼きながら、談話型パブコメの実施を期待。	市の施策などが、若者、特に中高生年代に届いていない現状から、青少年活動センターの利用対象者である中学生から30歳までの青少年・若者に対して、基本計画およびパブリック・コメントの存在を知ってもらいたいと考えた。また、これをきっかけに、市政に関心を持ってもらうことを期待した。
ターゲット	<input type="radio"/> A. パブコメの存在を知らない市民、市政に関心のない市民 <input type="radio"/> B. 市政に関心があるが意見を書かない市民	<input type="radio"/> A. パブコメの存在を知らない市民、市政に関心のない市民 <input type="radio"/> B. 市政に関心があるが意見を書かない市民
スタイル	<input type="radio"/> A. 攻めのパブコメ <input checked="" type="radio"/> B. 対話のパブコメ	<input type="radio"/> A. 攻めのパブコメ <input checked="" type="radio"/> B. 対話のパブコメ
準備	第一次案の概要冊子を用意しただけで、センターの職員さんとも事前の打ち合わせを充分にしたわけではなく、出前パブコメを成立させるという意気込みだけで訪問してしまった。	担当職員と話し合っ、中京青少年活動センターのロビーを使って出前パブコメをおこなうこと、日時、形式等を決定。当日まで、出前パブコメをおこなうことをチラシで広報。センターのロビー等で配布。気軽に「話せる」雰囲気になるように、カフェ形式で、お茶やお菓子を準備。
結果	当日は、「たこやき」を作りながら、親睦を深めると言うプログラムであって、主に中学生の参加者と、材料の仕入れ、たこ焼きを作るということに終始してしまった。プログラムの最後に、時間を割いてもらい、基本計画の話をした。全体的に、漠然とした将来像になってしまったが、各参加者からの生の声を聞くことはできた。	高校生から20代の若者まで、20人弱の若者が入れ替わり立ち替わり、U35メンバーと京都の未来についてを話し合った。
考察(評価できる点、こうすればもっと良かった点、苦勞した点など)	事前準備無しでは、充分な話を聞くことができないことを痛感した。ターゲットとの関係をどうつくって、話を引き出すかが課題であることが分かった。初回の出前パブコメとして、次回以降の実施に向け課題を鮮明にしたと思う。イベントに注力しすぎて、基本計画について談話することができなかった。こちらの思いだけで全体を漠然と話すとなかなか伝えることが難しいため、相手がどのようなことに興味があるかを引き出すことが大事だとわかった。	中京青少年活動センターでも、市政に関心を持ってもらいたいと考えている職員がおり、センター側とU35の想いが合致したこと。対話はできたが、パブコメを書くという行為に至らなかった。フライヤーができあがっていなかったため、パブコメ用紙に書くにはハードルが高いと考えられる。また、一度持ち帰ってしまうと、書くことへの意識も下がってしまうので、その場で書いてもらうことを勧められれば良かった。しかし、対話型の出前パブコメをおこなうにあたって、いろいろ改善していける点を見いだせた点で、実施できたことが評価できる。

実施会場	「どうすんねん京都!? 次期京都市基本計画シンポジウム」(新風館)	三条会商店街コミュニティスペース
実施日	平成22年5月29日	平成22年6月7日
期待(思い)	基本計画の第1次案の内容を伝えるシンポジウムの会場において、参加者や新風館への来訪者に対し、①アクティブにパブコメを仕掛けることによって、日頃主張をされない方々の声にならない声を引き出すとともに、②シンポジウムを聞かれた参加者から、それに対する意見等を直に聴き出すことを狙った。	地元の方が多く集まる商店街で活動を進めることで、基本計画を多くの人に知ってもらい地元住民のパブコメをいただきたい。最近の三条会は若者の出店や子育て世代の定着により、お年寄りから若者までの幅広い層の人と触れあうことができる。
ターゲット	<input checked="" type="radio"/> A. パブコメの存在を知らない市民、市政に関心のない市民 <input checked="" type="radio"/> B. 市政に関心があるが意見を書かない市民	<input checked="" type="radio"/> A. パブコメの存在を知らない市民、市政に関心のない市民 <input type="radio"/> B. 市政に関心があるが意見を書かない市民
スタイル	<input checked="" type="radio"/> A. 攻めのパブコメ <input checked="" type="radio"/> B. 対話のパブコメ	<input checked="" type="radio"/> A. 攻めのパブコメ <input checked="" type="radio"/> B. 対話のパブコメ
準備	当初は、シンポジウムの会場を借りて、パブコメカフェを実施する予定であったが、カフェを止め、テント1張りに机と椅子を配置しただけのものとした。会場には、パブコメくんののぼり及びパネルを配置し、傍聴記及び市民しんぶんの記事を掲示した。また、パブコメを記入して頂いた方へのロイヤリティとして、市政グッズを用意した。さらに、パブコメ中にお子さまを預かる仕掛けとして、模造紙を用意し、自由に落書きして頂いた。	三条会商店街ではコミュニティスペース(10畳くらい)をお借りすることができた。事前に何度か理事長さんと打合せをして、準備を進めた。ゆるキャラ3体(かみぎゆうくん、エコちゃん、たわわちゃん)は人気のため、予約必要。運搬準備や中に入る人の調整も必要であった。
結果	若者からお年寄りまで、多くの世代の方々の話を聴くことができ、その場で、23件のパブコメを頂くことができた。また、その場で投函頂けなかった方にも、パブコメの仕組みを理解して頂くことができ、パブコメ期間やWebで簡単にコメントできること、パブコメの巣箱でも意見を回収していることを伝えることができた。	当日は基本計画の冊子を配るパブコメ周知、パブコメ巣箱の設置、談話パブコメ、ゆるキャラによる集客を実施。
考察(評価できる点、こうすればもっと良かった点、苦労した点など)	当初は、受け身の姿勢で、興味のある方に訪れて頂くだけでは、コメントが得られないため、積極的に声を掛け、対話を通じて意見を聴き、それをパブリックコメントして頂くことにより、パブリックコメントは難しいものでないことを理解して頂けた。一方、常日頃から市政に不満を持つ方のクレームのはけ口となることもあり、カウンセリング能力も必要と感じた。	普段、基本計画を知らない(意識していない)人達にも、色々と話を聞くことができた。商店街ならではのパブコメももらえた。人通りが多く、基本計画の周知には良かった。平日での実施のため、働いている人とのふれあいが少なかった。比較的若者の多い商店街なので、出店している若者に飛び込みパブコメをしてもおもしろかったのでは。

実施会場	地下鉄主要駅（北大路、烏丸御池、京都市役所前、三條京阪、京都）	京都市立西京高等学校
実施日	平成22年6月13日	平成22年6月18日
期待（思い）	地下鉄駅には、パブコメの巣箱を設置してあるので、その周知も含め実施した。 電車の待ち時間を使って、周知とコメントを頂ければと思っていたが、ホームでの実施は、安全面から実施できず、改札外での実施となった。	京都の未来を担う人となるための先進的な取組をおこなっている西京高等学校で、高校生たちがどのように現在の京都について考え、またこれからの京都についてどのような想いをいただいているのか知りたいという期待。
ターゲット	Ⓐ パブコメの存在を知らない市民、市政に関心のない市民 B. 市政に関心があるが意見を書かない市民	Ⓐ パブコメの存在を知らない市民、市政に関心のない市民 Ⓑ 市政に関心があるが意見を書かない市民
スタイル	Ⓐ 攻めのパブコメ Ⓑ 対話のパブコメ	Ⓐ 攻めのパブコメ Ⓑ 対話のパブコメ
準備	のぼり、第一次案タブロイド、フライヤー、キャンピングテーブル。 通りすがりの人を対象としているので、伝えることに重点を置いた。	西京高校側（教頭）のニーズ把握の上、時間内でのプログラム組み立て。当日参加できるU35メンバー（高校生に語りたことがある、直接聴きたいと考える）の募集。西京高校側で1、2年生を中心に募集。電話、メール等で、教頭とやりとり（事務局）。 手法 U35メンバー5人の島を作り、高校生が関心を持ったメンバーのところへ行き、グルーピング。メンバーが、それぞれの経歴や京都の未来についてどのように考えているかを20分ほど語ったあと、高校生と40分ほど議論。最後にパブコメ用紙に自身の意見を書き提出してもらう形式をとった
結果	テーブルに着いて、じっくりとお話いただける場面もあり、タブロイド、フライヤーも相当数、配布することが出来た。 一つの駅の実施時間が短くなってしまったが、広い面的な活動が出来た。	当初予定していたよりも多くの高校生が集まった。グルーピングも、概ねうまくいき、それぞれのグループでU35メンバーの個性が出たやりとりの様子がみられた。議論後、パブコメ用紙にぎっしりと意見を書く高校生が数多くいた。
考察（評価できる点、こうすればもっと良かった点、苦労した点など）	活動人数が限られてしまったので、一駅ごとに移動しながらの取組となったが、人数が許せば、数駅、同時開催で効果があげられるのではないかと思う。 みんなピンク T シャツを着ていて少し威圧感があったけれど、人通りの多い場所で実施できたので取組周知の効果は高かったと考えられる。急いでいる方が多く、パブコメに切り込むことが難しかった。	集まった高校生が比較的問題意識の高い高校生集団であった可能性がある。対話の出前パブコメであったことから、高校生自身の問題意識と基本計画の方向性を関連づけることで、10年後の京都の未来についてというテーマでパブコメが書きやすくなったのではないかと。 U35メンバーが基本計画の方向性について、深く読み込めていなかった部分もあったので、PTの職員も一緒にグループに入る、もしくは事前にレクチャーをおこなっていただければよかった。 事前にどのような高校生が集まるかわからなかった部分もあり、グループ内での議論は、メンバーのファシリテート力に左右された。

実施会場	第7回京都学生人間力大賞受賞式（京都市呉竹文化センター）	京北町（ふれあい朝市・ウッディー京北・サンダイコー京北店・京北合同庁舎会議室）
実施日	平成22年9月11日	平成22年9月12日
期待（思い）	第2次案最初の出前パブリックコメントの会場として、当日600名以上の関係者が訪れる会場でPRすることで周知を狙った。	市の中心部だけでなく、山間部地域の方々にも基本計画を知ってもらい、パブコメをいただきたい。平成17年に京都市に編入した京北町において活動することで、山間部地域の方々の編入後の複雑な心持ちをとらえることを期待。京北地域において、地域の活性化に取り組む方々の熱い思いをとらえることを期待。
ターゲット	<input type="radio"/> A. パブコメの存在を知らない市民、市政に関心のない市民 <input type="radio"/> B. 市政に関心があるが意見を書かない市民	<input type="radio"/> A. パブコメの存在を知らない市民、市政に関心のない市民 <input type="radio"/> B. 市政に関心があるが意見を書かない市民
スタイル	<input type="radio"/> A. 攻めのパブコメ <input checked="" type="radio"/> B. 対話のパブコメ	<input type="radio"/> A. 攻めのパブコメ <input checked="" type="radio"/> B. 対話のパブコメ
準備	基本計画審議会委員の平井誠一氏の紹介により、事務局を中心に主催者と連絡をとった。	京北合同庁舎会議室の予約。ふれあい朝市・ウッディー京北・サンダイコー京北店における出前パブコメ実施の了解を得る。現地での出前パブコメ実施のシミュレーション。備品（机・イス）の使用許可を得る。地域の活性化に取り組む方々（ペンション愛宕道の方、和太鼓雄進浩の方、京北商工会の方、周山自治会長、佛教大の小野郷活性化に取り組む方、おむすびマーケット事務局）へ談話型パブコメの参加交渉。おむすびマーケットにて広報活動。広報チラシを貼る（ウッディー京北とサンダイコー）。
結果	授賞式の始まる前に舞台上でPRをするとともに、開場前ロビーに巣箱を設置した。	ふれあい朝市では、お買い物の皆様・お店の皆様に基本計画タブロイド、パブコメフライヤー等を配布。フライヤーにパブコメを書いていただく。一方、ふれあい朝市運営事務局の方々と談話型パブコメ。ウッディー京北、サンダイコー京北店では、お買い物の皆様に基本計画タブロイド、パブコメフライヤー等を配布。パブコメをいただく（フライヤーに書いてもらい、話を聞いて書く）。会議室の談話型パブコメでは、地域活性化に取り組む方々へ基本計画の概要説明、模造紙を広げてください。ご意見いただく。 ・パブコメを提出していただいた方：35名 ・市民意見募集冊子やタブロイド版を配布した人数：約200名
考察（評価できる点、こうすればもっと良かった点、苦勞した点など）	主催者（社）京都青年会議所との意思疎通がうまくいっていなかった。結果として収集できた意見は0件だった。出前パブコメ前の協議の必要性を感じた。	山間部の方々が抱える思いの一端をうかがうことができた。地域の活性化に取り組む方々と交流を持つことができた。基本計画やパブコメを知ってもらうきっかけとなった。京北地域でも割と人が集まる場所で実施できたので、周知の効果は良かったと考えられる。ふれあい朝市事務局の方が楽しそうに熱く語っていた。 地元の新聞広告や回覧板にチラシを入れる、自治会長から取り組みを周知いただくなど、広報活動を戦略的にすると、もっとたくさんの方々に集まっていたと考えられる。ちょうど稲刈りの時期のため、農家の方は足を運びづらい日程だった。

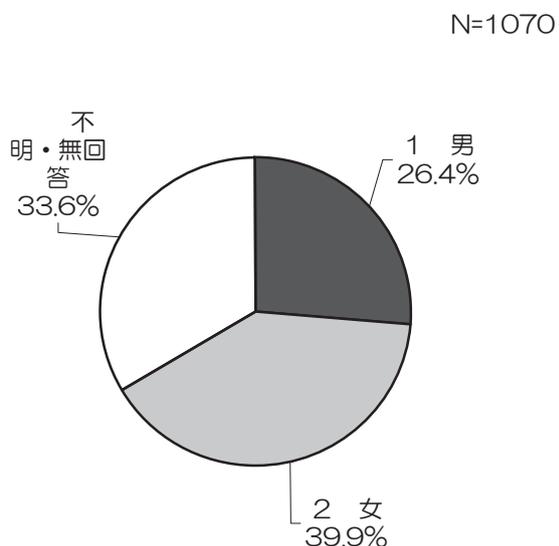
実施会場	京都文化祭典2010オープニングイベント(ゼスト御池)	政策系大学・学生(キャンパスプラザ京都)
実施日	平成22年9月12日	平成22年9月14日
期待(思い)	審議会委員の平井誠一氏の紹介により、京都文化祭典のオープニングイベント(主催:京都文化祭典連絡協議会、共催:社団法人京都青年会議所、協力:ゼスト御池)に来場する、不特定多数の市民などに基本計画策定を知っていただき、パブコメを出していただくため実施した。	政策系学部に所属する大学生から政策提案を行ってもらい、それについてU35のメンバーと議論を行う中で、現在の京都市政や次期京都市基本計画案について意見交換を行いたいと考えた。
ターゲット	<input type="radio"/> A. パブコメの存在を知らない市民、市政に関心のない市民 <input checked="" type="radio"/> B. 市政に関心があるが意見を書かない市民	<input type="radio"/> A. パブコメの存在を知らない市民、市政に関心のない市民 <input checked="" type="radio"/> B. 市政に関心があるが意見を書かない市民
スタイル	<input type="radio"/> A. 攻めのパブコメ <input checked="" type="radio"/> B. 対話のパブコメ	<input type="radio"/> A. 攻めのパブコメ <input checked="" type="radio"/> B. 対話のパブコメ
準備	主催者との事前の打ち合わせ(会場内のレイアウト、スタンプラリー、呈茶券の配布調整、チラシやポスターへの掲出内容)、パブコメに答えてくださった方への御礼グッズ。	政策系大学大学院研究交流大会実行委員長であり、U35メンバーでもある藤川祐輔氏から政策系学部の大学生に呼び掛けてもらい、当日の政策提案をする参加者を募るとともに、事前に基本計画第2次案の概要版を参加者へ渡してもらった。
結果	ゼスト御池の会場内といっても西側の人通りの少ないエリアだったが、スタンプラリーのポイントになっていたためたくさんの方がブースを訪れてくださり、また、パブコメを書いてくださった方へは呈茶券やグッズのプレゼントが行われたため、来場者のパブコメ参加率は高く、思った以上に効果があった。また、書いていただいた意見はパブコメくんのお茶碗のパネルに張り付けていたため、たくさんの方に意見を見てもらうことができた。	当日は4グループが参加し、グループごとに政策提案を行うとともに、U35メンバーとの意見交換を行った。また、政策提案の発表に先立って、京都市総合企画局政策企画室(仲筋係長)から参加者に対して基本計画第2次案について説明が行われた。
考察(評価できる点、こうすればもっと良かった点、苦労した点など)	事前のPRを含め、たくさんの方が来場する予測もあったため、京北町チームと同日開催という不安の中での実施だった。結果的には音博パブコメにつながるパブコメチームの出前パブコメのよい経験になった。呈茶券やグッズの提供などで人手がとられてしまい、あまり対話ができなかったのが残念だった。	大学生が専門的かつ斬新な政策提案を行い、それを基に大学生とU35・京都市職員とが京都市の政策について深い議論・考察をできたことは良かった。 全体時間の制約もあり、1グループあたりの時間が短く、議論が深まりかけたときに、時間切れで次のグループに移らなければならなかったのは残念だった。 また、意見交換はU35側の発言が多く、大学生側からは少なかったため、時間配分や場の雰囲気づくりなど、準備や進行役の配慮などで工夫の余地があった。

実施会場	京都商工会議所青年部	京都音楽博覧会2010(梅小路公園)
実施日	平成22年9月17日	平成22年9月19日
期待(思い)	地元の商工業者の集まりである商工会議所。45歳以下の会員で構成される青年部で出前パブコメを行うことにより、若手商売人の市政に対する意見を求めたいと考えた。	パブコメに人を集めるよりも、より若者が多く集まる場所を出前パブコメをおこなうことが周知につながるのではないかと考えた。また、京都音楽博覧会の開催趣旨などから、京都のこれからのことについて、比較的関心が高い市民が多く集うのではないかと考え、普段なかなか市政の情報が届きにくい、もしくは積極的に情報を得ようとしませんが、問題意識はある層に向けての発信ができるのではないかと考えた。
ターゲット	A. パブコメの存在を知らない市民、市政に関心のない市民 B. 市政に関心があるが意見を書かない市民	A. パブコメの存在を知らない市民、市政に関心のない市民 B. 市政に関心があるが意見を書かない市民
スタイル	A. 攻めのパブコメ B. 対話のパブコメ	A. 攻めのパブコメ B. 対話のパブコメ
準備	商工会議所青年部の事業の一環として取り組むということで、青年部役員会での決議や確認などを行った。(青年部会員の西村から提案・依頼) また、事前にコーディネーター役の山口氏と西村・事務局で打ち合わせを行い、当日青年部との意見交換が活発に出来るよう、準備を行った。また、当日パブコメ終了後の懇親会の設定も行い、懇親が図れるように準備をした。	音博主催団体に、趣旨説明、音博来場者の層などヒアリング。形式、場所等のやりとり(事務局)。手法 基本計画について説明したあと、パブコメフライヤーにそれぞれの意見を書いてもらい、パブコメくんを描いた模造紙に自身の手で貼ってもらう(パブコメでお茶碗をいっぱいにする)形式をとった。書かれた意見をツイッターでパブコメくんがつぶやく形をとった。
結果	当日は基本計画の冊子を配るパブコメ周知、ワークショップ形式のパブコメを実施し、様々な意見が出ました。パブコメ数：60名の結果となった。	総計236人のパブコメが集まった。年齢層は2～30代が多かったが、10歳以下から70代くらいまで幅広く、音博への参加者以外に梅小路公園へやってきた市民の姿も見られた。ツイッター上でも、出前パブコメを紹介するつぶやきが見られた。パブコメくんに貼られた意見を読む若い人たちの姿も見られた。積極的に基本計画のタブロイドや冊子を受け取る若い人の姿もみられた。
考察(評価できる点、こうすればもっと良かった点、苦労した点など)	当初100名の動員を目指していた当日の青年部の参加人数は60名程でしたが、個々のワークショップ・議論が深まり、ちょうど良い規模感の人数だったと思う。また、パブコメ終了後の青年部会員とU35&PTメンバーとの懇親も深まり、その場での交流に終わらない「京都の横の繋がり」が深まる実感が持てたパブコメだった。 今回のパブコメを実施することで参加者は「市政に対して興味を持つ」という段階に至ることが出来たのでは、と考えるが、そこから「市政に対して意見を言う」という段階までスムーズに進めていく努力もまだまだ必要だと感じた。	パブコメを書いてもらったあとのノベルティの効果が高かった。 大きなパブコメくんに自分の意見を貼るという作業は、書いたあとの満足感につながったのではないかと。他にも、複数人でパブコメくんがたくさん意見を貼るという行為が一体感を生み出したのではないかと。 パブコメを書くという行為以外にも、他者の意見を見ることが出来る状態にしたことで、市政の今後や京都の未来に対して、意識づけをおこなうことができたのではないかと。 ツイッターを使っただけの発信は、書いてもらったものを代わりにつぶやくという形になったが、ハッシュタグ等の工夫や、QRコードを読み込めばツイート画面になるなどといった仕組みがあれば、もう少し拡がりをみせられたのではないかと。対話型の出前パブコメに共通しているが、ふだんの行政の施策に対して、何か思うことがある人の「言ったら響く」という体験をすることが、市民の自発的な行動を促す一端となるのではないかと。

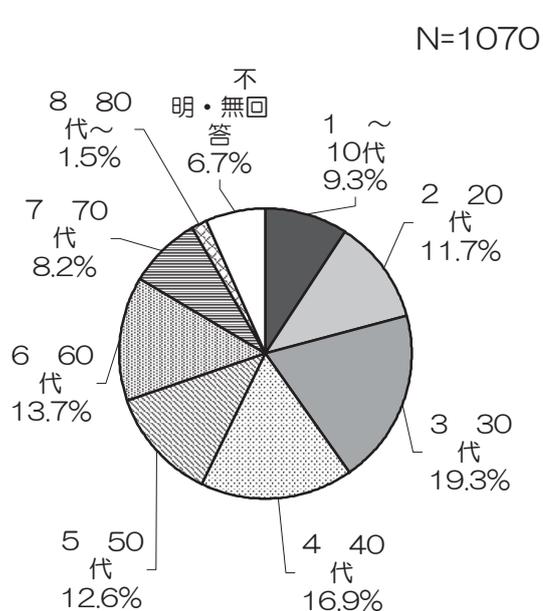
実施会場	まちの縁側「とねりこの家」 (上京区にある「つどいの広場」)	京都市立日吉ヶ丘高等学校
実施日	平成22年9月22日	平成22年9月27日
期待 (思い)	基本計画の中の「子育て」に係るテーマについて掘り下げて吟味するため、実際に「子育て」中の市民からの生の意見を聞き取りたいと思った。また、基本計画の存在を知っていただき、思いがあれば意見することができるのだということを認識していただきたいと思った。	今後10年の、さらに先の未来の京都を担う世代になる学生達に基本計画を周知し、ゼミで「京都」を学習している経験もあることから学生世代のパブコメをいただきたい。
ターゲット	<input type="radio"/> A. パブコメの存在を知らない市民、市政に関心のない市民 <input checked="" type="radio"/> B. 市政に関心があるが意見を書かない市民	<input type="radio"/> A. パブコメの存在を知らない市民、市政に関心のない市民 <input checked="" type="radio"/> B. 市政に関心があるが意見を書かない市民
スタイル	<input type="radio"/> A. 攻めのパブコメ <input checked="" type="radio"/> B. 対話のパブコメ	<input type="radio"/> A. 攻めのパブコメ <input checked="" type="radio"/> B. 対話のパブコメ
準備	事前に基本計画の第2次案の概要版を「とねりこの家」に置かせていただき、来所者に対しての配布と、出前パブコメへの参加について、スタッフの方から呼びかけをしていただいた。	事前に基本計画の概要版冊子とパブコメ記入用紙を、当日参加予定の学生達に配布した。併せて、グループ別ディスカッションを予定していたため、グループ分けアンケートを作成し、学生自身が、興味のあるグループを選んでもらった。当日、各グループを担当するU35メンバーの紹介ペーパーを作成した。
結果	1～2歳児のお母さん8名程の参加があった。スタッフの方も交えて、「子育て」に関わり市政に対して思っていることなどを、座談会形式で出し合っていた。パブコメの記入については、お子さんと一緒の状況では、その場での記入は難しいであろうと考え、後日回収させて頂くこととしたが、残念ながら、用紙への記入という形ではパブコメを回収することができなかった。	1グループの人数が3～4名と少数だったこともあり、終始活発な意見交換ができた。また全体での共有を目的とした発表を各グループの代表者から行われた。実施時間が1時間と短かったため、少々駆け足気味になってしまった。
考察(評価できる点、こうすればもっと良かった点、苦勞した点など)	当初は15名程度の参加を見込んでいたが、少し少ない結果となった。しかし、参加者が少人数であることで対話的なやり取りができ、「子育て」に関する市政への意見をたくさん出していただけたのではと思う。 小さなお子さんと一緒では、会話に集中することが難しい面もあったので、パブコメ中は子どもを気にせず参加できるような工夫が必要だったのではと思った。そうすることで、その場でパブコメを記入していただくことも可能だったのではと思う。	事前の説明、趣旨の理解等の調整をもう少し、密にできればよかったと感じる部分があった。 自分達が学生時代に感じていたこととさほど乖離していないことを実感した。彼女たちの考えや思いを更に引き出し、文章化させる技術が必要と感じた。

京都の未来を考える 食べ物会議 来場者アンケートのまとめ

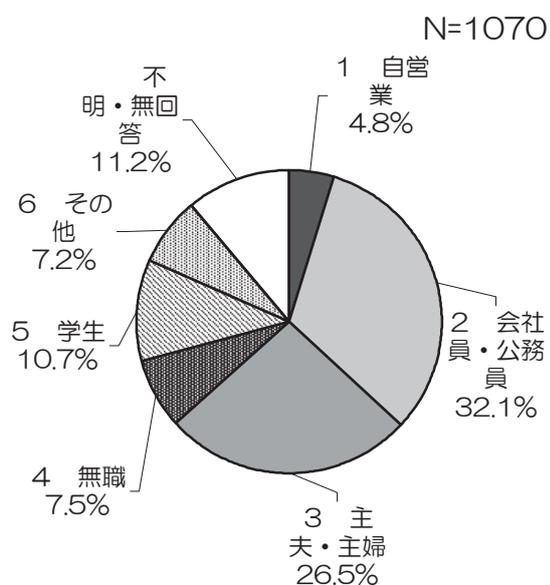
性別



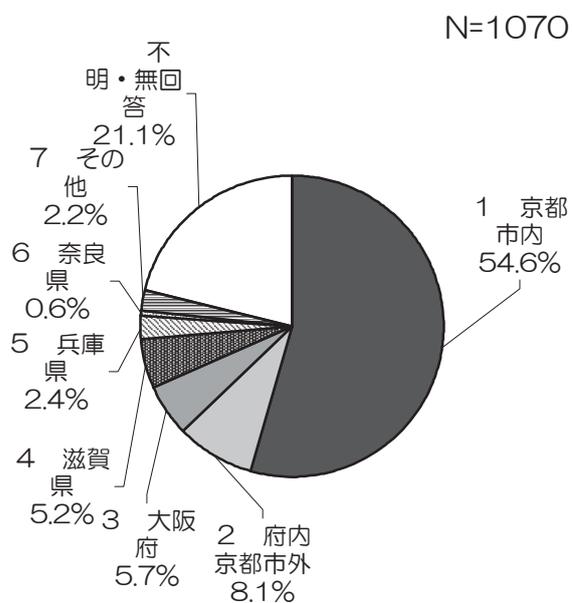
年代



職業

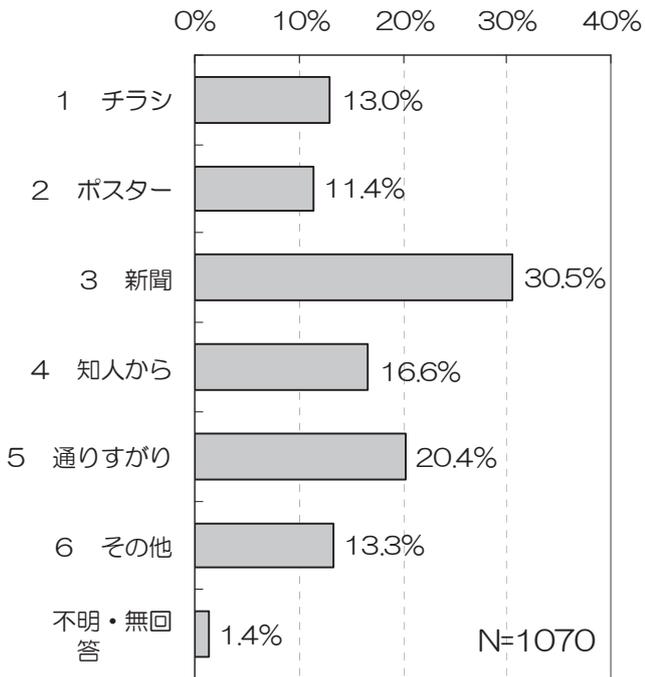


お住まい



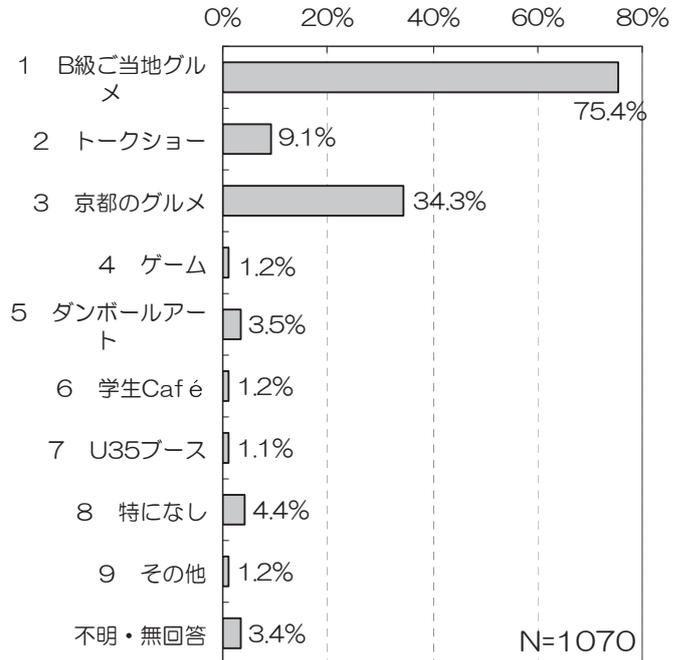
**Q1 このイベントをどこで知りましたか？**

複数回答



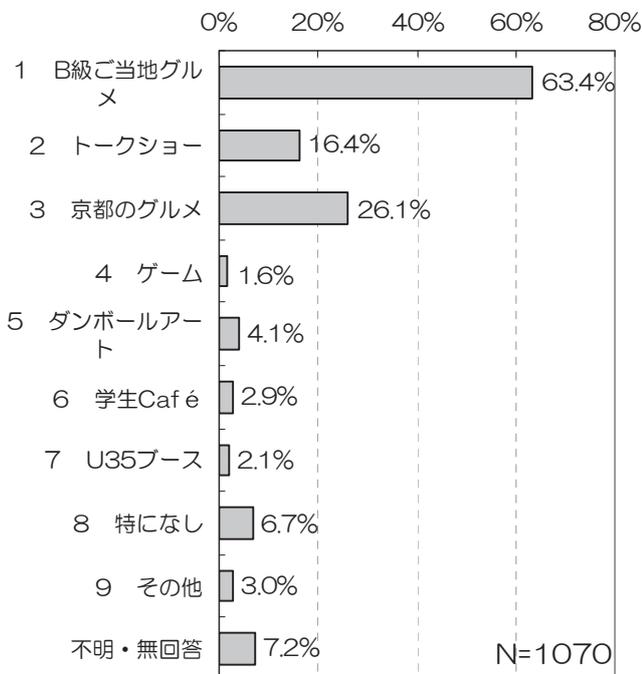
**Q2 このイベントには何を楽しみに来ましたか？**

2つまで回答可能

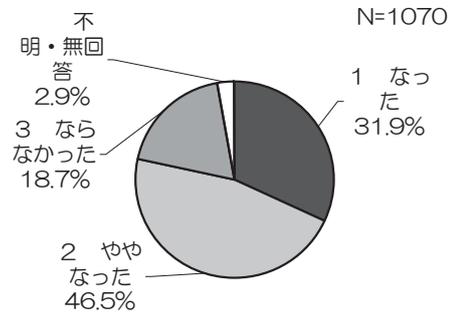


**Q3 このイベントに参加して何が印象に残りましたか？**

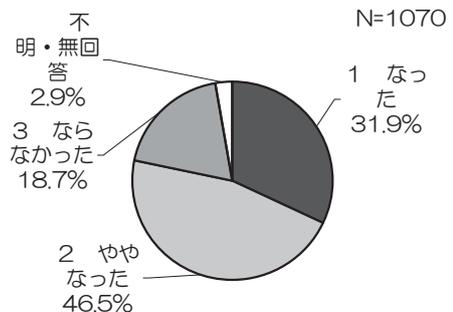
2つまで回答可能



**Q4 このイベントに参加して京都または自分の未来を考えるきっかけになりましたか？**



**Q5 このイベントに参加して京都のまちや地域に対して自分が何かしようと思うきっかけになりましたか？**



## Q6 その他（感想、意見など）

**342人回答（回答率32.0%）、意見総数394件**

### イベントへの評価 119

- 「楽しかった」「ありがとう」「面白かった」等 48
- 「またやってほしい」「回数を増やしてほしい」等 30
- U35メンバーへの感謝等 5
- その他肯定的意見 12
- イベントコンセプトへの意見等 16
- その他イベントへの意見等 8

### 運営について 53

- 「行列の対応が不十分」「会場整理が不十分」等 38
- 「人が多い」「混雑しすぎ」等 15

### 会場について 55

- 「会場が狭い」等 33
- 「食器返却コーナーが遠い」「食器返却コーナーが少ない」等 14
- 「食べる場所がほしい」等 6
- 「ゴミ箱を増やす」等 2

### 食べ物・食べ物ブースについて 136

- 「おいしかった」等 27
- 「B級グルメがよかった」「・・・がおいしかった」等 20
- 「リユース食器がよい」等 4
- 「売り切れが多い」「売り切れが早い」「もっと食べ物を多く」等 57
- 「店が少ない」等 10
- 「食べ物が高い」「ボリュームに疑問」等 9
- 「種類を増やしてほしい」「回転率が悪い」等 9

### 食べ物以外のブースについて 6

- 段ボールアートのブースについて 2
- 「ブースが狭い」等 4

### トークショーについて 3

- 「トークショーがよかった」等 3

### 京都への思いについて 9

- 京都への思い等 9

### その他 13

- その他 13

※ 「○」：肯定的なイメージの意見 「●」：否定的なイメージの意見

## 資料18 U35及びPTメンバーの感想

(誕生日順)

氏名	部隊名	お誕生日	活動において一番楽しかったこと、印象に残ったこと	その他(言いたいこと、将来の展望)	U35/PT
藤田 卓也	パブコメ	1月16日	2009年の忘年会を退蔵院で開かせていただいたとき、アーティストサミットとの連携で疲れ果てて眠る平井くんをみたこと!	京都っていいまちだなー。って思えたのは、いろんな立場のみなさんがベストを尽くそうとするカッコイイ背中を見れたからです。これからもよろしくです!	U35
平塚 一磨	シンポ	1月19日	とにかくU-35に入って、一つ活動範囲がどんどんと現実になっていくのを見て、本当に驚いていました。たとえば、雑用一つにしても、いい緊張感で、臨めたのは一ついい経験ができたと思っています。	とにかく知り合いが増えた!!これを機にもっともっと成長できるように一日一日精進していきたいです!!京都に貢献できる人間に成長できるように頑張っていきたいです。ありがとうございました。	U35
馬場 直子	パブコメ	1月28日	新風館をはじめ、三条商店街、西京高校・・・どのパブコメも各々とっても楽しかったです。	京都市の若者が、みんなU35のような熱い思いをもってくれるような「まち」になるといいな・・・。	PT
木ノ切 芳仁	シンポ、KY	2月1日	どうすんねん京都、食べ物会議のシンポ当日がやっぱり印象的でした。会議終わりの飲みーていんぐです。	これからも宜しくお願いします!	PT
簡 吟馨	パブコメ	2月4日	活動において一番楽しかったことはイベントで皆さんと話したり、他の話を聞いたりすることです。印象に残ったことはU35メンバーの皆様が京都を愛する心です。	将来の展望は香港で働いて日本と海外への架け橋になりたい。	U35
西村 寛和	パブコメ	2月5日	「京都市のこれから」をより身近な立場で考えることができ、新鮮でした・・・。	10年先は、Jrも10歳!僕は42・・・。頑張ります!!	U35
さとうひさゑ	パブコメ	2月20日	音博のパブコメで、意見がみるみるうちに集まったときは感動した。	今回の試みが、パブコメの「京都モデル」になればいいなと思っています。	U35
櫻木 友貴	シンポ	3月2日	シンポジウム本番のU35メンバーの一体感と盛り上がりは、今までに感じたことのないものでした。	U35での出会いは、これからも大切にしていきたいです。10年後も毎日を楽しく、笑って過ごしていきたいと思います。	PT
岸根 郁朗	パブコメ	3月10日	パワーのあるU35のメンバーの皆さんや職員の皆さんと一緒に活動できたことです。	ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。	PT
越村 美保子	パブコメ	4月3日	活動の最中に産んで、子どもたちをととても可愛がってくれるメンバーに恵まれ、子連れで参加できたこと!次世代U35を育てられたこと!	京都を盛り上げる活動をこれからも続けていきたいと思っています。そのためにもまずは自分のやるべきことを今年1年は集中してやる予定です。	U35
井上 葉子	シンポ	4月18日	現在は病气療養中の私ですが、皆様の活動は何処にいても届いて、パワーを感じます。新風館でお揃いのピンクのTシャツを着て、参加出来		U35

氏名	部隊名	お誕生日	活動において一番楽しかったこと、印象に残ったこと	その他（言いたいこと、将来の展望）	U35/PT
			た事、素敵な皆様との出会いに感謝！皆様、お身体大事に、頑張りすぎずに活動して下さい。応援しております。		
竹内 弘一	シンポ	4月30日	イベントにたくさん人が来ていただけて、ドアが開いた瞬間、涙が出た。人をまとめるのは改めて大変だと感じた。でも一生の仲間ができたことに感謝します。	自分が住む街のためにできることは、たくさんある。しかもよその街ではなく、自分の街にできることは、とてもうれしいことだとわかった。	U35
平岡 さつき	パブコメ	5月2日	最後のシンポジウムの後に控え室で飲み出した際、藤川君の恋話で2時間ぐらい保ったのがすごかったです。	もう少し本当の意味で市政を変えていけるような仕組みを作りたいなあと思いました。	U35
高橋 慶行	シンポ	5月6日	新しいことを始めることの難しさ、楽しさを学べた。京都で頑張る人たちと知りあえて、刺激を受けた。	U60まで、何かしら活動したい！（宴を含む）	PT
栃尾 恵梨子	シンポ	5月13日	みんなで話し合った時間が、一番楽しかったです。	将来は、もっと楽しい話ができる、人間になりたいです！	PT
平井 陽	シンポ	5月23日	京都のすてきなみなさんとお会いできたこと。	京都で自由にすごす。（いや、京都じゃないかもしれないけど・・・）	U35
安田 智也	シンポ、セグウェイ	5月31日	ディスカッション後の呑み会です。	U35のような動きが、全体に広がればいいかとおもいます。	U35
川原 ちかよ	シンポ	6月3日	若者会議は、時に大きなストレスにもなりましたが(笑)参加できてよかったです。会議の数だけ宴あり(笑)	そんなコミュニケーションがあったからこそ、本気の議論ができたのだと思います。一つのことには本気で取り組めたこと、10年後どころか、一生続いていくであろう、皆との友情を築けたことが一番の思い出です。	U35
福田 和久	宴、シンポ、KY	6月8日	やっぱり、5月のシンポジウムと1月のイベントかなあ。特に1月のイベントは人を集めなアカンと意気込んで臨み、想像を超える来場者数を記録し大成功を収めることが出来たしなあ。でも、本当の一番は宴です。会議後の小宴から全体の大宴まで。本当に楽しかったです。	皆さん、若者会議U35、PTの任期が切れても宴部隊は続いていますので期待してくださいね。	PT
古川 辰也	パブコメ	6月20日	若い方々といっしょに活動できて、とてもパワーをもらいました。出前パブコメ、定着させたいものです。	このつながりを軸に、細々と活動を続けたいと思っています。	PT
小泉 進	パブコメ	6月27日	職業の枠を超えて、色々な方と議論ができたこと。（途中から離脱してしまいましたが。）	皆さんいい人でした。若手職員として、これからも業務に尽力します。	PT
湯浅 靖代	シンポ、宴	7月14日	仲間ができたこと！ずっと大切にしたいです。	市政に興味を持ち、少しでも関わられた事に感謝します。	U35

氏名	部隊名	お誕生日	活動において一番楽しかったこと、印象に残ったこと	その他（言いたいこと、将来の展望）	U35/ PT
山口 洋典	パプコメ	7月22日	2010年1月12日の第2回総会でのユニット編成が、あっという間に終わったこと。各々の積極性に圧倒されました！	10年に1回の計画づくり、生きているうちに何回その機会に関心を向けられるのでしよう。少なくとも、その時々、このU35の取り組みが充実していたと思い起こされることを願っております。	U35
藤本 清敏	シンポ	9月2日	〇たくさんの素晴らしい仲間に出会えたこと！シンポに向けた日々白熱した会議！！ ×業務との両立ができずに後半参加できなかったこと。	とりあえず、甲府に行きましょう！	PT
深田 雄志	シンポ	9月16日	ユニットでいっぱい会議して、いっぱい雑談したこと。トッチーの結婚式。部隊ミーティングのあと、たくさん飲みに行ったこと。	2020年、活躍しているみんなに会えるのが楽しみです。これからもちょくちょく飲みに行きましょうー！	U35
松田 ゆい	シンポ	9月16日	素敵な出会いがたくさんありました。みんなの思いがフライヤーやイベントとして一つ一つ形になった時はうれしかったです。	わたしなりの方法で、京都のまちや人のためにこれからも動き続けようと思います。まずは一息ですが、まだまだ、頑張りましょう！	U35
ニモ・グラスマン	パプコメ、シンポ、宴	9月18日	I really enjoyed the opportunity to meet so many interesting people united towards the same goal in such a special place.	I think we are only beginning. There is a lot of potential so let's keep working at making Kyoto unique and lively!	U35
笹岡 隆甫	シンポ	9月21日		伝統の若き継承者による「DO YOU KYOTO? ネットワーク」は、2月に東京で初となるステージイベント「DO YOU KYOTO? in 椿山荘」を無事開催することができました。	U35
世古 和希	シンポ	10月2日	毎週の会議！めちゃみんなんで話しあった。	将来は、社会にまったく新しい価値を生み出せる人間になります。	U35
松村 幸裕子	パプコメ	10月21日	パプコメくんが誕生したこと！ 若者が集まってくる場で、パプコメを実施したこと！	とても素敵な縁をいただきました！ 10年後が楽しみです。	U35
野添 幹雄	パプコメ	11月8日	出前パプコメ@三条会商店街&京北 ふと気付くと居る宴	アクティブになる！！	U35
天辰 公彦	パプコメ	11月8日	①我が子ができました。②物事の捉え方や進め方の多様さ。	10年後もU35で。	PT
山本 学義	シンポ	11月17日	活動を通じてたくさんの人に出会い、色々な刺激を受けたこと。	みんなで定期的に集まるといいな！	PT
藤川 祐輔	パプコメ	11月26日	いろいろな先輩方とお付き合いすることができて、とてもきょうな体験ができました。	これからもこのつながりを、大切にしていきたいです。	U35

氏名	部隊名	お誕生日	活動において一番楽しかったこと、印象に残ったこと	その他（言いたいこと、将来の展望）	U35/PT
秋山 翔	シンポ	12月1日	様々な立場の、また様々な考え方を持つ方々のお話を聞くことができたこと。自分とは異なる考え方を持つ方々と出会えて、価値観が広がったように感じました。	京都にはこんなにも熱い志を持った方々がいることを実感しました。立場は違えど、京都を思い、日本全体を思う「若者」の方々の存在は、とてもパワーをもらいました。これから社会にできる私も、熱い志を持ってこれからの社会を牽引していきたいと、この関わりをとおして感じました。ありがとうございます。	U35
松山 大耕	議長	12月4日	会議のあとの飲み会！	すばらしい出会いをありがとうございました。皆様に助けられた1年半でした。	U35
来海 賢一	パブ コメ、KY	12月14日	京北で出前パブコメができたこと。イベントで色々な人に出会ったこと。とりモツ隊とのユニフォーム交換・・・。	子供に見放されないように、しっかりした親になっているはず。	PT
牧澤 憲	シンポ、まゆまる	12月18日	京都で活躍される皆さんと仲良く活動ができたこと。やっぱり色々な人とお話しができたことは自分の財産です。	U35万歳。	PT
中鼻 真華	宴、シンポ	12月20日	みんなに出会えたこと。		U35
鹿村 佳代	シンポ、ジェラート	12月24日	みんなで話していたら、なかなか方向性が定まらなかったけど、みんながいたから新しい取組もできた。集団の力って大きい。	京都市民にもっと京都を好きになってほしい。	PT

未来の担い手・若者会議U35 活動報告書

平成23年3月発行

未来の担い手・若者会議U35

【問い合わせ先】

未来の担い手・若者会議U35事務局

京都市総合企画局政策企画室

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

TEL:075-222-3035 FAX:075-212-2902